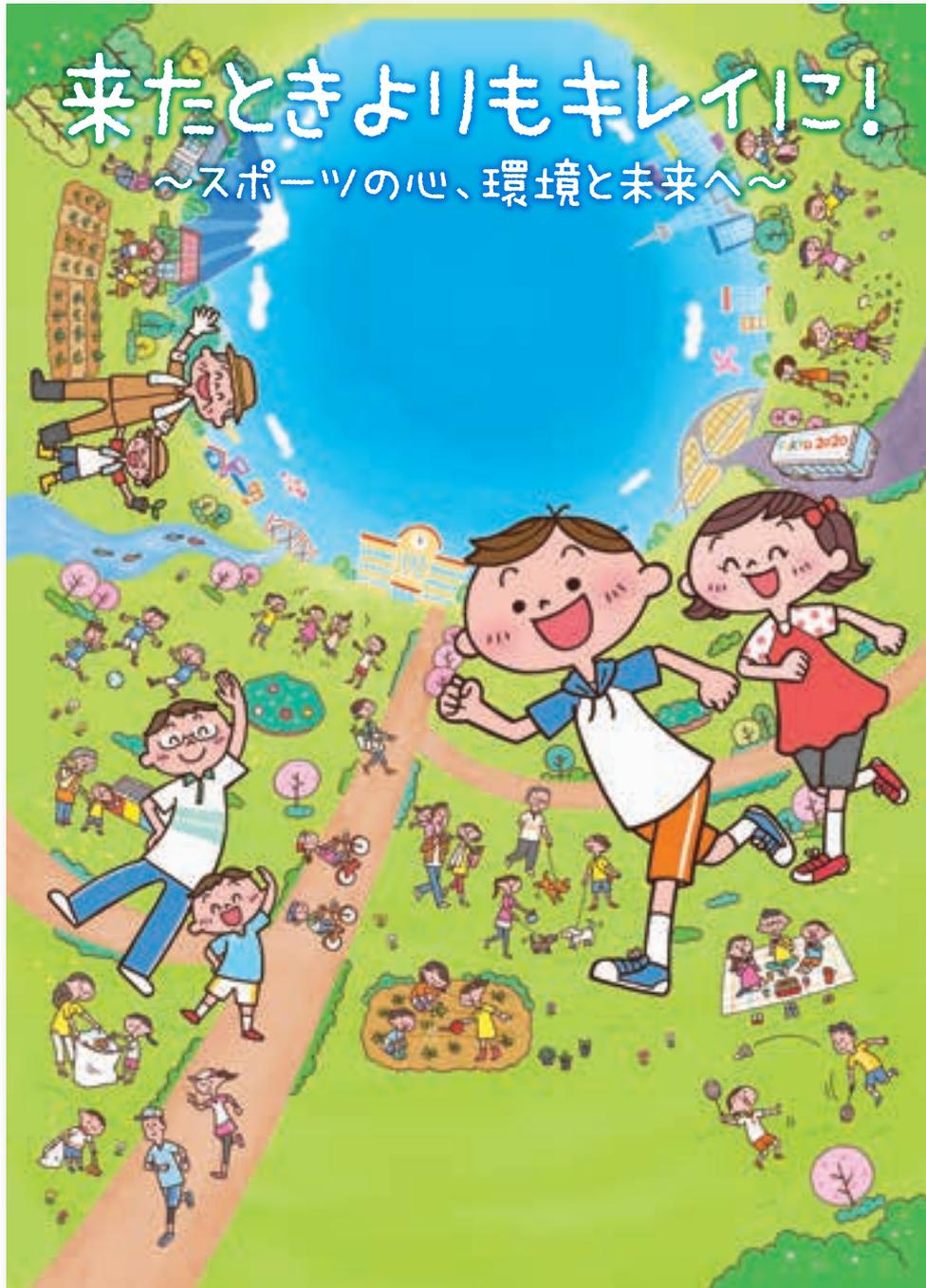


平成 28 年度

JOCスポーツ環境専門部会 活動報告書

JOC SPORT AND ENVIRONMENT COMMISSION REPORT 2016



JAPANESE OLYMPIC COMMITTEE
SPORT AND ENVIRONMENT COMMISSION

公益財団法人 日本オリンピック委員会 スポーツ環境専門部会

平成28年度
JOCスポーツ環境専門部会
活動報告書



スポーツと環境についての啓発活動

Japanese Olympic Committee

環境基本理念

公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)は、オリンピック・ムーブメントを通じ、世界平和運動とスポーツ振興に寄与する目的に基づき、JOC事務所の環境への取り組みを実践し、環境マネジメントシステムの継続的改善を行うことにより地球環境の保全に貢献する。

行動指針

1. JOC事務所において、電力の節減、紙の有効利用などの省資源及び資源リサイクルを推進する。
2. 新たに物品を調達するにあたってはグリーン購入を優先する。
3. 環境に関する法的要求事項及び、その他の要求事項を遵守する。
4. 環境の教育啓発活動の推進によって、全ての職員が環境方針を理解し、その実現に努めるとともに、環境方針を外部にも公表する。

公益財団法人日本オリンピック委員会

会長 竹田 恆和

●第12回JOCスポーツと環境・地域セミナー(東京都: JOCパートナー都市)

開催日: 2016年11月18日(金) / 会場: 東京都庁 都民ホール / 参加人数: 207名

【主催者・共催者挨拶】



松丸喜一郎 日本オリンピック委員会常務理事



岡崎義隆 東京都オリンピックパラリンピック準備局次長

【対談1】



野端啓夫 (コーディネーター)
日本オリンピック委員会 理事
JOCスポーツ環境専門部会部会長



左から、白石隆夫氏、小坂勉氏、田中丈夫氏、吉本譲二氏

【対談1】



左から、藤森涼子氏(気象キャスターネットワーク代表)、
宮下純一(コーディネーター)JOCスポーツ環境専門部会員



左から、上田藍選手、富澤慎選手、皆川賢太郎選手

【集合写真】



【会場風景】



●第13回JOCスポーツと環境・担当者会議(総務委員会フォーラム)

開催日：2017年2月14日(火)／会場：味の素ナショナルトレーニングセンター／参加人数：50名(全体101名)



野端啓夫 スポーツ環境専門部会部会長／JOC理事



野末泰樹 三井不動産株式会社
オリンピック・パラリンピック室 室長

【グループディスカッション】



各班でのディスカッション



各班でのディスカッション



各班からの発表



会場全体の風景

●オリンピックデーラン

開催期間：2016年6月12日(日)～11月27日(日)／会場：全国9会場／参加人数(のべ)：18,392名



(太田大会)



受付にポスターを掲示(新潟大会)



クリアーホルダーを配布(長野大会)

●オリンピックデー・フェスタ

開催期間：2016年7月2日(土)～2017年2月26日(日)／会場：全国18会場／参加人数：1,992名



(フェスタin岩泉)



(フェスタin郡山)

(公財)日本陸上競技連盟

Japan Association of Athletics Federation

●第47回ジュニアオリンピック陸上競技大会

第100回日本選手権リレー

会期：2016年10月28日(金)～30日(日)／会場：神奈川県・日産スタジアム



表彰式後のフォトセッションでの写真撮影。
男子共通ジャベリックスロー 1位～3位入賞者

●本連盟事務局内でのポスター掲示



本連盟会議室／打ち合わせスペース入口に掲示

●第41回全日本競歩能美大会

会期：2017年3月19日(日)／会場：石川県・能美市営20kmコース



表彰式後のメディア向けフォトセッション



ウェルカムデスクでのポスター掲示



大会開催コースでのバナー掲示

●第72回びわ湖毎日マラソン大会

会期：2017年3月5日(日)

会場：滋賀県大津市皇子山陸上競技場



環境キャンペーン広報ポスター



花の苗・種の配布ブース



リユース体験ブース



資源ゴミ分別スペース

(公財)日本水泳連盟

Japan Swimming Federation

●第92回日本選手権(OWS競技)

会期：2016年9月25日(日)／会場：東京都・お台場海浜公園



環境横断幕を囲んでのフォトセッション



ビーチクリーン活動を実施

●ジャパンオープン2016

会期：2016年5月20日(金)～22日(日)

会場：東京辰巳国際水泳場



環境横断幕を掲示

●第92回日本選手権水泳競技大会(シンクロ競技)

会期：2016年4月29日(金)～5月1日(日)

会場：東京辰巳国際水泳場



環境横断幕を掲示

●水泳の日2016

会期：2016年8月14日(日)／会場：東京辰巳国際水泳場



「水泳の日」でスタンプラリーを実施。
会場の子どもたちを楽しみながら標語を覚えてもらった



スタンプラリーのゴール

(公財)日本サッカー協会

Japan Football Association

●ベガルタ仙台 マイナビベガルタ仙台レディース地域清掃活動

会期：2017年3月4日(土)

会場：宮城県・泉中央地区(ホームスタジアム)周辺



●町田ゼルビア まち☆クリ〜町田クリーンアップ作戦〜

会期：2016年10月23日(日)

会場：東京都・町田市内



●レノファ山口 ごみ減量化キャンペーンへの協力宣言

会期：2016年5月13日(金)

会場：山口県庁 知事室



山口県のゴミ減量化や食品ロス削減活動への協力

●SC相模原 リユースカップ導入

会期：2017年3月13日(日)

会場：神奈川県・相模原ギオンスタジアム



●ガイナレ鳥取 鳥取砂丘除草活動

会期：2016年7月31日(日)／会場：鳥取県・鳥取砂丘



●日本サッカー協会 ONE GOALキャンペーン

会期：2016年7月31日(日)／会場：茨城県・ケーズデンキスタジアム



水戸ホーリーホック・ユース選手も啓発活動に協力

(公財)全日本スキー連盟

Ski Association of Japan

●執行部において啓発活動を行っている



写真左より、古川年正専務理事、
登山一成常務理事、
菱沼信夫副会長、
成田収平常務理事、
北野貴裕会長、
皆川賢太郎常務理事、
宮沢賢一事務局長

(公財)日本テニス協会

JAPAN TENNIS ASSOCIATION

●第91回 三菱全日本テニス選手権

会期：2016年10月22日(土)～30日(日)／会場：東京都・有明コロシアム 有明テニスの森公園



●松岡スポーツ環境委員による 環境メッセージポスター



●Baby Steps 環境ポスター



●JTAホームページで「JTA環境 保全基本方針」を紹介



(公社)日本ボート協会

Japan Rowing Association

●オリンピックが教えるボート教室

会期：2017年3月19日(日)～20日(月・祝) 会場：福井県美浜町・久々子湖ボートコース



レクチャーの様子



エルゴを使用したボート漕法の個別指導



●セーフティアドバイザー講習会

会期：2017年2月5日(日) 会場：岐阜県川辺町・川辺漕艇場



(公社)日本ホッケー協会

Japan Hockey Association

●第35回全日本大学ホッケー王座決定戦

会期：2016年6月30日(木)～7月3日(日)

会場：奈良県・親里ホッケー場、大阪府・立命館ホリーズスタジアム



環境ポスターを掲示

●第46回全日本中学生ホッケー選手権大会

会期：2016年8月20日(土)～22日(月)

会場：秋田県羽後町・多目的運動広場



大会風景

●第14回全日本マスターズホッケー大会

会期：2016年9月3日(土)～4日(日)

会場：北海道・道立野幌総合運動公園人工芝ホッケー場



環境ポスターを掲示

●第71回国民体育大会ホッケー競技大会

会期：2016年10月6日(木)～10日(月)

会場：岩手県・岩手町ホッケー場、岩手町総合グラウンド



会場に環境バナーを掲示

●第17回全日本中学生都道府県対抗11人制ホッケー選手権大会

会期：2016年11月12日(土)～13日(日)

会場：福井県・県立ホッケー場、越前町営朝日総合運動場



競技会場に環境ポスターを掲出

●第48回全国高等学校選抜ホッケー選手権大会

会期：2017年3月25日(土)～29日(水)

会場：岐阜県・川崎重工ホッケースタジアム



(公財)日本バレーボール協会

Japan Volleyball Association

●2016リオデジャネイロオリンピック バレーボール世界最終予選兼アジア大陸予選大会

会期：2016年5月14日(土)～22日(日)、5月28日(土)～6月5日(日)／会場：東京都・東京体育館



大会会場における環境バナーの掲出



大会本部における環境ポスターの掲示とゴミの分別回収

●ジャパンビーチバレーボールツアー第4戦マイナビシリーズ(Ⅱ)

会期：2016年7月1日(金)～3日(日)

会場：東京都・お台場海浜公園おだいばビーチ



ビーチバレーボール大会会場における環境バナーの掲出

●平成28年度全国高等学校総合体育大会男子バレーボール大会

会期：2016年7月29日(金)～8月2日(火)

会場：山口県・維新百年記念公園スポーツ文化センター ほか



大会会場における環境バナーの掲出

●ファミリーマートカップ第36回全日本小学生大会

会期：2016年8月9日(火)～12日(金)

会場：東京都・東京体育館、町田市立総合体育館 ほか



小学生選手達と環境啓発バナー

●平成28年度天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権大会 ファイナルラウンド

会期：2016年12月16日(金)～18日(日)、24日(土)、25日(日)

会場：東京都・東京体育館、大田区総合体育館



大会会場入り口における環境啓発ポスターの掲示

(公財)日本体操協会

Japan Gymnastics Association

●第70回全日本体操競技選手権大会

会期：2016年4月1日(金)～3日(日)
会場：東京都・代々木第一体育館



大会会場に環境バナーを掲出

●第70回全日本体操競技種目別選手権大会

会期：2016年6月4日(土)～5日(日)
会場：東京都・代々木第一体育館



大会会場に環境バナーを掲出

●2016全日本ジュニア体操競技選手権大会

会期：2016年8月12日(金)～17日(水)
会場：神奈川県・横浜文化体育館



大会会場に環境バナーを掲出

●第70回全日本体操競技団体選手権大会

会期：2016年11月11日(金)～13日(水)
会場：東京都・代々木第一体育館



大会会場に環境バナーを掲出

●第69回全日本新体操選手権大会

会期：2016年11月25日(金)～27日(日)
会場：東京都・代々木第一体育館



大会会場に環境バナーを掲出

●各種大会プログラムへ環境啓発ポスター掲載



(公財)日本バスケットボール協会

JAPAN BASKETBALL ASSOCIATION

●女子日本代表 第1次強化合宿

会期：2016年4月10日(日)～20日(水)／会場：東京都・味の素ナショナルトレーニングセンター



練習会場内にて環境バナーの掲出
[波嘉敷来夢選手 JX-ENEOSサンフラワーズ所属]



練習会場内にて環境バナーの掲出
[リオオリンピックでメダル獲得を目指す選手たち]

●男子日本代表 第2次強化合宿

会期：2016年4月18日(月)～19日(火)

会場：東京都・味の素ナショナルトレーニングセンター



練習会場内にて環境バナーの掲出[田臥勇太選手 栃木ブレックス所属]

●U-18男子日本代表 第4次強化合宿

会期：2016年6月23日(木)～27日(月)

会場：東京都・味の素ナショナルトレーニングセンター



練習会場内にて環境バナーの掲出

●第92回天皇杯・第83回皇后杯 全日本総合バスケットボール選手権大会

会期：2017年1月2日(月・祝)～9日(月・祝)／会場：東京都・国立代々木競技場第1体育館ほか



大会プログラムに環境ポスターを掲載

(公財)日本スケート連盟

Japan Skating Federation

●第41回全日本スプリントスピードスケート選手権大会

会期：2016年12月28日(水)～29日(木)／会場：長野県長野市・長野市オリンピック記念アリーナ(エムウェーブ)



大会役員(実施本部にて)



選手通路

●JOCジュニアオリンピックカップ大会 第85回全日本フィギュアスケートジュニア選手権大会

会期：2015年12月4日(日)～6日(火)／会場：北海道札幌市・札幌市月寒体育館



観客席、ジャッジ席



選手宣誓

●第84回全日本スピードスケート選手権大会

会期：2016年12月20日(火)～21日(水)／会場：北海道帯広市・明治北海道十勝オーバル



大会レフェリー(競技役員控室前通路)



選手ラウンジ

(公財)日本アイスホッケー連盟

Japan Ice Hockey Federation

●第84回全日本アイスホッケー選手権大会

会期：2016年12月16日(金)～18日(日)／会場：長野県長野市・ビッグハット



環境ポスター等を囲む選塚会長(右)と植木副会長(左)



選塚会長、植木副会長も率先して資源ごみの分別作業を行った

●ピョンチャンオリンピック女子最終予選

会期：2017年2月9日(木)～12日(日)

会場：北海道苫小牧市・白鳥王子アイスアリーナ



会場にバナー「この星にスポーツを」を掲示

●第72回国体冬季大会アイスホッケー競技会

会期：2017年1月27日(金)～31日(火)

会場：長野県岡谷市・やまびこスケートの森アイスアリーナ



環境ポスター「来たときよりもきれいに」の前でほほ笑む岡谷市の小学生たち

●全国植樹祭記念行事「岡谷県民植樹」会場

会期：2016年5月28日(土)／会場：長野県岡谷市・湊地区「本沢川上流」



植樹活動に参加したスマイルジャパンの選手2名と岡谷バスターズの選手たち



カエデやヤマボウシなどを植えている床亜矢可選手と岡谷バスターズの選手

(公財)日本レスリング協会

Japan Wrestling Federation

●平成28年度 ジュニアクイーンズカップ選手権大会

会期：2016年4月2日(土)～3日(日)
会場：東京都・駒沢オリンピック公園総合運動場体育館
参加人数：182団体・511名



試合風景

●平成28年度 第33回全国少年少女選手権大会

会期：2016年7月22日(金)～24日(日)
会場：東京都・国立代々木競技場第一体育館
参加人数：204クラブ・1,592名



会場全景

●平成28年度 東京都知事杯 第7回全国中学選抜選手権大会

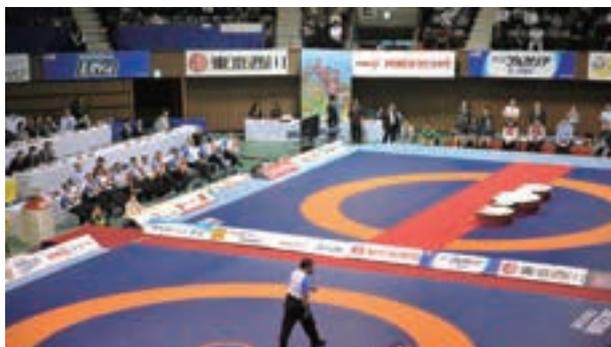
会期：2016年11月26日(土)～27日(日)
会場：東京都・駒沢オリンピック公園総合運動場体育館
参加人数：170クラブ・553名



試合風景

●平成28年度 天皇杯・全日本選手権大会

会期：2016年12月21日(水)～23日(金・祝)
会場：東京都・国立代々木競技場第二体育館
参加人数：329名



会場全景

●平成28年度 第21回全国少年少女選抜選手権大会

会期：2017年3月11日(土)～12日(日)
会場：東京都・板橋区立小豆沢体育館
参加人数：126クラブ・351名



審判員の皆さん

●2016エリートキャンプ

会期：2017年2月3日(金)～6日(月)
会場：青森県・八戸市立武道場
参加人数：40名



スポーツと環境について座学講習

(公財)日本セーリング連盟

JAPAN SAILING FEDERATION

●江ノ島オリンピックウィーク

会期：2016年10月13日(木)～16日(日)／会場：神奈川県・江の島



●第71回 国民体育大会2016希望郷いわて国体

会期：2016年10月2日(日)～5日(水)

会場：岩手県・宮古



ビーチクリーン活動



トリプルエコバッグワークショップを開催

●ルイ・ヴィトン・アメリカズカップ・ワールドシリーズ福岡大会

会期：2016年11月18日(金)～20(日)／会場：福岡県・地行浜



大会に向け周辺海域のゴミ拾いを実施

(公社)日本ウエイトリフティング協会

Japan Weightlifting Association

●第71回国民体育大会(ウエイトリフティング競技会)

会期：2016年10月1日(土)～10月5日(水)
会場：岩手県奥州市・江刺中央体育館



リオオリンピック代表高尾選手



リオオリンピック代表中山選手

●選手・役員もゴミの分別収集に協力



三宅義行会長

●第72回国民体育大会ウエイトリフティング競技 リハーサル大会

会期：2016年11月19日(土)～23日(水)
会場：愛媛県新居浜市・市民文化センター



開会式



八木かなえ選手

●第53回全日本社会人ウエイトリフティング選手権大会

会期：2016年11月19日(土)～23日(水)
会場：愛媛県新居浜市・市民文化センター



優勝の自衛隊体育学校

●レディースカップ

第8回全日本女子選抜ウエイトリフティング選手権大会

会期：2016年11月19日(土)～23日(水)
会場：愛媛県新居浜市・市民文化センター



団体優勝(一般)の金沢学院大学

(公財)日本ハンドボール協会

JAPAN HANDBALL ASSOCIATION

●第21回ジャパンオープンハンドボールトーナメント

会期：2016年8月6日(土)～9日(火)

会場：愛媛県松山市・総合コミュニティセンター体育館



●第71回国民体育大会

会期：2016年10月6日(土)～10日(月)

会場：岩手県花巻市・総合体育館



●ANA CUP 第41回日本ハンドボールリーグプレーオフ(男子)

会期：2017年3月18日(土)、19日(日)／会場：東京都・駒沢体育館



左から、山下泉特別顧問、多田博副会長、齋藤健衆議院議員、渡辺佳英会長、安西孝之元日体協会長ご夫妻、川原貴前JISSセンター長、市原則之元JOC副会長



ダグルシングルドソン男子代表監督

●ANA CUP 第41回日本ハンドボールリーグプレーオフ(女子)

会期：2017年3月25日(土)、26日(日)

会場：熊本県・アクアドームくまもと



●環境啓発ポスターのプログラム掲載



第18回全日本ビーチハンドボール選手権大会、高松宮記念杯第6回全日本社会人ハンドボール選手権大会、第41回日本ハンドボールリーグ、第25回JOCジュニアオリンピックカップ、第12回春の全国中学生ハンドボール選手権大会

(公財)日本自転車競技連盟

JAPAN CYCLING FEDERATION

●第3回寛仁親王メモリアルワールドグランプリ(トラック競技国際大会)

会期：2016年7月8日(金)～7月10日(日)

会場：静岡県伊豆市・日本サイクルスポーツセンター・伊豆ベロドローム



選手ピットエリアへのポスター掲示

●第41回チャレンジサイクルロードレース大会

会期：2016年4月3日(日)

会場：静岡県伊豆市・日本サイクルスポーツセンター・5kmサーキット



イベントエリアへのバナー掲示

(公財)全日本軟式野球連盟

JAPAN RUBBER BASEBALL ASSOCIATION

●高松賜杯第60回全日本軟式野球大会2部

会期：2016年10月14日(金)～17日(月)

会場：栃木県・宇都宮清原球場



開会式での掲出の様子

●高円宮杯第36回全日本学童軟式野球大会

マクドナルド・トーナメント

会期：2016年8月7日(日)～13日(土) 会場：東京ドームホテル



監督主将会議での掲出の様子

●中古用具の寄贈



寄贈用具の収集状況



アルゼンチンの子どもたちへボール等の中古野球用品を寄贈

(公財)日本ソフトテニス連盟

Japan Soft Tennis Association

●平成28年度定時評議員会

会期：2016年6月12日(日)
会場：東京都品川区・アワーズイン阪急



加盟団体を代表する評議員により定時評議員会が開催された。環境・教育プロジェクトより活動内容が報告され、マナーチェックシートを紹介し、活用を促した

●男子第61回・女子第60回全日本実業団選手権大会

会期：2016年7月29日(金)～31日(日)
会場：愛媛県・今治市営スポーツパークテニスコート 他



大会会場にて横断幕掲示。会場内にてゴミ分別や持ち帰りなどを励行

●日本スポーツマスターズ2016

会期：2016年9月24日(土)～26日(月)
会場：秋田県大館市・高館公園テニスコート



大会会場にて横断幕掲示。会場内にてゴミ分別や持ち帰りなどを励行

●第71回天皇賜杯皇后賜杯全日本ソフトテニス選手権大会

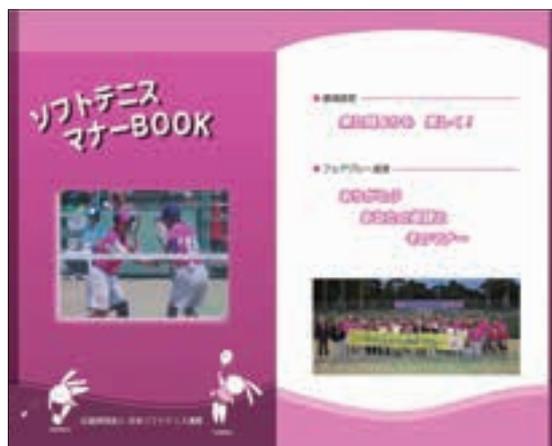
会期：2016年10月21日(金)～23日(日)
会場：山口県・宇部マテ「フレッセラ」テニスコート



大会会場にて横断幕掲示。会場内にてゴミ分別や持ち帰りなどを励行

●ソフトテニスマナー BOOK

配布先：全加盟団体、都道府県ソフトテニス連盟等



ソフトテニスマナーBOOK表紙及び裏表紙
裏表紙には(公財)日本ソフトテニス連盟環境・フェアプレー横断幕の標語の「環境宣言」来たときよりも美しく!「フェアプレー宣言」ありがとう あなたの笑顔と そのマナーを記載



ソフトテニスマナーBOOKの中からの抜粋
P13「監督・コーチ」P17「本部・役員のマナー」
上記以外にもP9「選手」のところで「ペットボトルやゴミは持ち帰り、ゴミを出さないようにしましょう。」等を記載

(公財)日本卓球協会

Japan Table Tennis Association

●第83回全日本大学総合卓球選手権大会

会期：2016年10月27日(木)～30日(日)／会場：長野県・長野市真島総合スポーツアリーナ



会場内ポスター掲出
男子シングルス丹羽孝希選手(明治大学)



会場内ポスター掲出
女子シングルス成本綾海選手(同志社大学)

●天皇杯・皇后杯 平成28年度全日本卓球選手権大会 (一般・ジュニアの部)

会期：2017年1月16日(月)～22日(日)／会場：東京都・東京体育館



体育館正面入り口 大会パネル



卓球用品 不用品回収 再利用活動の様様

●平成28年度全国高等学校選抜卓球大会

会期：2017年3月25日(土)～28日(火)／会場：大阪府・大阪市中央体育館



大会プログラムに環境広告掲載

(公社)日本馬術連盟

Japan Equestrian Federation

●第37回全日本ヤング総合馬術大会2016

会期：2016年5月27日(金)～29日(日)

会場：東京都・JRA馬事公苑



●第40回全日本ジュニア障害馬術大会2016

会期：2016年7月29日(金)～8月1日(月)

会場：静岡県・御殿場市馬術スポーツセンター



●機関誌「馬術情報」への環境ポスター掲載



●大会パンフレットへの環境ポスター掲載



(公財)全日本弓道連盟

All Nippon Kyudo Federation

●平成28年度 地連会長会議・研修会

会期：2016年11月29日(火)～30日(水)／会場：東京都渋谷区・全日本弓道連盟中央道場



公益財団法人全日本弓道連盟 会長 柴田猛 挨拶

(公社)日本フェンシング協会

FEDERATION JAPONAISE D'ESCRIME

●第69回全日本フェンシング選手権大会

会期：2016年12月1日(木)～4日(日)／会場：東京都・駒沢オリンピック公園総合運動場体育館



体育館入口



会場2階客席扉にポスター掲示



会場2階席／ペットボトル・缶・可燃ゴミの分別

●国立スポーツ科学センター練習場



フェンシング道場内／練習時間外の節電

(公社)日本カヌー連盟

JAPAN CANOE FEDERATION

●平成28年度日本カヌースプリントジュニア選手権大会

会期：2016年8月19日(金)～22日(月)／会場：山梨県・精進湖カヌー競技場



湖畔清掃



会場清掃

(公財)全日本柔道連盟

All Japan Judo Federation

●全日本選手権大会

会期：2016年4月29日(金・祝) 会場：東京都・日本武道館



横断幕の掲示



ゴミの分別収集を励行

●平成28年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会

会期：2016年11月12日(土)～13日(日)／会場：千葉県・千葉ポートアリーナ



大会プログラムへのポスター広告の掲載



横断幕の掲示

●平成28年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会

会期：2016年9月10日(土)～11日(日)

会場：埼玉県立武道館



ポスターの掲示

●全日本柔道連盟 事務局受付



事務局受付にてポスターを掲示

(公財)日本ソフトボール協会

Japan Softball Association

●第49回日本女子ソフトボールリーグ

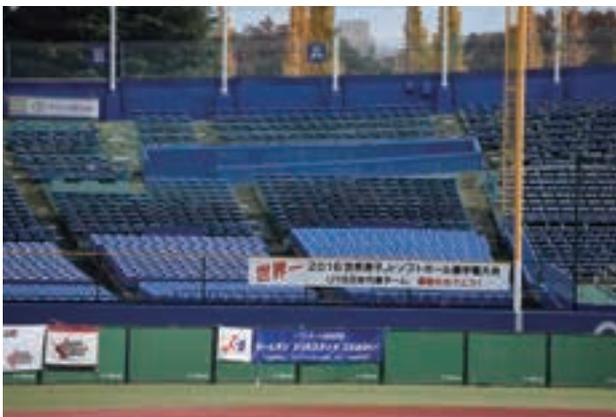
会期：2016年4月16日(土)～17日(日)
2016年11月26日(土)～27日(日)
会場：全国20会場（開幕節：千葉県千葉市・QVCマリンフィールド、
決勝トーナメント：東京都新宿区・明治神宮球場）



開幕節(QVCマリンフィールド)でライト側フェンスに設置した環境標語バナー



全国各地の会場に環境標語バナーを設置(豊橋市民球場)



全国各地の会場に環境標語バナーを設置(明治神宮球場)

●第37回全日本クラブ男子選手権大会

会期：2016年7月30日(土)～8月1日(月)
会場：富山県富山市・岩瀬スポーツ公園



環境ポスターをデザインした大会案内を作成し、関係者、来場者に配布

●第16回全日本中学生男女大会

会期：2016年8月12日(金)～14日(日)
会場：大阪府大阪市・舞洲運動広場



会場の場内外でゴミの分別収集を実施

●公益財団法人 日本ソフトボール協会 事務局



クールビズ、ウォームビズ、紙の削減やごみの分別廃棄、エアコンのこまめな温度調整、ファイルの再利用を心掛けている

(公財)日本バドミントン協会

Nippon Badminton Association

●第66回全日本実業団大会

会期：2016年6月29日(水)～7月3日(日)
会場：福井県・勝山市体育館他／参加人数：1,200名



左から銭谷欽治専務理事、山口茜選手(再春館製薬所女子団体優勝)、綿貫民輔会長、山岸正裕勝山市市長

●リオデジャネイロオリンピック

会期：2016年8月11日(木)～20日(日)
会場：ブラジル・リオデジャネイロ市



高橋礼華・松友美佐紀組(優勝:金メダル)



大会プログラムに環境活動ポスター掲載



奥原希望選手(女子3位:銅メダル)

●平成28年度全日本総合バドミントン選手権大会

会期：2016年11月28日(月)～12月4日(日)
会場：東京都渋谷区・代々木第二体育館／参加人数：450名



左から銭谷欽治専務理事、綿貫民輔会長、福田達夫副会長



女子複 決勝戦(手前:高橋礼華選手、後:松友美佐紀選手)

(公社)日本ライフル射撃協会

National Rifle Association of Japan

●平成28年度全日本社会人ライフル射撃競技選手権大会

会期：2016年9月10日(土)～11日(日) 会場：愛媛県・内子町



●第4回全日本小学生ライフル射撃競技選手権大会

会期：2016年8月28日(日)

会場：東京都北区・国立スポーツ科学センター



●第71回国民体育大会(ライフル射撃競技)

会期：2016年10月2日(日)～5日(水)

会場：岩手県・八幡平市田山射撃場



環境PR

(公財)日本ゴルフ協会

JAPAN GOLF ASSOCIATION

●R&Aサステナビリティ・セミナー

会期：2017年3月13日(月)

会場：神奈川県・横浜カントリークラブ／参加者：約250名



講師の皆さん。左より、スティーブ・アイザック氏、マイカ・ウッズ氏、ポール・ジャンセン氏、ビル・クーア氏、田中丈夫氏、ドミニク・ウォール氏、ジョナサン・スミス氏

●第26回日本シニアオープンゴルフ選手権

会期：2016年9月15日(木)～18日(日)

会場：千葉県・習志野カントリークラブ



上記大会に加え、第49回日本女子オープンゴルフ選手権(9/29～10/2、栃木県)、第81回日本オープンゴルフ選手権(10/13～16、埼玉県)等の会場において、ゴミの分別収集を行った

(一財)全日本剣道連盟

All Japan Kendo Federation

●第64回全日本剣道選手権大会 決勝戦

会期：2016年11月3日(木)
会場：東京都・日本武道館



●平成28年度全日本少年少女武道(剣道)錬成大会

会期：2016年7月23日(土)～24日(日)
会場：東京都・日本武道館



●環境ポスターの掲示



北の丸事務所の入口

●リサイクルボックスの設置



北の丸事務所のリサイクルボックス

●中古剣道具の活用



剣道具製造職人さんによる胴の補修



剣道具製造職人さんによる面の補修

(公社)日本近代五種協会

Modern Pentathlon Association of Japan

●第4回近代3種日本選手権in千葉 兼JOCジュニアオリンピックカップ

会期：2016年9月4日(日) 会場：千葉県・生命の森リゾート



大会参加者集合写真



環境ポスターの掲示



1.スィム2.射撃3.ランニング=フィニッシュ風景



鉛弾・フロンガスを使わない環境にやさしいエアースポーツガンを使用



大会受付にポスター掲示



会場内にてゴミの分別を実施

(公財)日本ラグビーフットボール協会

JAPAN RUGBY FOOTBALL UNION

●ジャパンラグビートップリーグ2016-2017年間表彰式

会期：2017年1月15日(日)

会場：東京都・セルリアンタワー東急ホテル



トップリーグ選手代表としてキャノンイーグルス和田拓選手より網走市の森林保全活動「TRY for GREEN」プロジェクト寄附金を水谷洋一網走市長へ寄託



リーグ戦通算100トライ達成により北海道網走市の植林活動に大いに貢献したパナソニックワイルドナイツ北川智規選手、坂本専務理事との表彰写真



トップリーグ年間ベストフィフティーン
リーグ戦のトライにより「TRY for GREEN」プロジェクトにも貢献

●2016年リオオリンピック 7人制ラグビー

会期：2016年8月

会場：ブラジル・リオデジャネイロ



男子・女子7人制ラグビー日本代表選手団



女子日本代表「サクラセブズ」メンバー



男子日本代表4位入賞メンバー

(公社)日本山岳・スポーツクライミング協会

Japan Mountaineering and Sports Climbing Association

●IFSCクライミング・ワールドカップ

会期：2016年4月23日(土)～24日(日)
会場：埼玉県・加須



●IFSCクライミング・ワールドカップ重慶大会

会期：2016年4月30日(土)～5月1日(日)
会場：中国・重慶



●ジュニア登山教室in立山

会期：2016年8月17日(水)～20日(土)
会場：富山県・立山



●第40回記念自然保護委員総会

会期：2016年9月3日(土)～4日(日)
会場：東京都・国立代々木オリンピック記念青少年総合センター



●IFSCクライミング・世界選手権大会パリ2016

会期：2016年9月14日(水)～18日(日)
会場：フランス・パリ



●IFSC世界ユース選手権大会広州2016

会期：2016年11月7日(月)～13日(日)
会場：中国・広州



(公社)全日本アーチェリー連盟

ALL JAPAN ARCHERY FEDERATION

●全日本小中学生アーチェリー選手権大会

会期：2016年6月25日(土)～26日(日)
会場：岡山県備前市・備前市総合運動公園



大会終了後、参加者全員でバナーと撮影

●国民体育大会アーチェリー競技

会期：2016年10月7日(金)～9日(日)
会場：岩手県栗石町・栗石町総合運動公園



競技の合間に環境の啓発

●全日本社会人ターゲット選手権大会

会期：2016年6月18日(土)～19日(日)／会場：埼玉県宮代町・はらっパーク宮代



会場正面にバナーを掲示



本部テントにポスター掲示

●全日本ターゲットアーチェリー選手権

会期：2016年10月21日(金)～23日(日)
会場：静岡県掛川市・つま恋多目的広場



試合開始前に環境標語を掲示板に標示

●全日本室内選手権大会

会期：2017年3月11日(土)～12日(日)
会場：北海道札幌市・北海きたえーる



弓具検査の場所でポスター掲示

(公財)全日本空手道連盟

JAPAN KARATEDO FEDERATION

●日本空手道会館内の様子



館内は最小限の明かりにとどめる



EVの節約を呼びかけるポスター



エアコンの設定温度に関するポスター



冬は上着を着て節電に努めた

●大会プログラムや大会会場で環境ポスターの掲示



全日本大会での環境ポスターの掲示

●ナショナルチームも環境活動に協力



世界大会でのナショナルチームのゴミ拾いが個人のSNSで賞賛を受けた



全日本大会プログラムへの掲載

(公社)全日本銃剣道連盟

ALL JAPAN JUKENDO FEDERATION

●第47回全日本青年銃剣道大会

会期：2016年8月4日(木)／会場：東京都・日本武道館



大会プログラムにポスターを掲載



●第16回全日本短剣道大会

会期：2017年2月12日(日)／会場：東京都・日本武道館



大会プログラムにポスターを掲載



(公社)日本ボディビル・フィットネス連盟

Japan Bodybuilding & Fitness Federation

●第27回ジャパンオープン選手権大会

会期：2016年8月7日(日)
会場：長野県上田市



大会会場で環境標語横断幕(バナー)を掲出

●指導員講習会

会期：2017年2月18日(土)～19日(日)
会場：東京都北区・国立スポーツ科学センター



会場内に環境ポスターを掲出

(公財)全日本ボウリング協会

JAPAN BOWLING CONGRESS

●協会事務局



各スイッチ盤近くにポスターと注意書きを貼付



●JOCジュニアオリンピックカップ 第40回全日本高校ボウリング選手権大会

会期：2016年8月1日(月)～3日(水)／会場：神奈川県・川崎グランドボウル



左から男子優勝者・高木遼介選手、女子優勝者・水谷若菜選手



大会プログラムに啓発用広告を掲載

●平成28年度第4回理事会

会期：2017年3月17日(金)

会場：愛知県・稲沢グランドボウル



会場内にポスターを掲示

●平成28年度JBC公認第3種審判員認定会

会期：2016年4月16日(土)～17日(日)

会場：愛知県・稲沢グランドボウル



会場内にポスターを掲示

(一財)全日本野球協会

Baseball Federation of Japan

●第98回全国高等学校野球選手権大会

会期：平成28年8月7日(日)～21日(日)
会場：兵庫県・阪神甲子園球場



日本高等学校野球連盟竹中雅彦事務局長

●第3回WBSC U-15ワールドカップ

会期：2016年7月29日(土)～8月7日(月)
会場：福島県・いわきグリーンスタジアム



プログラムに環境ポスターを掲載

●アオダモ植樹キャンペーン2016

会期：2016年9月24日(日)
会場：北海道・由仁町道有林



植樹の参加者

●アオダモ植樹キャンペーン2016

会期：2016年10月1日(日)
会場：北海道・新冠国有林



植樹風景

●第41回全日本クラブ野球選手権大会

会期：2016年9月2日(金)～5日(月)
会場：埼玉県・西武プリンスドーム



プログラムに環境ポスターを掲載

(公社)日本カーリング協会

JAPAN CURLING ASSOCIATION

●第10回全農日本ミックスダブルスカーリング選手権大会

会期：2017年3月1日(水)～5日(日)
会場：北海道・アドヴィックス常呂カーリングホール



優勝チームの小笠原選手と阿部選手

●第34回全農日本カーリング選手権大会(男女)

会期：2017年1月30日(火)～2月5日(日)
会場：長野県・軽井沢アイスパーク



オリンピック出場を決めた男子代表チーム

●カーリング選手も環境活動を応援



20年ぶりにオリンピック出場を決めた日本男子代表の山口選手



信州チェアカーリングチームの斎藤さん

●2017冬季アジア札幌大会

会期：2017年2月18日(土)～26日(日)
会場：北海道・どうぎんカーリングスタジアム



海外の選手へ分別ごみの案内をイラストで実施

(公社)日本トライアスロン連合

Japan Triathlon Union

●2016年JTU主要大会で参加選手に
Green Triathlon バッグ配布・会場掲出



●グリーントライアスロンin横浜

会期：2016年4月16日(土)
会場：神奈川県・山下公園



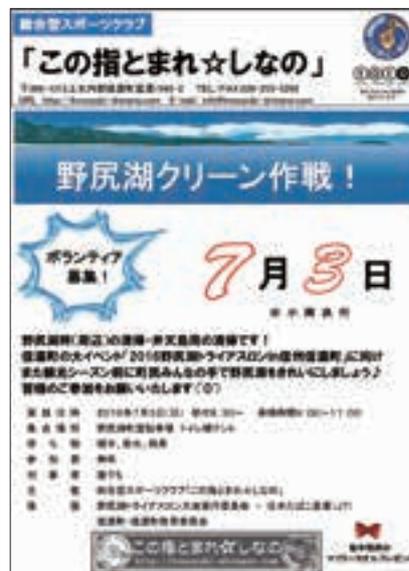
開会宣言



海底から回収されたゴミ

●野尻湖クリーン作戦!

会期：2016年7月3日(土) / 会場：長野県・野尻湖畔



(公社)日本スカッシュ協会

Japan Squash Association

●第27回全日本アンダー23選手権大会

会期：2016年6月4日(土)～5日(日)／会場：埼玉県・さいたまスカッシュスタジアムSQ-CUBE



高校生、大学生が参加する大会。目立つところに環境ポスター。分別を忘れずに



選手みんなでアピール

●第45回全日本スカッシュ選手権大会

会期：2016年11月17日(木)～20日(日)／会場：神奈川県・横浜スカッシュスタジアムSQ-CUBE



女子初8連覇を果たした女子チャンピオン小林海咲選手



最年少優勝から3連覇した男子チャンピオン机龍之介選手。ウイナーズタオルにエコマーク

●JOCジュニアオリンピックカップ 第21回全日本ジュニアスカッシュ選手権大会

会期：2017年3月26日(日)～29日(水)／会場：神奈川県・横浜スカッシュスタジアムSQ-CUBE



会場内に環境ポスターを掲出



大会パンフレットに環境ポスターを掲載

(一社)全日本テコンドー協会

All Japan Taekwondo Association

●第9回全日本ジュニアテコンドー選手権大会

会期：2016年7月31日(日)／会場：長野県・松本市総合体育館 メインアリーナ



表彰台左右に環境啓蒙ポスター



開会式:牧野環境委員長から環境啓発活動の呼びかけ

●第10回全日本学生テコンドー選手権大会

会期：2016年9月4日(日)

会場：岐阜県羽島市・体育館 かんぼの宿



開会式:牧野環境委員長から環境啓発活動の呼びかけ

●第10回全日本テコンドー選手権大会

会期：2017年1月22日(日)

会場：愛知県体育館



開会式:牧野環境委員長から環境啓発活動の呼びかけ

(一社)日本セパタクロー協会

JAPAN SEPAKTAKRAW FEDERATION

●平成28年度第26回全日本セパタクロー選手権大会

会期：2016年12月17日(土)～18日(日)／会場：東京都世田谷区・駒沢公園体育館



駒澤体育館正面入り口に掲示して、選手が観客にゴミの持ち帰り等をアピール
左から水戸一希選手、寺島武志選手
(所属:阪神酒販Dee'sTC)



試合風景



選手練習会場に環境ポスターを掲示

(公社)日本ダンススポーツ連盟

Japan DanceSport Federation

●2016ダンススポーツグランプリin大阪

会期：2016年4月17日(日)
会場：大阪府・不死王閣



JOC環境横断幕を背景に表彰式

●世界ダンススポーツ選手権ユース・スタンダード2016

会期：2016年7月9日(土)
会場：福岡県・北九州市立総合体育館



JOC環境横断幕を背景に開会式入場行進

●平成28年度理事会

会期：2017年2月26日(日)／会場：当連盟ダンススポーツトレーニングセンター(DTC)



スクリーン脇に環境ポスターを掲示(理事会)



環境ポスターの前で理事集合写真

(特非)日本クリケット協会

Japan Cricket Association

●佐野Cricket Blast

会場：栃木県佐野市・国際クリケット場



環境ポスターを掲示し、ゴミの分別収集を呼びかけ

(一社)日本バイアスロン連盟

Japan Biathlon Federation

●第26回東日本バイアスロン競技大会

会期：2017年1月27日(金)～29日(日)／会場：岩手県八幡平市・田山バイアスロン競技場



大会の競技風景



競技会内のゴミ分別状況

●ミニバイアスロン競技富山南砺大会

会期：2017年3月4日(土)～5日(日)／会場：富山県南砺市・タカンボースキー場内上平バイアスロン会場



●ミニバイアスロン競技倶知安大会

会期：2017年3月12日(日)／会場：北海道虻田郡倶知安町・旭ヶ丘会場



(一社)日本サーフィン連盟

Nippon Surfing Association

●NSA SURFERS BEACH CLEAN ACT2016

会期：2016年9月11日(日)、18日(日)／会場：全国のサーフポイント120カ所



静岡県 静波海岸



福井県 三国サンセットビーチ



岡山県／鳥取県 浦富海岸



茨城県 波崎海岸



長野県 百川海岸



沖縄県 スーサイドポイント

(一社)日本カバディ協会

JAPAN KABADDI ASSOCIATION

●男子カバディワールドカップ2016報告会

会期：2016年10月23日(日)／会場：東京都・国立オリンピック記念青少年総合センター



男子W杯報告会

●第27回全日本カバディ選手権大会

会期：2015年10月22日(土)～23日(日)／会場：東京都・国立オリンピック記念青少年総合センター



女子試合



男子試合1



男子試合2



男子試合3

(公社)日本アメリカンフットボール協会

JAPAN AMERICAN FOOTBALL ASSOCIATION

●「三菱電機杯 第71回毎日甲子園ポウル」地域美化推進活動“Clean Up Action”」

会期：2016年12月18日(日)午前8:00～午前11:30 / 会場：選手権会場「阪神甲子園球場」周辺 8駅



地域美化推進活動参加者(阪神電車今津駅前)



ゴミ拾い・清掃活動(阪神電車今津駅前商店街)



ゴミ拾い・清掃活動(写真は立命館大学学生)



阪神甲子園球場でゴミを集積し処分した(最終地点)

(公社)日本チアリーディング協会

Foundation of Japan Cheerleading Association

●第10回チアリーディング アジア インターナショナル オープン チャンピオンシップ 第3回アジア ジュニア チアリーディングチャンピオンシップ

会期：2016年5月14日(土)～15日(日)
会場：東京都・国立代々木競技場 第一体育館



会場内ポスター掲示

●JAPAN CUP 2016チアリーディング日本選手権大会

会期：2016年8月26日(金)～28日(日)
会場：東京都・国立代々木競技場 第一体育館



会場内バナー掲示



大会パンフレットに環境広告を掲載



環境ポスターを手に記念撮影をする大学部門優勝チーム

●事務室内掲示



事務局内に環境ポスターを掲示



環境ポスターを手に記念撮影をする社会人部門優勝チーム

(公社)日本オリエンテーリング協会

Japan Orienteering Association

●青い森 縄文の丘 2Days オリエンテーリング大会

会期：2016年10月8日(土)～9日(日)／会場：青森県



会場各所に環境ポスターを掲示

●第25回全日本リレーオリエンテーリング大会

会期：2016年11月6日(日)／会場：岩手県八幡平市



大会会場に環境ポスターを掲示



大会プログラムに環境ポスターを掲載

●第37回早稲田大学オリエンテーリング大会

会期：2017年2月19日(日)／会場：神奈川県相模原市



大会会場に環境ポスターを掲示

(公社)日本パワーリフティング協会

Japan Powerlifting Association

●大会におけるPR活動

会期：2016年度／会場：各地



全日本大会及び地方大会等において、ポスターを掲示し、環境美化についてPR

●スポーツ博覧会

会期：2016年10月8日(土)～9日(日)／会場：東京都小金井市・小金井公園



100名を超える方々にパワーリフティング競技を紹介し、魅力をPR

●スポーツ庁鈴木長官表敬訪問

会期：2016年6月21日(火)／会場：東京都スポーツ庁



ベンチプレス世界選手権入賞選手が鈴木大地長官を表敬訪問

(一社)日本フライングディスク協会

JAPAN FLYING DISC ASSOCIATION

●2016蒲郡ビーチアルティメット&ディスクフェスティバル IN LAGUNA

会期：2016年10月22日(土)～23日(日) / 会場：愛知県蒲郡市・ラグーナビーチ



大会参加者全員でビーチクリーン活動を実施

●2016熱海ビーチアルティメット大会

会期：2016年10月1日(土)～2日(日) / 会場：静岡県熱海市・熱海サンビーチ



フライングディスクを使ってゴミを集める選手たち

●各大会会場での環境ポスター掲示



(公財)日本体育協会

Japan Sports Association

●生涯スポーツ・体力づくり全国会議2017 —人・スポーツ・未来—

会期：2017年2月3日(金)／会場：宮城県仙台市・仙台サンプラザホール・ホテル



会場入口付近に掲示。参加者に対し環境保全を喚起

●第14回全国スポーツ少年団バレーボール交流大会(福井県)

会期：女子 2017年3月25日(土)～28日(火)

男子 2017年3月25日(土)～27日(月)

会場：福井県内各会場(写真は開会式会場のサンドーム福井)



会場入口付近に掲示。参加者に対し環境保全を喚起

(特非)日本オリンピック・アカデミー

Japan Olympic Academy (JOA)

●JOAセミナー

会期：2016年5月29日(日)／会場：東京都・明治大学駿河台キャンパス



登壇者の皆さん



会場壁面掲示

●JOAオリンピック・レクチャー 027

会期：2016年5月29日(日)／会場：東京都・明治大学駿河台キャンパス



会場風景

●第39回JOAセッション

会期：2016年12月11日(日)／会場：東京都・立教大学池袋キャンパス



会場前面



登壇者の皆さんとJOA笠原会長、同荒井専務理事

平成 28 年度 スポーツ環境専門部会活動報告書

JOC Sport and Environment Commission Report 2016

■写真によるスポーツ環境の啓発活動報告	2
Photographic Report of Activities on Sport and Environment	

本文目次・Contents

1. スポーツ環境専門部会活動の 意義について	57
Objective of the JOC Sport and Environment Commission	
2. 第 12 回 JOC スポーツと環境・ 地域セミナー開催報告	58
Report of the 12th JOC Regional Seminar on Sport and Environment	
3. 第 13 回スポーツと環境担当者会議 開催報告	61
Report of the 13th JOC National Sport Federations Conference on Sport and Environment	
4. スポーツ環境保全、啓発・ 実践活動状況について	63
Issues Regarding Awareness and Implementation Activities	
(1) 各競技団体等の活動	64
Activities of the JOC affiliated NFs and organizations	
(2) JOC スポーツ環境専門部会員の活動	114
Activities of the member of JOC Sport and Environment Commission	
(3) スポーツと環境に関するアンケート集計結果について	116
Results of the Questionnaire Regarding Environmental Activities of NFs	
(4) スポーツと環境についてのレクチャー原稿	119
Lecture draft on Sport and Environment	

5. IOC 持続可能性と レガシー委員会について	127
IOC Sustainability and Legacy Commission	
6. 東京 2020 オリンピック・ パラリンピックに向けた取組み	128
Activity for TOKYO 2020 Olympic/Paralympic Games	
7. 関連資料	133
References	
(1) JOC スポーツ環境活動者一覧	133
JOC Activities Person of Sport and Environment	
JOC スポーツ環境専門部会	133
JOC Sport and Environment Commission	
本会加盟団体（スポーツ環境担当者）	134
National Federation	
(2) IOC 持続可能性とレガシー委員会	137
IOC Sustainability and Legacy Commission	
(3) OCA スポーツと環境委員会	137
OCA Sport and Environment Committee	
(4) IOC スポーツ環境委員会小史	138
Brief History of the IOC Sport and Environment Commission	
(5) JOC スポーツ環境専門部会小史	139
Brief History of the JOC Sport and Environment Commission	
(6) オリンピック・アジェンダ 2020 20 + 20 の提言（抜粋）	140
IOC OLYMPIC AGENDA 2020	

1

JOCスポーツ環境専門部会活動の意義について

Objective of the JOC Sport and Environment Commission

『啓発活動から環境保全活動へ』

2016年度（平成28年度）の公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）スポーツ環境専門部会の活動に対し、ご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

2016年度の環境専門部会の主な活動は、異常気象や自然災害の原因となっている地球温暖化に危機感を持ち、スポーツを楽しめる環境を50年後、100年後の子供たちに残すために環境保全の啓発に取り組んで参りました。

その一環として、「来たときよりもキレイに！」という環境保全ポスターを各競技大会のパンフレットに掲載してもらい指導者・アスリートの皆さんに環境に対して興味を持ち、エネルギー・資源の節減やゴミの分別など、できることから実行して行こうと訴えてきました。JOCでは地球環境保全のスポーツ界における啓発・実践活動の必要性を理解してもらい、実践の協力を呼びかける事を目的として毎年、環境・地域セミナーを開催しています。

この「来たときよりもキレイに！」というポスターのフレーズには、単純に「キレイにしましょう！」ということではなく、「スポーツの未来を考え、今の環境を大切にしていこう！」というスポーツを通じた持続可能な社会作りへの大きなメッセージが込められています。

具体的な環境活動の事例としては、スポーツ施設の照明や冷暖房の調整による節電、ゴミの分別などがあります。環境貢献として中古ボールやラケット等のリユース活動、植樹活動、競技場周辺の清掃活動などが挙げられます。

以上のような「スポーツ環境の啓発活動」から、もう一步脱皮して来る2020東京オリンピック・パラリンピックに向け毎年ステップアップし、スポーツを通じて地球環境・地域環境の大切さを発信していきたいと念じています。

2016年度中に環境専門部会にて次の3点のツールの完成に至りました。

- ①アスリートによる地球環境危機動画として環境省が製作、JOCが協力した映像を各競技会場で流し、環境保全の啓発に取り組む。
- ②各競技団体にて行われている指導者研修会の場にて、指導者に対して「スポーツと環境」の研修を実践してもらうためのレクチャー原稿を作成。
- ③オリンピック・パラリンピック等経済界協議会との連携を深め、「KEEP THE STADIAM CLEAN」（競技会場美化活動）や「カーボンオフセット」の活動を広げていく。

2017年度は、東京2020大会を目指し、東京都・環境省・民間団体・JOCが一体となり啓発活動から更に一步突っ込んだ環境保全活動を推進していきたいと考えます。



公益財団法人日本オリンピック委員会
スポーツ環境専門部会
部会長 野端 啓夫

2

第12回JOCスポーツと環境・地域セミナー開催報告

Report of the 12th JOC Regional Seminar on Sport and Environment

■開催概要

1. 趣 旨：公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）は、平成13年度からスポーツ環境専門部会を設置し、環境に係わる啓発・実践活動を推進している。その活動のひとつとして、第12回JOCスポーツと環境・地域セミナーをJOCパートナー都市の東京都で開催。本セミナーでは、東京都を中心としたスポーツ関係者の皆様とともに、スポーツ界における地球環境保全の必要性について改めて考え、その活動をどのように実践に移していくかを一緒に学ぶことを目的に実施する。
2. 主 催：公益財団法人日本オリンピック委員会
3. 共 催：東京都（JOCパートナー都市）
4. 後 援：スポーツ庁、環境省、公益財団法人日本体育協会、公益財団法人東京都体育協会、一般社団法人東京都スポーツ推進委員協議会、一般社団法人東京都レクリエーション協会
5. 日 時：平成28年11月18日（金） 13:30～17:00
6. 場 所：東京都庁 都民ホール（東京都新宿区西新宿二丁目8番1号都議会議事堂1階）
7. 参加者：JOC、東京都、日本体育協会、東京都体育協会、東京都スポーツ推進委員協議会、東京都レクリエーション協会の関係者及び加盟団体、スポーツ関係団体、JOCパートナー都市 他 207名
8. プログラム：

- 13:30 開会 主催者挨拶
松丸 喜一郎 JOC 常務理事／総務委員長
岡崎 義隆 東京都オリンピック・パラリンピック準備局次長
- 13:45 対談1「スポーツに関連した環境に関する取組」～東京2020大会に向けて～
白石 隆夫 環境省総合環境政策局総務課長
小坂 勉 東京都オリンピック・パラリンピック準備局
総合調整部計画担当課長
田中 丈夫 （公財）東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
持続可能性部長
吉本 譲二 株式会社アシックス CSR・サステナビリティ部長
コーディネーター：野端 啓夫 JOC スポーツ環境専門部会長／理事
- 15:00 休憩
- 15:15 対談2「スポーツと環境の関わり」
上田 藍 オリンピアン トライアスロン
富澤 慎 オリンピアン セーリング
皆川賢太郎 オリンピアン スキー
藤森 涼子 NPO 法人 気象キャスターネットワーク代表（気象予報士）
コーディネーター：宮下 純一 JOC スポーツ環境専門部会部会員／オリンピック
- 16:45 閉会の挨拶
野端 啓夫 JOC スポーツ環境専門部会部会長／理事
- 17:00 閉会

■セミナー概要

JOC パートナー都市である東京都の東京都庁都民ホールで「第12回 JOC スポーツと環境・地域セミナー」を開催。本セミナーは、東京都を中心としたスポーツ関係者とともに、スポーツ界における地球環境保全の必要性について改めて考え、その活動をどのように実践に移していくかを一緒に学ぶことを目的に行われ、今年度は、都内のスポーツ関係者など207名が参加した。

はじめにセミナー開催にあたり、主催者を代表して松丸喜一郎 JOC 常務理事／総務委員長が「昨今、地球温暖化がますます加速し、気象や自然環境への影響はスポーツ界にとっても他人事ではない切実な問題となっております。こうした中、東京2020大会をあと4年後に控えた東京都において、地球環境保全の必要性について改めて考えることは大変意義深いことであると考えております」と開会の挨拶。続けて開催地を代表して岡崎義隆東京都オリンピック・パラリンピック準備局次長は、リオデジャネイロオリンピックで視察した競技施設の再利用や余った食材のフードロス対策をはじめ、過去大会での環境問題を参考しつつ東京2020大会に向けて準備していることを報告。「東京都は2020年のオリンピックに向けて、環境をはじめ、あらゆる分野で東京を進化させ、都民生活の質の向上と持続的な成長を実現させていく、そのようなハードとソフトのレガシーを遺し、私たちにとって真の成功に結び付けていきたいと思っています」と述べた。

●対談1「スポーツに関連した環境に関する取組」

対談1では「スポーツに関連した環境に関する取組」～東京2020大会に向けて～をテーマに、環境省の白石隆夫総合環境政策局総務課長、東京都オリンピック・パラリンピック準備局の小坂勉 総合調整部 計画担当課長、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の田中丈夫持続可能性部長、株式会社アシックスの吉本讓二 CSR・サステナビリティ部長がパネリストとして登壇。野端啓夫 JOC スポーツ環境専門部会長／理事がコーディネーターとして進行し、それぞれの立場から東京2020大会に向けた環境に関する取組を紹介した。

まず、環境に配慮した大会運営という観点から、田中部長が東京2020組織委員会の運営計画を説明。組織委員会では環境保全を「持続可能性（サステナビリティ）」という言葉を用いており、例えば「都市鉱山（都市でゴミとして廃棄される小型家電などに含まれている金、銀、銅などの資源）からメダルを作る計画は、鉱山から鉱物を取り出すこともないので、環境や社会的にも配慮したまさに持続可能性の象徴です」と紹介。そして、持続可能性には大きく分けて「環境」「経済」「社会」という3つの要素があり、この3つが持続可能な発展を支えるトリプルボトムラインであると補足。それを踏まえたうえで、組織委員会では（1）気候変動（ローカーボンマネジメント）、（2）資源管理、（3）大気・水・緑・生

物多様性、（4）人権・労働・公正な事業慣行等への配慮、（5）参加・協働、情報発信（エンゲージメント）の5つを主要テーマに持続可能性に配慮した運営計画を作っていると報告した。

続けて、東京2020大会を契機として環境対策を推進するという観点から、環境省の計画・取り組みを同省の白石課長が紹介。環境省では、東京2020大会に際して考えるべき「環境問題」として、（1）低炭素社会づくり、（2）良好な大気環境、水環境の維持、（3）ヒートアイランド・熱中症対策、緑化、（4）資源の循環の推進、を挙げて、それぞれについて、環境省が呼びかけているCOOL CHOICE（低炭素型の「商品」・「サービス」の購入、賢い省エネ行動など、温暖化防止につながる「賢い選択」を推進する国民運動）の推進や皇居外苑濠の水質改善事業など、取り組み状況を説明。一方で白石課長は、個人的に気になったこととして、東京マラソンで発生した雨具や紙コップなどのゴミ問題を紹介。「環境を考えるとと言っても、結局はひとり一人の行動の積み重ねだと思います。こうしたことを呼びかけていかないと共感生まれませんのではないか」と、環境問題に対する各個人の行動、心がけに対して注意を促した。

次に、東京2020大会後のレガシーを見据えてという観点から、小坂課長が、東京都の計画と取り組みを説明。東京都としては2020年に向けた取り組みを一過性のもので終わらせるのではなく、「大会後にも東京にポジティブなレガシーを遺していくことが大変重要なことと考えております」と紹介。東京都は大会後のレガシーとして8つのテーマを掲げており、その中の1つとして環境に配慮した持続可能な大会への取り組みがあること、またそれを通じて東京自体が豊かな都市環境を後の世代に遺していくことを大きな目的としている点、そのための施策として水素社会の実現への取り組みなどを説明。

また東京都は、若者にどのように環境の重要性を教えるかという取り組みも重要と考えており、オリンピック・パラリンピック教育を進めていくことが先述したレガシーのテーマの1つに取り上げられています。都内の小学校・中学校・高等学校では東京都が作製したオリンピック・パラリンピック学習読本を通じて、環境問題の学習がすでに進められていることも小坂課長から報告した。

対談1の最後は、民間における環境の配慮という観点から、

株式会社アシックスの計画と取り組みについて同社の吉本部長が紹介。商品、材料、工場と、それぞれにおける持続可能性の施策を説明。アシックスではサステナビリティの活動をするにあたって、同社の一番の主体であるランニングシューズの製造から廃棄にいたるまでのライフサイクルを研究。その結果、一足あたりのCO₂排出量が14kg、そのうち材料の調達と製造の段階で排出するCO₂が最も大きいことが判明。そこで同社は、様々なCO₂削減策を打ち出し、機能を保ったままCO₂排出量を20%削減したシューズの開発に成功。さらに、植物に由来した材料であるバイオマスを使用しシューズ製造が進められていることが報告され、吉本部長は「2020年に向けて、将来的にはバイオマスの比率を100%に近づけていけるように努力しています」と目標を掲げ、工場においても電気の削減、熱放射の削減など様々なエネルギー削減プロジェクトが実施されていると説明した。

すべての発表と質疑応答の後、野端スポーツ環境専門部会長は「スポーツを楽しめる地球環境を50年後、100年後の子供たちに残すには、それぞれの立場や観点は違いますが、国、東京都、組織団体、民間団体、そして我々スポーツ関係者が同じ方向を向いて協力することが重要になってくると、改めて感じました」と感想を述べた。

●対談2「スポーツと環境の関わり」

対談2では、「スポーツと環境の関わり」をテーマに、トライアスロンの上田藍選手（北京・ロンドン・リオデジャネイロオリンピック出場）、セーリングの富澤慎選手（北京・ロンドン・リオデジャネイロオリンピック出場）、スキー・アルペンの皆川賢太郎選手（長野・ソルトレークシティ・トリノ・バンクーバーオリンピック出場）の3名のオリンピックがパネリストとして登壇。同じくオリンピックでJOCスポーツ環境専門部会員の宮下純一さん（水泳・競泳、北京オリンピック出場）がコーディネーターとして進行し、それぞれの競技経験などから、「スポーツと環境の関わり」についてディスカッションを行った。

前半では各オリンピックが自身の競技やオリンピックに関するエピソードを紹介。室内プールで行われる競泳選手だったことから「各国での環境の変化をあまり感じることがない」という宮下さんに対し、富澤選手は「海の中の糸一本でも順位が変わる」、皆川選手は「天候、雪質が国によって全然違う」と、まさに自然との戦いでもある競技と環境の密接な関わりを、自身の体験をもとに説明。一方、上田選手は千葉県手賀沼の環境活動を紹介。1970年代には汚染度ナンバーワンの沼と呼ばれていた手賀沼で、トライアスロンの大会を開催したいと願う地域の人たちが、水質改善活動に30年以上努め、ついに2006年、大会を開催できるようになった事例を挙げた。環境保全の面では、日本セーリング連盟も積極的に海の環境保全運動を行っており、「色々と言われていたリオの水

質問題ですが、一方ではビーチにはゴミ1つ落ちていなかった。僕たちも見習わなければいけない」と富澤選手。皆川選手は「雪が資源なんです」と力を込めると、地球温暖化により年々、ヨーロッパでも氷河が溶けてきていることに危機感を募らせていた。

対談2の後半では、気象予報士でNPO法人気象キャスターネットワーク代表の藤森涼子さんが加わり、スポーツと気象の密接な関わり、地球温暖化についてディスカッション。ここでは藤森さんが「2100年 未来の天気予報」として、このまま何の対策もしなければ、夏に日本各地で40℃を超える猛暑日が当たり前のように続く一方、大雨による氾濫やがけ崩れ、反対にまったく雨が降らない地域の干ばつも頻繁に起こることを紹介すると、4名のオリンピック、そして会場からも大きな驚きの声が上がった。このような地球温暖化が進む未来に向けて、ひとり一人ができることは何か。藤森さんは「CO₂を減らしていく緩和策」と「地球温暖化に備える適応策」の2つの考え方を提示。その中でも今からできる緩和策として、省エネ、植林・森の整備、自然エネルギーの増加、先述した環境省のCOOL CHOICEの推進などを挙げた。

藤森さんの説明を聞き、「全日本スキー連盟としても自然エネルギーを増やす対策をしていますが、今日勉強した情報を僕ら連盟がきちんと共有して、下部組織に伝えていかないといけない」（皆川選手）、「100年後の気温が衝撃的でした。一歩も二歩も先を意識して考えないといけないんだと分かりました」（富澤選手）、「ここで聞いたお話をしっかり持ち帰って、誰でも発信できる力が強くなっている時代ですし、100年後は遠いようで近い未来なのでしっかりやっていかなければと思いました」（上田選手）とそれぞれ感想を述べた。

対談2のまとめとして、宮下さんは「環境に対する考え方のヒントをもらったと同時に、これからの責任というものを感じました。未来の子供たちのために我々がアクションを起こさないと間に合わない。環境保全を長く続け、多くの人たちに広まるような会話のヒントをここから得て、持って帰っていただければ幸いに思います」と呼びかけた。

セミナーの最後に、野端スポーツ環境専門部会長が閉会の挨拶。これまでのプログラムを振り返りながら、参加者に向けて「温暖化が進むことでの危機感や、ゴミの分別・電気をこまめに消すなど、まず自分にできることをする重要性を、皆さまのお仲間の指導者、あるいは選手、子供たちにぜひ伝えていただきたい。子供からお年寄りまでの幅広いスポーツを愛する人たちを通じて、環境に関心を持ち行動することをより多くの人たちに広めることが、未来のスポーツ界に対する我々の責任ではないかと思えます」とメッセージを送り、セミナーを締めくくった。

3

第13回JOCスポーツと環境担当者会議開催報告

Reports of the 13th IOC National Sport Federations Conference on Sport and Environment

■開催概要

1. **趣 旨**：スポーツにおける持続可能性への理解を深めると共に、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会（東京 2020 大会）に向けた関係者・関係団体との地球環境保全への連携、実践活動の推進を図るために標記会議を開催する。
2. **主 催**：公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）
3. **日 時**：平成 29 年 2 月 24 日（火）16：00～17：45
※「総務委員会フォーラム」10：00～18：00 の中で実施をした。
4. **場 所**：味の素ナショナルトレーニングセンター 1 階 研修室 2～4
5. **出席者**：本会役員、本会スポーツ環境専門部会員、本会加盟競技団体環境担当者他 50 名（総務委員会フォーラム全体 101 名）

プログラム：

- 16：05 開会挨拶 野端啓夫 JOC 理事／JOC スポーツ環境専門部会部会長
 16：10 情報提供
 オリンピック・パラリンピック等経済界協議会の活動について
 「KEEP THE STADIUM CLEAN」プロジェクト
 三井不動産株式会社オリンピック・パラリンピック室 室長 野末泰樹
 16：30 グループディスカッション
 テーマ：指導者を通じたアスリートへの啓発
 コーディネーター：野端啓夫 JOC 理事／JOC スポーツ環境専門部会部会長
 17：45 閉会

■会議概要

日本オリンピック委員会（JOC）は 2 月 14 日、平成 28 年度「総務委員会フォーラム」を味の素ナショナルトレーニングセンター（味の素トレセン）で開催。これは、「女性スポーツ専門部会」「アントラージュ専門部会」「スポーツ環境専門部会」の 3 つの専門部会による合同フォーラムで、今年度は JOC、JOC 加盟競技団体（NF）の役職員ら 51 団体 101 名が参加した。

午後から行われたスポーツ環境専門部会のパート「スポーツと環境担当者会議」では、まず、野端啓夫理事・スポーツ環境専門部会部会長が、「今年度、スポーツ環境専門部会は、昨年度の総務委員会フォーラムで提案頂いた意見の中からスポーツ環境専門部会が取り組んでいる『環境啓発ポスターの大会プログラムへの掲載』『指導者を通じたアスリートへの啓発』『スポーツと環境に関するアスリートメッセージ映像の作成』を中心として取り組んでいます。今回はその中から、新たに作成した『指導者に向けたスポーツと環境に関するレクチャー原稿』のデモンストレーションを見ていただきたいと思います」と挨拶した。

続いて情報提供として、オリンピック・パラリンピック等経済界協議会が行っている競技会場でのゴミ拾い・美化運動「KEEP THE STADIUM CLEAN」プロジェクトが紹介された後、昨年 11 月 18 日に開催された「第 12 回 JOC スポーツと環境・地域セミナー」でも紹介された、「2100 年未来の天気予報」を導入としたスポーツと環境に関するレクチャーのデモンストレーションが行われた。

それを基に、NF 関係者は、このレクチャーがどのような場面で導入できるか、また各所属団体内でレクチャーし啓発していくに際しての課題な

それを基に、NF 関係者は、このレクチャーがどのような場面で導入できるか、また各所属団体内でレクチャーし啓発していくに際しての課題な

どを討論。グループ発表では「環境に関する講師の人材確保の難しさ」「環境問題は表面的な話ではなく、その競技に対して具体的にリンクする内

容でなければいけない」「レクチャー動画、教材があれば導入しやすくなる」「ジュニア世代へ熱心に伝えることが重要」といった意見が出された。

■出席者一覧

所属先	出席者名
(公財) 日本オリンピック委員会	平岡英介
	松丸喜一郎
	尾崎正則
	大塚真一郎
	尾縣貢
	小風明
	村津敬介
	齋藤泰雄
	野端啓夫
	山口香
	大津克哉
	永井真美
	宮沢賢一
	風間明
	山崎秀樹
	齋藤由紀
田中丈夫	
(公社) 日本ボート協会	苅谷裕子
(公社) 日本ホッケー協会	織井隆司
(公財) 日本バスケットボール協会	長谷川 洸世
(公財) 日本スケート連盟	森村直樹
(公財) 日本セーリング連盟	芝田崇行
(公財) 日本自転車競技連盟	林富士夫
(公社) 日本馬術連盟	阿部憲二
(公社) 日本フェンシング協会	中田玲子

所属先	出席者名
(公財) 全日本弓道連盟	清水政範
(公社) 日本ライフル射撃協会	岸高 清
(一財) 全日本剣道連盟	岩坂 守
(公社) 日本近代五種協会	野上 等
(公財) 日本ラグビーフットボール協会	高野 敬一郎
(公財) 全日本空手道連盟	石田 航
(公社) 全日本銃剣道連盟	鈴木 健
(公財) 全日本なぎなた連盟	島瀬 美佐子
(一社) 日本クレイ射撃協会	大江 直之
(公財) 全日本ボウリング協会	宮内 久美子
(一財) 全日本野球協会	高橋 大地
(特非) 日本スポーツ芸術協会	相原 茂明
(公社) 日本武術太極拳連盟	渡辺 敏雄
(公社) 日本カーリング協会	長谷川 庄一
	平間 初恵
(公財) 日本ゴルフ協会	内田 愛次郎
(公社) 日本スカッシュ協会	神谷 典子
(公社) 日本ボディビル・フィットネス連盟	岩崎 靖
(公社) 日本ダンススポーツ連盟	岸尾 政弘
(一社) 日本バイアスロン連盟	川口 征夫
(一社) 日本セパタクロー協会	矢野 順也
(特非) 日本クリケット協会	本島 由起子
(公社) 日本チアリーディング協会	北野 綾子
(一社) 日本サーフィン連盟	宗像 富次郎
(公社) 日本オリエンテーリング協会	高村 卓

4

スポーツ環境保全、啓発・実践活動状況について

Issues regarding awareness and implementation activities

(1) 各競技団体の活動

(公財) 日本陸上競技連盟…………… 64	(公社) 日本ライフル射撃協会…………… 91
(公財) 日本水泳連盟…………… 65	(一財) 全日本剣道連盟…………… 92
(公財) 日本サッカー協会…………… 66	(公社) 日本近代五種協会…………… 93
(公財) 全日本スキー連盟…………… 68	(公財) 日本ラグビーフットボール協会 …… 94
(公財) 日本テニス協会…………… 69	(公社) 日本山岳・スポーツクライミング協会… 95
(公社) 日本ボート協会…………… 70	(公社) 日本カヌー連盟…………… 96
(公社) 日本ホッケー協会…………… 71	(公社) 全日本アーチェリー連盟…………… 96
(公財) 日本バレーボール協会…………… 72	(公財) 全日本空手道連盟…………… 97
(公財) 日本体操協会…………… 73	(公社) 全日本銃剣道連盟…………… 98
(公財) 日本バスケットボール協会…………… 74	(公財) 全日本ボウリング協会…………… 98
(公財) 日本スケート連盟…………… 74	(一財) 全日本野球協会…………… 99
(公財) 日本アイスホッケー連盟…………… 76	(公社) 日本カーリング協会…………… 101
(公財) 日本レスリング協会…………… 76	(公社) 日本トライアスロン連合…………… 102
(公財) 日本セーリング連盟…………… 77	(公財) 日本ゴルフ協会…………… 103
(公社) 日本ウエイトリフティング協会…………… 79	(公社) 日本スカッシュ協会…………… 104
(公財) 日本ハンドボール協会…………… 80	(公社) 日本ボディビル・フィットネス連盟… 104
(公財) 日本自転車競技連盟…………… 80	(一社) 全日本テコンドー協会…………… 105
(公財) 日本ソフトテニス連盟…………… 81	(公社) 日本ダンススポーツ連盟…………… 106
(公財) 日本卓球協会…………… 83	(一社) 日本バイアスロン連盟…………… 107
(公財) 全日本軟式野球連盟…………… 84	(一社) 日本サーフィン連盟…………… 107
(公財) 日本相撲連盟…………… 85	(一社) 日本カバディ協会…………… 108
(公社) 日本馬術連盟…………… 86	(一社) 日本セパタクロール協会…………… 109
(公社) 日本フェンシング協会…………… 87	(特非) 日本クリケット協会…………… 110
(公財) 全日本柔道連盟…………… 87	(公社) 日本アメリカンフットボール協会 …… 110
(公財) 日本ソフトボール協会…………… 89	(公社) 日本チアリーディング協会…………… 111
(公財) 日本バドミントン協会…………… 90	(公社) 日本パワーリフティング協会… 112
(公財) 全日本弓道連盟…………… 91	(一社) 日本フライングディスク協会… 113

(2) スポーツ環境専門委員の活動

松岡修造委員…………… 114
宮下純一委員…………… 115

(1) 各競技団体等の活動

Activities of the JOC affiliated NFs and organizations

(公財) 日本陸上競技連盟

1. 実施概要

「守ろう！みどりの地球」をスローガンに、環境保全について積極的に考え、今後も十分にスポーツ活動ができる地球であるために、環境の保護と配慮を意識づけ、環境への負荷を極力減らすような活動を継続的に行っている。

2. 平成 28 年度事業活動

- 大会表彰時に環境啓発バナーの掲示
- 大会及び事務局内でのポスター掲示、大会プログラム掲載
- 大会時競技場内のクリーン化、資源ゴミ回収、周辺環境の美化
- 大会のイベントとして資源リユース体験実施、花の苗や種の無料配布
- 大会審判車両にハイブリッドカーを使用
- タブレットを使用した大会時のペーパーレス化
- 事務局内 google drive ファイルサーバ化による印刷物削減
- 発行物、出版物作成部数の検討
- 事務局内のゴミ分別の徹底

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①大会表彰時に環境啓発バナーの掲示

本連盟主催大会である第 41 回全日本競歩能美大会の表彰時に、環境啓発バナーを掲げて表彰者と共に写真撮影を行い、啓発活動を行った。

②大会及び事務局内でのポスター掲示、大会プログラム掲載

本連盟主催大会で環境啓発ポスターを掲示及び大会プログラムに掲載をし、大会関係者・選手のみならず観戦者も含め、環境活動の重要性をアピールした。また、事務局内の会議スペース入口にも環境ポスターを掲示し、本連盟来訪者に対してもポスターを通じて啓発できるようにした。

③大会時競技場内のクリーン化、資源ゴミ回収、周辺環境の美化

大会開催時の競技場内のクリーン化はもちろん、周辺環境にも配慮し、大会開催前に環境イベントを行い、ウォーキングイベント内でゴミ拾いを行ったり、資源ゴミの回収を促したりする活動を行った。

④大会のイベントとして資源リユース体験実施、花の苗や種の無料配布

大会開催に合わせて、包装紙や間伐材などでリユース体験イベントや緑化推進のために花の苗や種の無料配布を行った。

⑤大会審判車両にハイブリッドカーを使用

マラソン大会を中心に大会の誘導車や審判車両のハイブリッド車導入を行い、環境に配慮した車両を採用している。

⑥インターネットを利用した大会時のペーパーレス化

大会時に選手のエントリー情報やリザルト、ラウンドの組み分けや試技順など、インターネットを利用して大会関係者へ情報が流れるように設定し、ペーパーレス化を実施している。

⑦事務局内 google drive ファイルサーバ化による印刷物削減

事務局内のインフラ整備を行い、事務局員同士・外部関係者とのデータ共有化や PC 画面での資料共有を実施し、印刷物を減らすよう努めている。

⑧発行物、出版物作成部数の検討

本連盟で発行するパンフレットや出版物について、廃棄にならないよう配布数や販売数をあらかじめ詳細に見積もり、極力余剰分が出ないように配慮をしている。

⑨事務局内のゴミ分別の徹底

事務局内のゴミについて、資源ゴミ・燃える・燃えない・ビン/カン/ペットボトルに分け、ペットボトルはラベルを剥がしキャップも外して分別をするようにしている。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境に関する啓発活動を大会・合宿等で積極的に行い、競技場のみならず地域や周辺環境にも配慮したアナウンス・イベントを検討していきたい。また、環境への負荷を極力減らした大会運営やエコ推進活動を今後も実施していくと共に、事務局内をはじめ関係者や参加者、観戦者も含め、身近に環境活動に触れてもらう機会を増やしていきたい。

5. JOC スポーツ環境専門部会員 風間 明

中央競技団体の一つとして、自ら環境に配慮した活動に引き続き取り組んでいくと共に、陸上競技の関係団体や大会事務局などのステークホルダーにも賛同して頂き、お互いに連携をしていながら、環境に配慮した事業活動を行っていききたい。

(公財) 日本水泳連盟

1. 実施概要

『水』を介したスポーツ競技団体として、地球を取り巻く環境整備を常に心がけるよう、持続可能で身近な小さな活動を心がけ、また水泳4団体（日本水泳連盟・日本スイミングクラブ協会・日本マスターズ水泳協会・日本障がい者水泳協会）と共催事業を実施するなどして、次世代を中心にした啓発活動の更なる拡大・促進に努め、連携の輪を広げる。

2. 平成28年度事業活動

- 「水泳の日」（2016年8月14日）総合イベント内にブースを設置、展示と場内での参加型啓発イベント（スタンプラリー）企画、および、エココンテスト作品の普及活動への積極的利用（ポスター、Tシャツ他）
- 連盟や競技関連情報のペーパーレス化・マイボトル・エコ製品推進運動
- 競技会等における継続的環境活動
 - 1) 大会監督者会議での活動告知、環境啓発ページのプログラム掲載 等
 - 2) 場内での来場者への協力を促す（啓発ポスター・バナー掲示、ゴミ分別等）

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①「水泳の日」総合イベント内展示および啓発スタンプラリー

水泳4団体共催で「水泳の日」総合イベントを辰巳国際水泳場にて開催。そのイベント内でプー

スを設け委員会活動内容を掲示、同時に場内をエリアとした水泳連盟独自の標語を使用したスタンプラリーを開催。昨年同様多数の参加があり、来場者約 1000 名中、約 700 名参加のうち約 500 名がゴール。標語を唱えながらラリーに参加する小学生から大人まで楽しめるイベントとなった。

②『紙削減プロジェクト』の継続実施・強化

連盟が特に力を注ぐ情報システム化を活用し、即時結果配信システム等の充実により更なる紙による情報配信の削減が強化された。

③競技会等における環境活動

監督者会議でのミニレクチャー、バナーとともに役員集合写真を撮影、休憩時間を利用した場内ビジョンシステムでのアピールメッセージ露出、ゴミの削減を前提とし会場の所轄自治体ルールに則した分別と持ち帰りの実施。プログラムや月刊機関誌『水泳』へのポスター掲載。

4. 全体的な成果と今後の課題

スタンプラリーは水泳 4 団体で活動する 2 年目として、夏休み中の「水泳の日」に多くの愛好者が参加したイベントであった。来年度から日本各地を巡回開催する予定であり、各地で来場が予想される水泳ファン層へ直接アピールする参加型イベントを更に発展させたい。2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向け、持続可能でより積極的に身近な事から積み上げ、同時に将来のトップスイマーたちにもアピールしていきたい。

5. JOC スポーツ環境専門部会員 齋藤 由紀

スポーツ環境委員会が連盟内に発足して 12 年、昨年に引き続き『水泳の日』内で 2 度目のイベントを実施。基本的活動内容とその理念は、小さなことの積み重ねで日常の延長上にあるという連盟の基本スタンスがかなり浸透し、一般観客参加型企画として成功した。環境活動の持続可能な輪を、特に若年層を含めた水泳愛好者にも広げる事を目指すものであるが、今後はより積極的にトップ選手にも協力を仰ぎ、発信力のあるプログラムも企画・具体化したい。

(公財) 日本サッカー協会

1. 実施概要

JFA の「理念」、および「国連グローバル・コンパクト」における環境 3 原則（2009 年 7 月に署名）、そして、環境省「チャレンジ 25 キャンペーン」（2010 年 1 月に登録）に基づき活動を継続。

2. 平成 28 年度事業活動

- 主催／後援競技会等におけるゴミ分別や公共交通機関利用の啓発
- JFA グリーンプロジェクトの推進
- 旧環境プロジェクトを通じた各種啓発活動の推進
- アジアサッカー連盟の社会貢献活動における国内活動の推進
- オフィス（JFA ハウス）における環境への配慮（クールビズの実施等）

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ① JFA 事務局内での代表的な活動

継続してペーパーレス活動を推進、理事会、常務理事会、会議における削減枚数はAサイズにて約10万枚となった。昨年に続き、全体活動量が増加しているため、引き続き紙の使用は300万枚以上となっている。

② JFA グリーンプロジェクト

引き続き、都道府県協会、サッカークラブ、自治体、学校、幼稚園・保育園を対象に芝生の苗の提供等を実施。

③ その他社会貢献、環境活動に関する活動

2016年度より、新たに社会貢献委員会を創設したが、今後の具体的な活動についてはまだ検討段階である。その他活動としては、第12回全日本大学フットサル選手権会場にてJOC環境啓発ポスターの掲示等を実施した。

④ 地域/Jリーグ

ベガルタ仙台	全てのホームゲームにて、エコステーションの設置及びオリジナルタンブラー販売による紙コップ削減を実施中。
ヴァンフォーレ甲府	2004年からエコスタジアムプロジェクトを実施中。ホームゲームでの完全リユースカップ導入など、国内随一のエコクラブの一つ。山梨中銀スタジアムでは、カップ類、皿・どんぶり類など11種類のリユース食器が活躍中です。
ガンバ大阪	ジュニアユース選手の万博ごみゼロウォーク参加、ファン・サポーターとの清掃活動「クリーン大作戦」、ホームゲームでのエコステーション運営など、クラブによる環境学習に加え、追手門学院大学、帝人フロンティア等とのパートナーシップ活動も継続実施中です。
町田ゼルビア	まち☆クリ〜町田クリーンアップ作戦〜では、クラブ所属のジュニアユース選手たちも地域清掃活動に参加、約800名の一般参加者も含め、地域清掃活動を実施しました。
横浜FC	2008年3月、環境マネジメント規格であるISO14001を認証取得し、環境保全活動を継続中。ニッパツ三ツ沢球技場でのホームゲームでのカーボンオフセットや地域清掃活動を実施。Jリーグの中でも、環境活動において草分け的な存在である同クラブでは、継続的な活動にクラブ会長である奥寺康彦氏やクラブマスコット、フリ丸が積極的に参加しています。
レノファ山口	ぶちエコやまぐち「ごみ減量化」キャンペーンへの協力宣言を行い、地域の小学校・中学校へ選手からのメッセージを校内放送を通じて届けています。
カマタマーレ讃岐	芝山マリランドで開催したサッカー教室・ゴミ拾いイベント「海ごみ拾うターレ讃岐」に選手が参加し、子どもたちと一緒に環境学習、清掃活動を実施しました。
SC相模原	2016年7月から「クリーンスタジアムプロジェクト」の取り組みとして、「リユースカップの使用・デポジットシステムの導入」を実施しています。
ガイナレ鳥取	2013年より鳥取県の代表的な観光地である鳥取砂丘の除草活動を実施。選手・スタッフ・サポーター・ボランティア等全員で地域の景観保護活動に努めています。

4. 全体的な成果と今後の課題

● JFA

継続してペーパーレス化を推進しているが、事業数の増加に対応が追いついていない課題もみられる。各種競技会等での活動はゴミ分別、持ち帰り等、最低限の活動にとどまる。

● Jリーグ

各クラブの取組が継続的に続いている。一部クラブについては活動定着に合わせ、参加者の増加等

取組が根付いていることが成果として出ている。

5. JOC スポーツ環境専門部会員 玉利 聡一

JFA、Jリーグ等全国的に継続して活動を継続している。JFA では、前回報告のとおり、日常業務のIT化を進めているが、現在、選手の登録証のペーパーレス化も準備しており、事務局、各種地域でのサッカー活動と広く効率化・負荷削減を進めている。

(公財) 全日本スキー連盟

1. 実施概要

本連盟は冬季スポーツ競技団体として、地球温暖化による雪不足を切実な問題として捉え、12年前より「I LOVE SNOW」キャンペーンを展開している。このキャンペーンでは、「自然に対する感謝を表す活動」、「雪を通じた感動体験の共有」、「親子の絆を深める機会の提供」、「健康や楽しみを得るための機会の提供」という四つのキーワードを掲げ、「スノースポーツ」を通して環境保全に対する啓発活動を行っている。

2. 平成 28 年度事業活動

- Fun to Share キャンペーン参加による低酸素社会への啓発活動
- 「I LOVE SNOW」キャンペーン

3. 具体的な活動実施内容とその成果

① Fun to Share キャンペーン参加による低酸素社会への啓発活動

Fun to Share 宣言『スノースポーツを通して自然の大切さを伝えることで、低炭素社会へ。』を行い、環境保全に対する啓発活動を行った。

② 「I LOVE SNOW」キャンペーン

雪の大切さとスノースポーツの楽しさを共有するアイテムとして、「I LOVE SNOW」グッズの販売を行った。

〈成果〉

上記の活動により、雪（自然環境）を守ることの大切さ、日常的に意識することが環境保全につながることを発信できた。

4. 全体的な成果と今後の課題

「I LOVE SNOW」キャンペーンを展開し 12 年目を迎え、継続の重要性を感じているが、キャンペーンの飽和感が否めない状況である。今後は、この状況をベースにし、新たな手法にて啓発活動のステップアップを行いたい。

5. JOC スポーツ環境専門部会員 宮沢 賢一

近年の降雪状況をみると、降雪の時期や地域に偏りがあり、スノースポーツの競技者やスノースポーツに携わる産業に多大な影響を与えている。また、地球温暖化が加速していくことにより、スノースポーツは大変厳しい環境にさらされていくことが想定される。次の世代が綺麗な雪とスノースポーツ

を楽しむことができるよう、今こそ世界に向けて環境保全をアピールすることが有効だと考えられる。冬季スポーツ競技団体として、今後も「雪とスノースポーツ」をキーワードに地球温暖化防止や環境保全に関するメッセージを発信し、自らも継続して活動を行っていきたいと考えている。

(公財) 日本テニス協会

1. 実施概要

本協会では、テニス界における環境保全、啓発、実践活動の3つの柱を掲げている。そのツールとして、週刊少年マガジンに連載中のテニス漫画『Baby Steps』に登場する主人公をモデルにした広報用のポスターを活用し、「ほんのちょっとしたエコ活動」をスローガンに日々の生活の中でも環境意識を持ってもらえるよう活動に取り組んでいる。

2. 平成28年度事業活動

- 各都道府県協会に向けて「JTA 環境保全基本方針」の周知
- 日本テニス協会主催大会をはじめ、カンファレンス、大会等で環境バナーを掲示
- テニス界における環境保全と整備を目的とした活動（3R 推進）
- 子どものマナーアップにつながる継続的なキャンペーンとして「ごみゼロ運動」を実施
- 日本で行われる国際大会での啓発活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①「テニスの日」イベントでの啓発活動

毎年9月23日に全国で展開されているテニス普及イベントにおいて、「ほんのちょっとしたエコ活動」をスローガンに啓発活動を実施した。

②テニス指導者、選手、観客の方々への環境啓発活動

日本テニス協会主催大会をはじめ、カンファレンス等で環境ポスターを掲示して啓発活動を行った。

③グローバル・スポーツ・アライアンス（GSA）との協同事業

毎年、「テニスの日」の有明メイン会場において、GSA と協同して中古テニスボールの回収と不要になったラケットの回収を行っている。あいにく平成28年度は雨天のためにイベントが中止となった。しかし、GSA では通年を通じてテニスボールのリユース活動を行い、使い古したボールを全国の学校機関に提供している。ボールは、教室内の騒音対策として机やイスの脚の先に取り付けられ、子どもたちの教育環境づくりに役立つだけでなく、大量に廃棄していたごみの削減にもつながっている。また、不要になったラケットは、GSA と国連環境計画（UNEP）によるサポートのもとケニア・ナイロビで毎年開催されている貧困地域の子どもたちを対象とした環境教育プログラム『GSA ドリームキャンプ』で活用するために会場となる現地スポーツクラブへ寄贈をした。* GSA ホームページ：<http://www.gsa.or.jp>

なお、平成28年度に開催したキャンプは、これまでの活動の成果が認められ、日本政府が推進するスポーツを通じた国際貢献事業「Sport for Tomorrow プログラム」の認定事業として開催することができた。活動の様子は、Sport for Tomorrow のウェブサイト参照されたい。<http://www.sport4tomorrow.jp/jp/gsa> ドリームキャンプ（nature-sport-training-camps-2016） /

4. 全体的な成果と今後の課題

地域・都道府県テニス協会には環境担当者がおり、各地で様々な取り組みの実践がなされている。例えば大会会場では、松岡修造委員の環境啓発ポスターや Baby Steps のポスターを掲示して環境意識の向上を図っている。さらに、大会の募集要項やパンフレットにもこれらのポスターを活用している。

今後は、前年度に策定した「JTA 環境保全基本方針」の周知を目指す。また、継続して日本テニス協会主催大会をはじめ、講習会などで環境バナーやスポーツと環境のシンボル旗「エコフラッグ」、環境ポスターを掲出し、環境保全調査及び啓発・実践活動に取り組んでいく。

5. JOC スポーツ環境専門部会員 大津 克哉

日本テニス協会（JTA）では、昨年度にこれまでの教育・啓発活動を中心とした環境保全の取り組みを見直し、具体的な成果に通じる活動のための基本方針をまとめた。今後は、各都道府県協会に向けてこの指針の周知を図っていく。そして、各々がまず「努力目標」を設定し、私たちテニスを楽しむものとして環境保全の大切さを理解し、エネルギー・資源の節約やゴミの分別など、できることから実行することを促していく。（JTA 環境保全基本方針：<https://www.jta-tennis.or.jp/information/tabid/498/Default.aspx>）

また、平成 28 年度には『JOC スポーツ環境専門部会活動報告書』に掲載されている「スポーツと環境についてのレクチャー原稿」を見直し、JOC 加盟競技団体が実施する指導者研修会用の資料として活用できるように「スポーツと環境」についての内容を改編する作業に携わらせていただいた。そこで今年度は、このレクチャー資料が指導者向けの講習会をはじめ、あらゆる場面で活用されるように促進していきたい。そして、JOC スポーツ環境部会のスローガンである「スポーツの心、環境と未来へ」をテニス界でも広めていけるよう、引き続き啓発活動に取り組んでいく。

（公社）日本ボート協会

1. 実施概要

ボート競技は、例外なく自然の中で行われる競技であり、自然環境の悪化は競技環境の悪化に直結する。また、地球温暖化が原因と言われる「ゲリラ豪雨」など急激な天候悪化の発生はボート競技のインフラを破壊し、選手の安全を損なう可能性がある「大きな脅威」であると言える。

そのためボート関係者は他競技以上に「環境活動」の重要性を認識する必要があり、当協会としてはその点をアピールしながら活動を行っていくこととしている。

2. 平成 28 年度事業活動

- 大会時、会議開催時での環境ポスターの掲示
- 大会プログラムへの環境啓発 PR の掲載
- 競技会場におけるゴミ分別収集などの環境活動実施
- 練習水域付近の危険物の除去やゴミの回収等の清掃
- セーフティアドバイザー（各都道府県に 1 名）を通じた各団体への啓発活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①ポスター等による PR、啓発活動

- ・ 本会主催大会にて環境啓発ポスターを掲示するなど、啓発活動を行った
- ・ 大会プログラムへ環境啓発ポスターを掲載した

②講習会における啓発活動

- ・ 全国セーフティアドバイザー講習会席上において、JOC 環境セミナーでの情報なども活用しながら啓発活動を行った（埼玉県戸田市、岐阜県川辺町で開催）

4. 全体的な成果と今後の課題

- ・ 上記1. 記載の「ボート競技における環境活動の重要性」についての認識は徐々に高まってきている。
- ・ 取り組み内容自体は各地の実情に合わせて行うことを基本とし、関係者の主体性に任せた活動を行っていき、アンケートに記載したように「全国統一の報告日」を設け、全国各地の取り組みを集約して有効にフィードバックできるような仕組みを設けることとしたい。

（公社）日本ホッケー協会

1. 実施概要

当協会は環境保全活動の重要性について機会があるたびに広報活動を行うとともに、当協会自らも主催大会において実践した。また各都道府県協会および各連盟との連携を図り啓発・実践活動を行うように努めてきた。今後も全国のホッケープレーヤー及び関係者に広めていくことを目標にさらなる広報・啓発・実践活動に取り組んでいく。

2. 平成 28 年度事業活動

- 大会開催時の環境保全啓発ポスター、横断幕（バナー）の掲示
- 競技会会場等における環境保全活動の実施
- 研修会開催時の環境保全啓発ポスター、横断幕の掲示

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①大会時の環境啓発ポスター、横断幕の掲示

当協会主催大会にて環境啓発ポスター、横断幕の掲示を行い、啓発活動を行った。

②競技会等における環境保全活動

当協会主催大会において、ゴミ箱の設置、清掃活動を行った。

③研修会時の環境保全啓発ポスター、横断幕の掲示

当協会の各種研修会にて環境啓発ポスター、横断幕の掲示を行い、啓発活動を行った。

4. 全体的な成果と今後の課題

ポスター、横断幕の掲示などの啓発活動を実践してきた事が実り、選手・開催地等の関係者に環境保全活動の重要性が徐々に理解されてきた。今後はさらにスポーツと環境保全のかかわりを理解していただき、一人ひとりが実践活動を自主的に行えるように促していきたい。

(公財) 日本バレーボール協会

1. 実施概要

本協会では、バレーボールを介して環境保全や意識の啓発を推進するべく、従来から実施してきた大会会場での啓発活動やゴミの分別回収等を継続するとともに、本協会独自の取り組みとして「バレーボールバンク」事業を展開してきた。

今後も、加盟団体やバレーボーラー、バレーボールファンの皆様と積極的に連携し、環境活動に取り組みたい。

2. 平成 28 年度事業活動

- 大会における環境啓発活動
- 大会におけるゴミの分別
- 大会におけるエコキャップの回収及び関係先への寄付
- 事務局における取り組み
- バレーボールバンク事業
- ビーチバレーボール会場での（清掃）美化運動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①大会における環境啓発活動

- ・環境バナー、環境ポスターを会場内に掲出
- ・大会プログラムにおける環境啓発
- ・春高バレーにおける、環境啓発のアナウンス実施

②大会におけるゴミの分別

- ・すべての大会会場においてゴミ分別を実施

③事務局における取り組み

- ・メール、プロジェクターの活用によるペーパーレス化の推進
- ・クールビズ、ウォームビズの実施
- ・事務所内に環境啓発ポスターを掲示

④バレーボールバンク事業

バレーボールバンク事業は、廃棄せざるを得なくなったボールの回収・再利用を主な目的とした、本協会独自の社会貢献プロジェクトであり、2010年の開始より7年が経過した。

その他にも、ネット、ボール籠、ユニフォーム、シューズなど多くのご協力をいただいた。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境ポスターやバナー、プログラム等を活用した啓発活動を続けてきたことにより、環境に関する知識・意識の浸透が選手や関係者を中心に図られてきた。今年度は小学生のバレーボール大会に力点を置いて啓発活動を行ってきたが、更に裾野を広げていくための努力を継続したい。

5. JOC スポーツ環境専門部会員 迫田 義人

平成28年度は全国小学生バレーボール大会を通じて、指導者と子どもたちに向けた環境啓発活動を進めるとともに、ビーチバレーボールでは、「来たときよりもキレイに」の合言葉を確実に実現できる大会の開催を目指してきた。

今までの取り組みを継続していくとともに、今後は参加選手だけでなく、多くの観客の皆様に向けた環境に対する啓発活動もしていきたい。

(公財) 日本体操協会

1. 実施概要

日本体操協会では、これまで継続して実施してきた環境保全活動を引き続き実施していく。選手を活用した啓発活動を展開する。

2. 平成28年度事業活動

- 環境啓発横断幕（バナー）の設置
- 炭酸マグネシウム対策
- ゴミ分別回収

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①環境啓発横断幕の設置

これまで同様に、国内で実施されてきた競技会とイベントの会場に、環境啓発に関する横断幕を設置した。この活動は、すでに各加盟団体においても横断幕を独自に作り、それぞれの事業における横断幕設置として慣例化されている。

②炭酸マグネシウム対策

炭酸マグネシウム対策は、ビニールシートの設置、大会主催者の準備する炭酸マグネシウム以外の利用禁止、競技前後の清掃活動など、従来の方法を継続実施している。

③ゴミ分別回収

ゴミの分別回収ボックスを会場に設置し、継続的な分別意識を啓発した。

④常務理事会でのペーパーレス化

常務理事会において会議資料のペーパーレス化を図り、紙資源の節約に努めた。

⑤強化選手への啓発活動協力要請

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会が進める「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」へ内村航平選手がプロジェクトの重要性をコメント配信。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境啓発横断幕設置や会議におけるペーパーレスの慣例化については、継続性が重要な本活動にとって意義あることである。東京オリンピックを素晴らしい大会にするために、環境への配慮も常に配信することが求められる。さらに、体制について継続して審議していく必要がある。

(公財) 日本バスケットボール協会

1. 実施概要

日本バスケットボール協会〈JBA〉は、スローガンである【次世代を担う子どもたちが、ずっとバスケットボールを楽しめるように！】を常に念頭に置き、スポーツ活動が地球温暖化と無縁ではないことを自覚し、バスケットボールファミリーが共有出来るような環境関連のメッセージ発信を使命と考え、積極的に取り組んでいる。

2. 平成 28 年度事業活動

- 『環境啓発ポスター』及び『環境 PR 横断幕（バナー）』の掲示
- 『環境取組みメッセージ』広告の掲載
- 大会会場における取組の推進とゴミ分別活動の徹底
- 協会内部における環境活動強化

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ① 『環境啓発ポスター』及び『環境 PR 横断幕』の掲示
 - ・各年代別、カテゴリー別の大会及び、タレント発掘合宿、日本代表強化合宿で徹底。
- ② 『環境取組みメッセージ』広告の掲載
 - ・日本協会主催大会公式プログラムに、環境ページを掲載し拡く訴求。
(第 92 回天皇杯・第 83 回皇后杯 全日本総合バスケットボール選手権大会)
- ③ 大会会場における取組の推進とゴミ分別活動の徹底
 - ・子どもにも解るようなゴミ分別及び、大会スタッフの巡回によるゴミ回収を実施。
- ④ 協会内部における環境活動強化
 - ・クールビズ（夏季期間）、ウォームビズ（冬季期間）の実施。
 - ・会議資料の電子化推進、電気使用量削減の徹底。

4. 全体的な成果と今後の課題

平成 28 年度は、例年通り実施している環境活動の取組（横断幕、ポスターの掲出、プログラムへの啓発広告）を重点的に実施した。平成 29 年度より、天皇杯・皇后杯全日本バスケットボール選手権大会が再編に伴う全国規模での開催になるため、都道府県協会を含めた環境啓発・ゴミ分別活動の検討等を行う。また、選手・バスケットボールファンが常に自然に環境を意識できるような取り組みを考案し、実践していきたい。

(公財) 日本スケート連盟

1. 啓発対象競技会

【フィギュア】

国内競技会	全日本ノービス選手権	28 年 9 月	ポスター	
	全日本ジュニア選手権	28 年 11 月	ポスター	バナー

	全日本選手権	28年12月	ポスター	バナー
	全日本シンクロ選手権	29年3月	バナー	
国際競技会	NHK杯国際競技会	28年11月	ポスター	バナー
	冬季アジア大会	29年2月	ポスター	

【スピード】

国内競技会	全日本距離別選手権	28年10月	ポスター	バナー
	全日本選手権	27年12月	ポスター	バナー
	全日本スプリント選手権	27年12月	ポスター	バナー
	全日本ジュニア選手権	29年1月	ポスター	バナー
国際競技会	ワールドカップ長野大会	28年11月	ポスター	バナー

【ショートトラック】

国内競技会	全日本距離別選手権	28年9月	ポスター	バナー
	全日本ジュニア選手権	28年12月	ポスター	バナー
	全日本選手権	29年1月	ポスター	バナー

2. 審判セミナー

【フィギュア】

テクニカルオフィシャルセミナー	28年8月	邦和セミナープラザ	ポスター
東審判員セミナー	28年9月	フォーラムエイト	ポスター
西審判員セミナー	28年9月	大阪府立体育館	ポスター
シンクロセミナー	29年1月	京都テルサ	ポスター

【スピード】

審判セミナー	28年10月	青森県八戸市	レクチャー
審判セミナー	28年10月	長野県長野市	レクチャー
レフェリーミーティング	28年10月	東京都渋谷区	レクチャー

【ショートトラック】

審判セミナー	28年9月	京都府京都市	レクチャー
審判セミナー	28年10月	福島県郡山市	レクチャー
審判ミーティング	28年10月	兵庫県神戸市	レクチャー

3. 実践活動

- ポスター等の掲示による啓発活動の推進と実践
- 講習会等での啓発活動
- 印刷物の減量化と再利用の推進
 - ・インターネットによる情報の提供を迅速化することで、印刷物の減量化を推進
スタートリスト リザルト インフォメーション等
 - ・紙の再利用
- 競技会におけるゴミ箱の設置とゴミ分別の徹底
- 各選手へゴミの持ち帰り促進
- シールタンブラーを推奨し紙コップ・ペットボトルの使用削減に努めた

(公財) 日本アイスホッケー連盟

1. 実施概要

日本アイスホッケー連盟では、「この星にスポーツを」をスローガンに、主催大会開催期間中のバナー掲示やポスター掲示等を通じて、大会参加選手及び関係者への啓発活動に努めた。

また、地方大会においても、加盟団体並びに競技施設を管理する行政機関や事業者と連携しながら、バナー掲示やポスター掲示等を通じて環境保全活動普及啓発に努めるとともに、植樹運動への取り組みやゴミの分別回収等の周知徹底を図った。

2. 平成 28 年度事業活動

- 本連盟主催大会における啓発ポスターやバナー掲示による普及啓発
- 加盟団体を通じた地方大会での環境保全活動の展開
- 植樹活動など選手自らが取り組む環境保全活動の推進

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①本連盟主催大会における啓発ポスターやバナー掲示による普及啓発

本連盟主催大会において、「この星にスポーツを」のバナーや環境啓発ポスターの掲示を行うとともに、会長及び理事が率先してゴミの分別活動を行うことにより、大会参加選手及び関係者への啓発活動に努めた。

②加盟団体を通じた地方大会での環境保全活動の展開

地方連盟の主催大会においても、「この星にスポーツを」のバナーやポスターを活用して、ゴミの分別活動やゴミ持ち帰り活動の展開を図った。

③植樹活動など選手自らが取り組む環境保全活動の推進

人工リンクでの競技が普通となったアイスホッケーは、リンクの冷却に多くの電力を消費し、地球温暖化を進める方向に関わっている。そのため、このことを選手等に自覚させ、今後もずっと地球上でアイスホッケー競技を続けられるよう植樹活動などに選手自らが取り組むことを促進した。

4. 全体的な成果と今後の課題

ポスターやバナーを活用した環境保全啓発活動や印刷用紙等の使用量削減の取り組みでは一定の成果が上がっている。

今後は、ゴミの分別・持ち帰り運動の徹底に加え、植樹・緑化活動や河川の環境保全活動など、より能動的な活動に取り組んでいきたい。また、数値目標を設定するほか、それを本連盟ホームページに掲載するなどして、環境保全活動の「見える化」を進めていきたい。

(公財) 日本レスリング協会

日本レスリング協会環境委員会が設立され 11 年を迎えた。基本活動として、協会傘下団体の 8 団体の環境委員が中心となって、協会主催大会の中で環境バナー、JOC 環境部会のポスターの掲示、大会パンフレットへ「来たときよりキレイに」のページ掲載、大会期間中に館内放送による環境保全の

呼びかけ放送などの啓発活動を行った。

また、環境教育として、指導者講習会とエリートキャンプのなかでスポーツと環境についての講習を行った。

	大会名	バナー掲載	ポスター掲載	プログラム掲載	館内放送
4月	ジュニアクイーンズカップ選手権大会	○	○	○	○
4月	JOC 杯全日本ジュニア選手権大会	○	○	○	○
6月	明治杯・全日本選抜選手権大会	○	○	○	○
6月	全国中学選手権大会	○	○	○	○
7月	全国社会人選手権大会	○	○	○	
7月	全国少年少女選手権大会	○	○	○	○
10月	全日本女子オープン選手権大会	○	○	○	
10月	全国社会人オープン選手権大会	○	○	○	
11月	全国中学選抜選手権大会	○	○	○	○
12月	天皇杯・全日本選手権大会	○	○	○	○
1月	全日本マスターズ選手権大会	○	○	○	
3月	全国少年少女選抜選手権大会	○	○	○	○
3月	全国高校選抜選手権大会		○	○	

※この他、少年少女のローカル大会でも行っている。

温暖化の影響は海面上昇、風や水害の発生、干ばつなど、直接的、間接的に我々に猛威を振るう。温暖化対策は今後、ほぼ永続的に取り組むべきことで、自分たち一人ひとりが考えて行動していかなければならない。

緑の大地、青い空、澄んだ空気と清らかな水、今ある大切な自然を未来の子供たちに渡せるよう、自分ができることから活動できるよう取り組んでいこうと思う。



JOC スポーツ環境部会員 鎌賀 秀夫

（公財）日本セーリング連盟

1. 実施概要

海、湖で行うセーリング競技は直接環境からの影響が跳ね返ってくるスポーツであり、常に、また積極的に環境保全への取り組みを推進していく義務があると考えている。平成28年度も「残したいのはきれいな海」をスローガンに全国で環境保全活動を推進してきた。

2. 平成28年度事業活動

- 35の全日本選手権において環境キャンペーンを実施、支援
- Used Sail の活用

●環境ブックレット等を用いた環境保全啓発活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①全日本クラスの35大会について環境キャンペーンを実施、支援

- ・環境フラッグ、横断幕（バナー）等の掲示により選手はもとより、大会運営関係者、観客も含め環境保全への意識の向上を促進
- ・レースの帆走指示書にレース中に海にゴミを捨てた場合のペナルティ、失格条項等を記載、厳しく対処
- ・競技参加者、運営関係者、観覧者等延べ約4700名に広くキャンペーンを浸透
- ・オリンピックウィークでは2020オリンピックが行われる江の島においてビーチクリーン活動も行った

②Used Sail の活用

- ・廃棄予定のヨットの帆からトリプルエコバッグを作るワークショップを国体で企画。希望郷いわて国体において午前、午後20名の定員にて開催。毎回満員の盛況であった
- ・環境啓発活動の一環として物を大切する意識の向上も図る
- ・余ったUsed Sailで独自にトートバッグ、小物も作成し国体で販売

③環境ブックレット等を用いた環境保全啓発活動

- ・大きな大会のみならず、体験試乗会のような一般の方が参加するイベントで環境ブックレットを配布。またブックレットを用いて講話、子どもたちへのレクチャー等も行い、環境保全の大切さについて、自分たちが今何をすることができるのか、環境のために少し意識を変えることの大切さを呼びかけた
- ・「海と日本プロジェクト」と連動して、全国14ヶ所の体験乗船等の場で一般の市民の方や子供たちに環境パンフレットやエコバッグを作成して配布、環境啓発に努めた
- ・国体等大きな大会においてJOC環境啓発ポスターを掲示し、環境保全活動を推進した

4. 全体的な成果と今後の課題

環境キャンペーンも徐々に選手、及び運営関係者には浸透してきたが、より簡便で分かりやすいものにしていきたい。H29年度は海のゴミに焦点をあてて、環境啓発活動を全国展開していきたいと思う。

5. JOC スポーツ環境専門部会員 永井 真美

セーリングというスポーツは海、湖にかかわらず自然環境の中で行うスポーツであり、環境そのもののインパクトがダイレクトに競技に降りかかってくるものである。平成28年度は夏なのに北からの風が多く吹いたり、一部異常気象の影響が見られることもあった。今しなければならぬ事は数多くあり、皆が少し意識を変えるだけで環境保全のためにできることは色々ある。今後2020東京オリンピックに向けて具体的な方策につき検討課題と考えている。今年は新しいことにも挑戦し、活動範囲を広げていきたいと思っている。

(公社) 日本ウエイトリフティング協会

1. 実施概要

日本ウエイトリフティング協会は、これまで継続してきた環境保全活動を引き続き実施していく。スポーツ活動における環境問題を改善するために、事務所内及び競技会での環境への取り組みを実施し、環境保全啓発ポスター、バナーの掲示により大会関係者及び観客に向けて環境保全の啓発を促し環境保全意識の向上を図っている。

2. 平成28年度事業活動

- 競技会での環境啓発活動
- 競技会等における環境活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

① 競技会等における環境啓発ポスター、バナーの掲示

前年度より継続して、各競技会や催事等の会場内に環境意義啓発のポスター、バナーを設置した。

② 競技会等におけるペーパーレス化

全日本選手権大会や全日本ジュニア選手権大会においては大会要項を協会ホームページにアップし、ウェブからのダウンロードによる配信を行った。

大会リザルト等については、公式記録員から各都道府県事務局への配信を行い、ペーパーレス化へ向けての実践を図っている。

③ 競技会等における環境活動

当協会においては、より環境負荷の少ない競技会運営を目指し、審判・監督に協力を呼びかけながら、継続的に活動を行っている。

大会の運営にあたっては、できるだけ廃棄物を出さないことはもちろん、飲み物の容器・食器についても再利用や原材料としての再生利用を考慮している。金沢市で毎年開催される全国高等学校ウエイトリフティング競技選抜大会においては、選手・役員の弁当に紙と経木でできた容器の使用を継続している。大阪府羽曳野コロセアムで開催する学生連盟主催の全日本学生新人大会・全日本大学対抗選手権大会（2部）では、競技役員の昼食に会場内食堂の通常の食器を使用して、廃棄物をできるだけ出さないようにしている。

国民体育大会・全国高校総体・社会人選手権大会・レディースカップ全日本女子選抜大会などでは、開催自治体の協力によるゴミの分別収集も定着した。

全日本学生連盟では、清掃班を編成して競技会場トイレを巡回し、清掃活動を行うだけでなく、ゴミの減量化・分別・持ち帰りを呼びかけるなど、環境への配慮を促している。

また、競技会自体の運営については、炭酸マグネシウム対策として、粉の粉塵化を最小限に抑えるため上部に2カ所の取り出し口のあるものを活用するとともに、滑りにくいプラットフォームを使用することによって靴底の滑り止めの松ヤニを使用することなく競技会を実施し、競技会場の床や競技者の靴底の汚れを防止している。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境保全啓発ポスター、バナー掲示などの活動を通して、環境保全の重要性をアピールした。今

後も、会場地元等と協力のもと、環境保全の活動を実践するとともに、主催者・参加者の意識向上に向け、さまざまな取り組みを展開していきたい。

(公財) 日本ハンドボール協会

1. 実施概要

全世界的な環境問題を改善していくためには、我々一人ひとりの自覚が不可欠である。そこで、スポーツ団体に取り組み可能な環境活動として、多くの方々が集まる大会等での啓発が効果的であると考え、会場へのバナー・ポスター掲示、プログラムへのポスター掲載等を行った。今後も、各都道府県協会、各連盟とも積極的に連携し、個人レベルから環境問題への意識が更に高まるように取り組みたい。

2. 平成 28 年度事業活動

- 全国大会開催時の会場に環境バナー、ポスターを掲示
- 大会プログラムへの環境ポスター掲載
- 「Fun to Share」 宣言・推進

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ① 大会における環境啓発活動
 - ・ 環境バナー、環境ポスターを会場内に掲出し広報した
 - ・ 環境ポスターを大会プログラムに印刷するようにした
- ② Fun to Share の宣言・推進
 - ・ 「ハンドボールで、低炭素社会へ」と宣言
 - ・ 事務局で製作する名刺には Fun to Share のロゴを印刷した
- ③ 事務局におけるグリーン購入・エネルギー節約
 - ・ 事務用品の利用にあたり、エコ商品の購入に努めた
 - ・ 資料配付にあたりメール添付を多用し、ペーパーレス化に努めた
 - ・ 夏季はクールビズとした

4. 全体的な成果と今後の課題

環境バナー、ポスターの大会や集会会場への掲出により環境問題への啓発活動を行って来たが、必ずしも十分に意識浸透したとは言えない。これからは、より具体的な例を挙げて啓発活動を行うことが必要と考え、他の NF の取組を参考に、その方法を検討していきたい。

(公財) 日本自転車競技連盟

1. 実施概要

近年、自転車は有害物質を排出しない、健康的かつ環境にやさしい乗り物として注目を浴びる存在となっている。その自転車を利用したスポーツである自転車競技は、環境にやさしいスポーツとして

の定着を目指し、競技と環境の関わりを一層深めることをめざす。

2. 平成28年度事業活動

- 紙消費量の削減（インターネットによる大会申込の推進など）
- ボディナンバー用安全ピン配布の中止
- 環境啓発ポスター、バナーの掲示
- ロードレース中におけるゴミ廃棄の禁止徹底

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①紙消費量の削減

大会申込を紙面の郵送によるものから、インターネット上に開設した特設サイトを利用。掲示やウェブアップの活用により紙面配布物を削減した。

②ボディナンバー用安全ピン配布の中止

主要大会において、ボディナンバーを止める安全ピンを選手持参とし、主催者による新たな配布を中止した。

③環境啓発ポスター、バナーの掲示

大会会場での環境啓発ポスター、バナー掲示による啓発活動を行った。

④ロードレース中におけるゴミ廃棄の禁止徹底

レース中に摂取した補給飲食物の包装紙等をむやみに廃棄することが無いように、廃棄区間を設定、各チームによる回収の徹底をコミュニケにて告知するとともに、違反者にペナルティを課した。

4. 全体的な成果と今後の課題

27年度に引き続き、大会等イベント開催時における環境活動を重点的に行った。28年度についても次の2点については進展が見られた。

1点目は安全ピンの選手持参がさらに徹底された点である。全日本選手権相当の大会では既に定着してきたが、普及レベルのイベントについても同様の措置で問題なく運営することができた。

2点目は紙消費量の削減を引き続き進めた点である。近年、大会要項や申込書についてはメールやHPからの発信に完全移行がなされ、また申込についても印刷や郵送が必要な大会を減らし、インターネット上に新規開設したエントリーサイトによる手続きを推進している。28年度はその割合を更に増やし、27年度を上回る削減が達成された。

本連盟の環境活動は基礎的な取り組みが中心となっているが、限られた予算や人員でできる活動を今後も進め、多くの参加者・観客に浸透していくよう引き続き継続していきたい。

(公財) 日本ソフトテニス連盟

1. 実施概要

日本ソフトテニス連盟環境部会は、平成23年度に環境・教育プロジェクトに変更し、公益財団法人移行とともに平成24年度からは環境・教育プロジェクトとして特別委員会となった。特別委員会設置の目的は、「ソフトテニス長期基本計画2012」の主要な取り組み事項として、公益財団法人としての高い社会的信用性を維持し、公益目的事業を行うために、ソフトテニスを通じて環境と教育に

取り組むことにある。ソフトテニスを通じて環境保全を図っていくとともに、自己責任及びフェアプレーの精神を身につけ、マナーを重んじる教育を推進し、青少年の健全育成を図ることとした。環境対策については、傘下 47 都道府県支部と日本学生連盟に、本連盟独自で作成した環境とマナーの横断幕「来たときよりも美しく！ありがとう あなたの笑顔と そのマナー」と既に配布済みの「この星にスポーツを」の横断幕を各支部の施設に常設しつつ、大会や会議での啓発活動として掲出するとともにゴミの分別等エコ意識の高揚に継続して努めている。

2. 平成 28 年度事業活動

- 全国大会会場にて横断幕および環境ポスターの掲示
- 機関誌および大会プログラムに広告掲載
- 大会会場における分別ゴミ箱の設置、ゴミの持ち帰り促進
- マイボトル利用を促進
- マナーチェックシートを作成し、マナーの実態調査
- 「ソフトテニスマナー BOOK」の活用
- ボールの再利用の研究

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①全国大会会場にて横断幕および環境ポスターの掲示
横断幕の掲出およびポスターの掲示を行い、啓発活動を行った。
- ②機関誌および大会プログラムに広告掲載
日本連盟発行の機関誌および主催大会プログラム等に掲載することで啓発活動を行った。
- ③大会会場における分別ゴミ箱の設置、ゴミの持ち帰り促進
会場を清潔に使用すること、ゴミを分別することにより資源の再利用を図ることを促進した。
- ④マイボトル利用を促進
紙コップ使用をしないことによるゴミの削減を促進した。
- ⑤マナーチェックシートを作成し、マナーの実態調査
参加選手や監督だけでなく、保護者や応援者のマナーの実態を調査した。
- ⑥「ソフトテニスマナー BOOK」の活用
平成 27 年度作成のマナー BOOK について、引き続き大会会場での配布等を行い、参加者・応援者にマナー向上を呼びかけた。
- ⑦ボールの再利用の研究
ボールメーカーに問い合わせ物理的には可能との見解を得る。

主な大会名	開催日	会 場	主管団体
全日本シングルス選手権大会	5/14 ~ 15	奈良県明日香村	奈良県ソフトテニス連盟
全日本実業団選手権大会	7/29 ~ 31	愛媛県大洲市・今治市	愛媛県ソフトテニス連盟
全日本小学生選手権大会	7/28 ~ 31	山形県天童市	山形県ソフトテニス連盟
全日本高等学校選手権大会	7/28 ~ 8/4	岡山県備前市	岡山県ソフトテニス連盟
全国中学校大会	8/22 ~ 24	石川県能都町	石川県ソフトテニス連盟
全日本社会人選手権大会	9/3 ~ 4	茨城県神栖市	茨城県ソフトテニス連盟
JOC 杯全日本ジュニア選手権大会	9/17 ~ 18	広島県広島市	広島県ソフトテニス連盟

全日本シニア選手権大会	9/9～11	千葉県白子町	千葉県ソフトテニス連盟
全日本選手権大会	10/21～23	山口県宇部市	山口県ソフトテニス連盟
東日本選手権大会	7/16～17	新潟県新潟市他	新潟県ソフトテニス連盟
西日本選手権大会	6/25～26	奈良県明日香村	奈良県ソフトテニス連盟
国民体育大会	10/2～5	岩手県北上市	岩手県ソフトテニス連盟
日本実業団リーグ	10/28～30	広島県広島市	広島県ソフトテニス連盟
全日本クラブ選手権大会	10/29～30	千葉県白子町	千葉県ソフトテニス連盟
ジュニアジャパンカップ	11/25～28	宮崎県宮崎市	宮崎県ソフトテニス連盟
日本リーグ	12/16～18	愛知県豊田市	愛知県ソフトテニス連盟
全日本インドア選手権大会	29・1/29	大阪府大阪市	大阪府ソフトテニス連盟

4. 全体的な成果と今後の課題

平成28年度の活動により、環境保全・啓発活動を訴え、関係者の意識を高めることができた。マナーチェックシートを作成し、日本連盟主催大会だけでなく各都道府県や学生の大会会場にて主催者がチェックできるよう配布した。このチェックシートの分析により、まず実態を把握し、どの観点からアプローチしていくかを検討していきたい。

今後も環境・教育プロジェクトを中心に、引き続き上記の活動を各支部と連携を図り、日本ソフトテニス連盟独自作成の環境とマナーの横断幕と、平成27年度に作成した「マナーBOOK」を活用し、環境保全の大切さとマナーの向上に取り組んでいく予定であり、同時に大会時に環境とマナーのチェックシートを活用し実態調査を引き続き行っていく。

また、ボールの再利用についても製造メーカーと協力し研究を重ねていく。

(公財) 日本卓球協会

1. 実施概要

近年「地球温暖化」などの気候変動により地球環境は劇的に変化、太平洋の海面0メートルに近い島々が将来水没するといった状況が想定され、また生き物の生態環境にも変化が見られ、地球規模でその対策が急がれている。日本卓球協会として、環境改善活動を個人・団体に関わらず実施する。

2. 平成28年度事業活動

- 大会時環境保全・改善に関するアナウンス
- 大会時会場内に環境啓発ポスター・パネルの掲示
- 大会プログラムに気候変動キャンペーン「Fun to Share」(環境省)または温暖化対策の為の国民運動「COOL CHOICE」を掲載

3. 具体的な活動実施内容とその成果

本協会主催の全国大会にて環境啓発ポスター掲示・パンフレット配布。

プログラムには気候変動キャンペーン「Fun to Share」(環境省)または温暖化対策の為の国民運動「COOL CHOICE」を寄稿する。

高校→①全国高校選抜大会(17・3月 大阪市中央体育館)

プログラムに「COOL CHOICE」を掲載

②全国高校総体（'16・7月 岡山県 総社市スポーツセンター）

プログラムに「COOL CHOICE」を掲載

大学→①関東学生春・秋リーグ戦（春4月所沢市民体育館 秋8月和光市体育館）

②全日本学生選抜選手権（'16・11月 流山市総合体育館）の2大会に

プログラムに温暖化対策の為の国民運動「COOL CHOICE」を掲載

③全日本大学総合卓球選手権個人の部（'16・10月 長野市ホワイトリンク）

「来たときよりきれいに」ポスター掲示（男女優勝者にアピール依頼）

④ジャパンオープン（ワールドツアー）（'16・6月 東京体育館）

温暖化対策の為の国民運動「COOL CHOICE」を掲載

⑤全日本選手権（'17・1月 東京体育館）

プログラムに温暖化対策の為の国民運動「COOL CHOICE」パネル展示

卓球用具不要品募集を実施（再利用で貧困国に送る為）

4. 全体的な成果と今後の課題

主に日本卓球協会主催のカテゴリー別全国大会で環境に関するポスター・パネル掲示・配布物等実施。また学生リーグ戦大会にも幅を広げ、選手はじめ関係者、そして観客に環境改善・保全の重要性と啓蒙活動を実施した。

全日本選手権では初めて卓球用具不用品の回収を行い、再利用活動も展開した。今後はより対象大会を広げる事と各県協会にも環境問題を働きかけていき、卓球界全体で取り組む様にしたい。

（公財）全日本軟式野球連盟

1. 実施概要

全日本軟式野球連盟はスポーツ振興に寄与する目的から、平成17年度に環境担当委員会を設置し事務所内及び競技会での環境への取り組みを実施し、環境保全啓発ポスター、チラシを作成、競技会場で掲出・配布し当連盟関係者・大会参加者及び観戦者に向けて環境保全の啓発を促し環境保全意識の向上を図っている。

平成19年に各支部より使用済軟式野球用具の収集を開始し、野球用具の入手困難な国や地域へ寄贈する活動も10年目を迎えた。近年では、登録チーム及び一般向けにも用具提供依頼を行い事業拡大を図っている。

平成24年度から、一部の事務連絡等の文書配布において、ペーパーレス化を図り、加盟団体支部（47支部）に電子メールでの配信を実施している。

2. 平成28年度事業活動

●競技会等での環境啓発活動と環境活動（中古用具の海外寄贈）

3. 具体的な活動実施内容とその成果

【競技会等での環境啓発活動】

連盟主催大会及び講習会にて JOC 環境啓発ポスター、JOC 環境啓発バナーの掲出、全軟連環境啓発ポスターの掲出、全軟連環境チラシの配布を行った。

また、競技会場においては、ゴミの分別・ゴミ持ち帰りの呼びかけなど、選手や観戦者に対して環境啓発活動を行った。

【環境活動】

日本ではゴミとなる使用済み野球用具が海外の国や地域によっては、十分に使用可能であり、野球の普及にもつながるという観点から、国際協力機構（JICA）の「世界の笑顔のために」プログラムに参加する形で、また本連盟主催大会である高円宮賜杯全日本学童軟式野球大会マクドナルド・トーナメント会期中に回収ブースを設置し、JICA、日本マクドナルド株式会社と連携のもと事業展開を行った。本年度の寄贈国は、スリランカ、パラオ、アルゼンチン他、計 11 か国となった。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境啓発ポスター、バナーの掲出、環境チラシの配布やゴミ分別・持ち帰りの呼びかけにより、全国大会においては参加者の環境への意識向上につながってきた。今後は、各都道府県大会においても積極的な環境啓発活動を実施されるよう、加盟団体支部へも呼びかけていきたい。

屋外スポーツである軟式野球では、地球温暖化等による異常気象や大気汚染の進行が競技に与える影響を理解した上で、改めて環境保全に対する取り組みを積極的に行っていきたい。

（公財）日本相撲連盟

1. 実施概要

相撲大会会場は、国技館や各県の市町村にある体育館に特設する相撲場のような屋内の場合と靖国神社相撲場や堺市大浜公園相撲場など屋外の場合に分かれている。

本連盟として、環境活動の重要性を認識し、それぞれの大会では、一般のゴミの分別の徹底と、持ち込んだゴミは持ち帰るという活動を今後も継続的に実施していく。

いくつかの大学においては、相撲部の合宿所においてゴミの分別の徹底を図るとともに相撲部員が最寄りの駅から合宿所の道程にゴミの無いように、ゴミ拾いを実施している。

今後このような取り組みが、加盟大学に広がるよう推進していきたい。

2. 会場別対策

- 屋内の大会でゴミが放置されている例はほとんど見当たらない。
- 屋外においても持ち帰りを指導しているため、ゴミについての問題はない。

3. 相撲競技に特異な注意点

- 屋内相撲場では、特に砂の扱いに注意が必要である。

小中学生の大会では、少年選手たちが砂を付けたまま観覧席に入ることがある。

砂は足などのほか、まわしにも付いているため、国技館の柙席などにはまわしを付けたまま入ることを禁止している。砂を取るための清掃費は、数十万円かかる場合がある。

監督会議で注意をするほか、大会当日の放送や見回りを繰り返しており、現在ではほとんど問題がなくなっている。

4. 平成 28 年度の具体的な取り組みと今後の取り組み

国体競技（岩手県八幡平市）や日本相撲連盟主催の全国都道府県中学生相撲選手権大会、全日本選手権（東京都・国技館）の会場において、『来たときよりもキレイに！』のポスターを掲示するとともに、環境活動の重要性を喚起し選手、監督、役員などの関係者全員に、ゴミの分別と持ち帰りの徹底を促した。

これからは今までの取り組みを継続するとともに、スポーツと環境が大きなかわりを持つことを多くの方に理解してもらえるように、大会会場等にポスターや横断幕等を掲示して環境保全に努めていきたい。

（公社）日本馬術連盟

1. 実施概要

子どもたちと一緒に取り組む「環境とスポーツのあり方」をスローガンに、継続的活動を積極的に行った。

2. 平成 28 年度事業活動

- 馬術競技大会時に環境啓発ポスター、バナーの掲示
- ジュニア競技大会時に子どもたちに対し環境活動の啓発
- 連盟機関誌「馬術情報」に、定期的に「スポーツの心、環境と未来へ」の JOC スポーツ環境専門部会ポスターを掲載。同様に全日本大会プログラムへも掲載し、環境への啓発活動を実施

3. 具体的な活動実績内容とその成果

- ①馬術競技大会時に環境啓発ポスター、バナーの掲示
日本馬術連盟主催大会において、環境啓発ポスター及びバナーの掲示、環境パンフレットの配布を行い、啓発活動に努めた。また、ゴミの分別収集を徹底した。
- ②ジュニア競技大会においても子どもたちに対し、環境活動の啓発
ジュニア選手に対し、競技大会前に環境パンフレットの配布を行い、大会役員から環境活動について説明を行った。

大会名（開催場所）	参加選手数
第 33 回全日本ジュニア馬場馬術大会（御殿場市馬術・スポーツセンター）	約 70 名
第 37 回全日本ジュニア総合馬術大会（山梨県馬術競技場）	約 50 名
第 40 回全日本ジュニア障害馬術大会（御殿場市馬術・スポーツセンター）	約 170 名
第 37 回全日本ヤング総合馬術大会（JRA 馬事公苑）	約 80 名

4. 全体的な成果と今後の課題

平成 28 年度は、引き続きジュニア選手たちを中心に啓発活動を行った。この活動を積極的に続けることにより、啓発から実践につながるものと考え。今後も馬術競技大会を通じて、多くの方に環境に対する啓発活動を続けていきたい。

(公社) 日本フェンシング協会

1. 実施概要

大会時に全国の競技者、指導者等に対して環境保全の啓発を図り、環境活動に関する理解を深める運動を展開した。今後は全国レベルで積極的かつ継続的な活動を目標に取り組む。

2. 平成 28 年度事業活動

- 国立スポーツ科学センター内、フェンシング道場の節電を実施
- 大会時に環境啓発ポスターを掲示
- 競技会における環境活動（安全、整理整頓、ゴミ分別収集等）

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①毎日、実施できる取り組みとして、国立スポーツ科学センター内、フェンシング道場の練習時間外の節電。
- ②第 69 回全日本フェンシング選手権大会（平成 28 年 12 月 1 日～12 月 4 日）にて環境ポスターを掲示して啓発を図るとともに、ペットボトル、ビン、可燃ゴミの分別を行い、会場内でゴミ収集への協力を呼びかけた。
- ③JOC ジュニアオリンピックカップ・フェンシング選手権大会（平成 29 年 1 月 6 日～9 日）において環境ポスターを掲示して啓発に努めた。年齢が若い選手が対象であり、会場内で『周辺を清掃する。ゴミを出さない』ようアナウンスして注意喚起を図った。
- ④大会時に環境委員が館内を見まわり、ペットボトルや空き缶等の片付けや会場内の整理整頓を実施。

4. 全体的な成果と今後の課題

- ・昨年に引き続き国立スポーツ科学センター内、フェンシング道場の節電に努めた。練習時間外に選手やスタッフが率先して電気を消すようになった。
- ・大会でポスターを掲示し、会場内で『ゴミの分別』を呼びかけたが、ペットボトルやゴミ等が片付けられていないことがあった。競技会での環境委員の見回りを強化し、指導者や選手たちへ環境活動の啓発に努める。
- ・今後も開催団体・主管団体と協力して啓発活動を拡げる努力をしていく。

(公財) 全日本柔道連盟

1. 実施概要

全日本柔道連盟では、前年に引き続き、2020 年の東京オリンピックを目指した「競技面の強化」と、礼節を重んじた品格のある柔道を通じた「人づくり面の強化」の 2 つの課題に取り組んでいる。特に「人づくり面の強化」では、2014 年から柔道 MIND プロジェクト活動を推進しており、柔道の指導者、選手や、試合会場において、啓発を行っている。

2. 平成 28 年度事業活動

- 大会時の環境啓発ポスター、バナー掲示
- 大会プログラムへの掲載
- 大会・イベント時の会場内におけるゴミ分別の徹底
- リサイクル柔道衣、畳の供与

3. 具体的な活動実施内容とその成果

昨年から引き続き、当連盟主催の大会・イベントにおいて、横断幕・ポスターを会場内に掲示し、スポーツと環境保全活動の啓発に努めた。練習会場や観覧席においては、担当の係員を配置し、選手や観客による自発的なゴミ分別を徹底した。また、国際貢献事業の一つとして、各国へリサイクル柔道衣及び畳の供与を行っており、本年度は 10 カ国へ贈呈した。

4. 全体的な成果と今後の課題

全国レベルの大会だけでなく、都道府県柔道連盟・協会にて、各都道府県での大会時に観客や保護者に対するゴミ持ち帰りの呼び掛け、ゴミ分別の徹底、参加者全員による大会終了後の会場内清掃等、会場美化運動、あるいは社会奉仕として地元地域の清掃活動を実施している。

また、国際貢献の一環として、リサイクル柔道畳を 10 カ国（パナマ、エルサルバドル、マレーシア、カンボジア、フィリピン、インドネシア、バングラデシュ、パキスタン、マダガスカル、バルバドス）へ供与した。

本連盟においては、2014 年 4 月に「柔道 MIND プロジェクト」を発足し、柔道の本質である礼節、品格のある柔道人を育成することを目的として活動している。嘉納治五郎師範の遺訓である「精力善用」「自他共栄」という柔道の根本原理を、「人と自然との共存」というテーマにおいて応用実践することで、今後も環境保全に努めていきたいと考えている。

5. JOC スポーツ環境専門部会員 山口香

全日本柔道連盟では、柔道の創始者である嘉納治五郎師範の目指した「柔道を行うことによって技術の上達のみならず人間的な成長」を達成することを念頭に様々な事業に取り組んでいる。今日、環境問題は、個人や国レベルではなく、地球規模での課題となっている。その意味でも連盟として環境に取り組むことは、自他共栄の柔道精神に則った活動であると考え、指導者、選手はもちろん、試合会場に来る保護者やファンなどにも啓発活動を行っている。具体的には大会会場でのゴミの分別や持ち帰り、公共交通機関を使用する際の往来など、負担を感じなくてもできるような取り組みを呼びかけている。このような活動を通して一人ひとりが環境に配慮する行動を意識してくれるようになることを願っている。私自身も、指導者講習会や講演会などで、オリンピック委員会がなぜ環境問題に取り組むのか、スポーツと環境の関係などをわかりやすく説明するように心がけた。人類が自然と共生していくためには、環境への配慮を忘れてはならず、小さな努力を積み重ねることが重要だと考えている。

(公財) 日本ソフトボール協会

1. 実施概要

屋外競技であるソフトボールが、地球温暖化等による天候不順や、大気汚染によって実施できなくなる事を危惧し、JOC 環境委員会のスローガンである「この星にスポーツを」、また日本ソフトボール協会の環境スローガンである「ホームラン 入ったスタンド ゴミはなし!」を、大会毎にバナー掲示し、継続的活動を行った。また、各大会のプログラムに、環境に関する標語もしくはメッセージを入れ、より積極的な活動を進めた。

2. 平成 28 年度事業活動

- 大会時環境啓発ポスター、バナーの掲示
- 各大会のプログラムに環境標語もしくはメッセージを入れる
- 啓発ポスターのデザインを使用したクリアファイルの作成・配布

3. 具体的な活動実施内容とその成果

本協会主催大会にて、環境啓発ポスター、バナー掲示を行い、啓発活動を行った。また、本協会が主催する各大会のプログラムに環境標語もしくはメッセージを入れ（別表）、啓発活動を行った。

4. 全体的な成果と今後の課題

ポスター、バナーの掲示や、啓発活動を行ってきた成果が実り、選手をはじめ多くの関係者及び観客に環境啓発の知識や、理解を得ることができた。

ただ、平成 28 年度に実施の無かったソフトボールフォーラムに代わる講演の場が整わず、講演での啓発活動については、実施できなかった。代替案として、各大会の監督会議の際に派遣される理事から啓発を依頼し、拡がりをみせる取り組みを模索したい。

来年度以降も引き続きより多くの方々の環境に対する理解を求めて、より積極的に環境保全に努めていきたい。

平成28年度全日本大会一覧

回数	種別	期日	会場	部数
36	美業団男子選手権	7月30日～8月1日	京都府舞鶴市	800
36	美業団女子選手権	7月29日～31日	愛媛県西予市	500
37	クラブ男子選手権	7月30日～8月1日	富山県富山市	800
37	クラブ女子選手権	7月23日～25日	福島県いわき市	800
62	教員選手権	7月30日～8月1日	愛知県一宮市・江南市	800
51	大学男子選手権	8月26日～29日	鹿児島県南九州市	1000
51	大学女子選手権	8月26日～29日	鹿児島県南九州市	1000
62	全日本総合男子選手権	9月17日～19日	愛媛県八幡浜市・大洲市	800
68	全日本総合女子選手権	9月17日～19日	大分県別府市	800
16	中学生男子大会	8月12日～14日	大阪府大阪市	1200
16	中学生女子大会	8月12日～14日	大阪府大阪市	1200
30	小学生男子大会	8月5日～8日	栃木県大田原市	1200
30	小学生女子大会	8月6日～9日	岡山県岡山市・久米南町	1200
21	レディース大会	9月17日～19日	高知県高知市	1200
15	エルデスト大会	9月10日～12日	北海道倶知安町	1200
13	一般男子大会	8月6日～8日	山梨県笛吹市	1200
31	壮年大会	9月3日～5日	宮崎県宮崎市	1200
25	妻年大会	9月17日～19日	岐阜県下呂市	1200
30	シニア大会	9月23日～25日	奈良県黒滝市・橿原市・橿原町	1200
11	ハイシニア大会	10月28日～30日	奈良県生駒市・大和郡山市・広陵町	1200
35	全国高校男子選抜大会	29年3月18日～21日	福岡県北九州市	1200
35	全国高校女子選抜大会	29年3月18日～21日	兵庫県加古川市	1200
13	都道府県対抗全日本中学生男子大会	29年3月25日～27日	岡山県新見市	1200
13	都道府県対抗全日本中学生女子大会	29年3月25日～27日	東京都三鷹市	1200
10	春季小学生男子大会	29年3月26日～28日	静岡県掛川市	1200
10	春季小学生女子大会	29年3月26日～28日	神奈川県小田原市	1200
				27500



(公財) 日本バドミントン協会

1. 実施概要

当協会は、スポーツ団体として環境活動の重要性を認識して、環境委員会を中心に「出来ることから始める」をスローガンに登録会員全員に向けて、環境保全の意識を高めることを中心に継続的な活動を実施した。そこから当協会だけの活動に止まらず、より多くの人々に発信していけるような活動を目標に取り組んでいく。

2. 平成 28 年度事業活動

- 大会時環境啓発ポスターの掲示
- 大会プログラムに環境啓発広告を掲載
- 大会の要項に環境啓発項目の記載他、大会時の環境活動
- 環境保全として、大会時、合宿時にゴミの分別活動実施

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①大会時環境啓発ポスターの掲示

本会評議員会、S/J リーグ全国 17 カ所他、主催 21 大会において、環境啓発ポスター、パンフレットの配布及び啓発活動の実施。

②大会の要項に環境啓発項目の記載他、大会時の環境活動

本会主催 21 大会及び S/J リーグの要項に以下の 3 つの事項を必ず記載し、環境活動の重要性を認識させている。

- ・ゴミの分別収集に協力してください
- ・部屋から出るときにはエアコン、テレビ、ライトのスイッチを消してください
- ・マイ歯ブラシを持参して大会に参加してください

また、大会開催にあたり、本会の案内、大会要項の申し込み方法、連絡方法などにあたり電子メールを活用して、ペーパーレス化を実施している。

③環境保全として、大会時、合宿時にゴミの分別活動実施

- ・大会時における役員、参加選手へのゴミの分別を徹底させている。
- ・本会強化合宿のナショナルチームからジュニアナショナルチームまでの選手に対しては、味の素ナショナルトレーニングセンター内の練習に於いて、ドリンク類の使用量の多さに注目し、キャップと本体の分別を徹底し、環境活動の重要性を認識させている。

4. 全体的な成果と今後の課題

本会では環境委員会の委員を中心に、主に大会時におけるポスター掲示、パンフレット配布など地味な活動を中心に行ってきた。選手・加盟団体の関係者、登録会員には環境啓発の知識、理解を得られたと認識している。今後も継続的に現在の活動を続けることで、スポーツと環境のかかわりを多くの方に理解していただくように活動を継続していく。

(公財) 全日本弓道連盟

1. 実施概要

スポーツ団体として環境活動参加の重要性を認識し、行事参加者各位へ啓発活動を行った。

2. 平成 28 年度事業活動

- 主催行事における環境啓発活動
- 主催行事における環境活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①主催行事における環境啓発活動

本連盟主催大会にて環境啓発ポスターを掲示し啓発活動を行った。

本連盟主催講習会において主催者挨拶の中で環境に関する内容を話した。

②主催行事における環境活動

ゴミの分別を徹底し、資源の再利用に努めた。

照明、空調の調整をこまめに行い、CO₂削減について取り組んだ。

大会速報を掲示のみにとどめ、紙の使用を削減した。

4. 全体的な成果と今後の課題

ポスター掲示などの啓発活動により、役員・選手・観覧者等広く環境保全を促すことが出来た。特に平成 28 年度は全国加盟団体の会長が集まる会議・講習会での啓発活動によりスポーツと環境への意識を高めてもらえたと考えられる。各加盟団会で会長が伝達することにより、啓発活動の更なる広がりが期待できる。

これからも個々の意識を高め、実践活動につなげていくことが必要だと考えている。

(公社) 日本ライフル射撃協会

1. 実施概要

日本ライフル射撃協会は、環境保全に関する活動の重要性を認識し、総務委員会を中心に環境保全を目的とする取組みと会員の環境意識の向上を図る活動を行っている。

2. 平成 28 年度事業活動

- 国体、全日本小学生大会等の競技会、会議等での環境ポスター掲示
- 射撃場施設でのゴミの分別収集の徹底とゴミ持ち帰り運動の実施
- 競技後の使用銃弾（鉛弾）の回収と適切な処理作業
- 屋内射撃場設置の際の適切な換気設備の設計織り込み指導
- 環境保全に関する内容を講習会等で実施

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①競技会、会議等での環境ポスター掲示

全国加盟団体や関係団体に環境ポスターを配布するとともに和歌山国体や全日本小学生大会などの競技会で環境ポスターを掲示し、会員への啓発に努めた。

②射撃場施設でのゴミの分別収集の徹底とゴミ持ち帰り運動の実施

射撃場施設でのゴミ分別収集を徹底するとともにゴミを持ち帰ることにより、施設から発生するゴミの減量化に努めた。

施設駐車場でのアイドリング禁止や施設内照明電力等の省エネを呼び掛け、施設利用者全員の協力で活動を展開した。

③競技後の使用銃弾（鉛弾）の回収と適切な処理作業

競技に使用する鉛弾の回収について、各射撃場において適切な処理を行った。

④屋内射撃場設置の際の適切な換気設備の設計織り込み指導

NTC 新屋内射撃場設計協議の際に、選手の健康に影響の無い適切な気流方向で十分な換気量を確保した設備設計を指導した。

4. 全体的な成果と今後の課題

競技会での環境に関する啓発を多くの機会をとらえて行うことにより、会員の意識の向上に成果が見られた。今後、競技会場や都道府県事務局等への環境ポスターの掲示をはじめ、機関誌や協会ウェブサイト上への環境に関する記事掲載、講習会及び研修会での環境教育のカリキュラムの導入等を引き続き実施する。

ゴミの分別収集の徹底とゴミの減量化はかなり進んでいると思われる。特に、使用銃弾（鉛弾）の回収と適正な処理は全国で適切に実施されている。

施設利用時の場内清掃の励行（クリーン運動）やゴミのポイ捨て禁止の徹底、ゴミの持ち帰り、場内駐車場での静かな運転とアイドリングの禁止、射撃場施設への緑化と花の栽培の推進及び施設管理上の省エネの実践、グリーン購入について、会員の理解と協力を得るなかで拡大する。

今後も地道な活動ではあるが、具体的な行動指針を示しつつ、身の周りのできることから実施する。

（一財）全日本剣道連盟

1. 実施概要

平成 28 年度も、全国の剣道愛好家から中古剣道具をいただき、剣道具の入手が困難な海外の剣道連盟や団体への寄贈を継続的に実施することを通して、身近なところから「地球規模の環境保全意識」を啓発・実践することに力を注いだ。

2. 平成 28 年度事業活動

- 中古剣道具の海外への寄贈を継続
- 環境保全啓発ポスターの活用
- 大会等でのゴミの分別回収等の実践

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①中古剣道具の海外への寄贈を継続

平成 28 年度も全国から寄せられた中古剣道具を補修し、ポーランド、スロベニア、キューバ、キ

ルギス、ネパール、セネガル、ウクライナ、エクアドルの8か国に寄贈した。

②環境保全啓発ポスターの活用

全国剣道大会等の開催時、また職場においてもポスターを掲示して環境保全意識の高揚に努めた。

③大会等でのゴミの分別回収等の実践

全国剣道大会等でのゴミの分別回収(弁当箱・ペットボトルの専用回収)、事務所内のリサイクルボックスの利用を促進した。

4. 全体的な成果と今後の課題

中古剣道具の補修・活用により剣道の国際的普及の一翼を担うことができた。国内においては、更なる「剣道と環境保全」意識の高揚と活動内容の検討を進めていきたいと考えている。

(公社) 日本近代五種協会

1. 実施概要

当協会は下記2.のごとく、開催した各競技会において、参加選手とその家族ならびに運営役員及び観戦者に環境保護の呼びかけと協力依頼を行った。

2. 平成28年度事業活動（アピール啓発活動を行った競技会）

- ・6月19日 長野県大桑村大会（木曾）
- ・7月10日 北海道野幌市大会
- ・8月7日 愛媛県松野市大会
- ・8月23日 香川県三豊市大会
- ・9月4日 近代3種全国大会（千葉県）
- ・10月29日 近代五種全日本選手権大会（山梨県）

3. 具体的な活動実施内容とその成果

競技会参加申込受付時に公共交通機関利用や車両の相乗り等での来場を推奨し、競技当日は啓発ポスターを掲示してゴミの分別や持ち帰りとりサイクルの呼びかけを実施した。

運営役員の移動及び行動にも同様の配慮を行った。

地方都市では環境保護に対するアピールが頻繁になされてはいない状況だが、呼びかけに対して多くの人の理解と協力を得て意識向上にも寄与出来たものとする。

4. 今後の課題

スポーツ分野における環境保護への意識は一定のレベルまでは到達したと考える。

更なる啓発を目指すには物品とエネルギー消費を抑えることが競技主催者と参加者の互いの経済的な負担の軽減につながる事を訴える必要がある。

また各NF個別の訴求力には限度があり、2020年の東京オリンピック開催を大きな契機として全競技横断的なアピールが更なる効果をもたらすものとする次第である。

(公財) 日本ラグビーフットボール協会

1. 実施概要

日本ラグビーフットボール協会は、総務委員会に環境部門を設置して10年目を迎え、環境部門委員によりスポーツにおける環境活動への取り組みとして、『社会貢献活動の1つと位置付け、ラグビーを通じて環境保全に関する啓発・実践活動の推進を図る』ことをテーマとして各種事業を実施した。

2. 平成28年度事業活動

- 日本協会『環境保全活動推進宣言』に基づいた推進活動の展開
- 地球温暖化防止のための『Fun to Share キャンペーン』（環境省主管）加盟メンバーとして環境保全活動への協力
- 協会内各委員会との連携・協力体制により環境PR活動推進
- 日本代表チーム、トップリーグとのコラボレーションによる相乗効果を図る
- 2017年2月14日開催のJOCスポーツ環境担当者会議に参加し他団体の取り組み事例を研究
- 2016年リオデジャネイロオリンピック（男・女7人制ラグビー競技出場）にて、7人制ラグビー競技の認知度を高めた。今後2019年ラグビーワールドカップ（日本開催）、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、環境活動へのステップとしていく。

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①広報活動（環境啓発PR）

広報委員会との連携によりホームページ、機関誌、大会プログラム、メンバー表等への掲出により関係者、ファンへの環境保全運動を推進。

- ・「FOR ALL, FOR EARTH」の日本協会環境タイムライン活用

②トップリーグ試合会場におけるオリンピック・パラリンピック等経済界協議会「KEEP THE STADIUM CLEAN」プロジェクトの取り組みを実施（秩父宮ラグビー場、豊田スタジアム）

③秩父宮ラグビー場での「エコキャップ運動」を展開

ペットボトルキャップを回収し、資源の再利用を促進することでCO₂排出量の削減、キャップの再資源化で得る売却益をもって発展途上国の子どもたちにワクチンを届ける活動を行った。

④トップリーグ参加チームと日本協会による「TRY for GREEN」プロジェクトを継続展開。トライ数に応じた寄附により、網走市の森林保全活動「トップリーグの森」への支援を行った。（1月15日ジャパンラグビートップリーグ年間表彰式にて網走市水谷市長へ網走市の森林保全活動への寄付金を寄託）

⑤省エネルギー、エコ商品利用、試合観戦時の公共交通機関利用を推奨

4. 全体的な成果と今後の課題

地道な啓発活動から、ファンの方々にも環境保全への理解が得られ始めてきている。2019年のワールドカップ、2020年東京オリ・パラに向けて、より実践的な活動へと変換していくよう積極的に努めていきたい。

FOR ALL, FOR EARTH.

(公社) 日本山岳・スポーツクライミング協会

1. 実施概要

当協会における環境保全に関する活動は、登山者がフィールドとしている山岳地域での自然環境保護活動を主体とし、自然保護委員会を組織してスポーツ環境活動に取り組んでいる。

2. 平成28年度事業活動

- 独自制度である「自然保護指導員制度」(現在 1,400 名を超える登録数) の普及
- 自然保護委員総会 (各都道府県に委員を 1 名配置) の開催
- 環境省や日本を代表する山岳団体などと連携しての山岳自然保護活動
- 山岳地域におけるゴミ持ち帰りやトイレマナーの向上などを推進
- 各地における清掃登山や登山道の補修などを実践
- 環境省自然公園指導員を推薦し、自然公園内の適正利用や安全指導の推進など年間を通して活動している。

3. 具体的な活動実施内容とその成果

平成28年度の特記すべき活動としては、「大都市に息づく100年の森に集う」をテーマに、山岳自然保護の集い全国集会(第40回自然保護委員総会)を平成28年9月3日～4日に東京・代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターで開催し、全国から72名の委員が集まり、山岳環境について意見交流を行った。

当協会では独自の制度として、「自然保護指導員制度」を運営している。この制度は、登山をとおして、日本の素晴らしい山岳自然を後世に引き継いでいくよう、全国各地の加盟団体から1,400名の登録を受けて、正しい登山者マナーを広く呼び掛け、自然環境の保護に向けた活動を推進している。また、この指導員制度をさらに拡大展開を進めるべく、全国に情報発信をしている。

◆ 登山者マナー

1) 自然を大切にす

この恵み多い自然を、未永く後世に伝えるため、自然と友達のように接し大切にす。

2) 水資源を大切に

水は山からの恵みであり、あらゆる生命の源であるから、水源を汚さない。

3) テークイン・テークアウト

山に持ち込んだものは必ず持ち帰る。山にはゴミを残さない。

4) トイレマナーを守る

登山口で用を済ませて、携帯トイレの使用を習慣付ける。山岳トイレでは利用ルールを守る。使用済みペーパーなどトイレゴミの持ち帰りを呼び掛け。

5) ローインパクトを心がける

自然環境への負荷を抑える。移入植物の侵入への配慮(靴の泥に混入)。ストックにゴムキャップ装着。

6) 食糧や残飯の適切な管理を心がける

野生動物への配慮(餌やり防止、残飯投棄防止、キャンプ食糧の管理)。

(公社) 日本カヌー連盟

1. 実施概要

本連盟では環境保全並びに美化推進の重要性の観点に基づき、とりわけ水辺環境について「クリーンウオーター」運動を継続的に実施している。今後は本連盟加盟団体下にとどまらず協賛企業や関連自治体へも発信していくよう努める。

2. 平成 28 年度事業活動

すべての主催競技会における啓発活動を実施し、清掃活動等を実施

3. 具体的な活動実施内容とその成果

主催競技会における実施内容

- ①競技会実施以前に環境点検を主管団体と共同して実施し「来た時よりも美しく」を実践
 - ②危険箇所回避、瑕疵については排除し、設営に着手
 - ③水質については事前の公認検査の項目に照らし、汚濁・悪化防止に配慮
 - ④監督会議、開会式において必ず環境保全についてその重要性を発信
 - ⑤原則、ゴミは持ち帰りとし、やむを得ず会場処理する場合は自治体や宿泊業者とタイアップし処理体制を整備
 - ⑥会場内のゴミ拾い等は大会日程に合わせて一斉もしくは参加団体ごとに実施
- 現在では上記活動が恒常化しているため、あらためて活動イベント化していないが、29 年度に向けて協賛企業とタイアップしたイベントを企画

4. 全体的な成果と今後の課題

啓発活動はおおむね浸透している。また、「クリーンウオーター」運動は長年本連盟の重要スローガンであり定着している。カヌー競技場の設置により以前より水辺の環境が整備され、かつ水質が格段に改善され周辺住民に歓迎され公園化されているところも出てきており、カヌー競技場設置が契機となり自然と寄り添うこうした事例を全国にさらに広めたい。

今後の課題は、本連盟傘下ではない一般カヌー愛好者への啓発活動が急務である。レクリエーションとして普及することは大いに歓迎であるが、マナー欠如による環境汚濁については当該地域の加盟団体および自治体と協調して対応したい。次年度へ向けては協賛企業とタイアップし、これまで競技会参加者や運営サイドへの啓蒙を会場来場者や一般観客と一体化したイベントを推進することとしている。

(公社) 全日本アーチェリー連盟

1. 実施概要

加盟団体含めて連盟が一体となり、環境活動を具体的に明示して継続的に取り組むべく全国に発信した。

2. 平成 28 年度事業活動

- 環境宣言を制定
- 本連盟主催大会にて環境の啓発活動
- 本連盟からの加盟団体宛発信

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①環境宣言を制定、加盟団体にはメール発信と HP に掲載
- ②環境月間を制定して加盟団体含めての取り組みを促した
- ③加盟団体宛の文章発信等はメール発信にする
- ④具体的な環境の取り組みを例示して実践を促した
- ⑤本連盟主催大会のパンフレットに環境宣言を掲載しポスター、バナーを掲示し、ゴミの分別も行った。紙ベースの速報の掲示を廃止し、スマホにて読み取れるようにし、結果も HP に終了後速やかに掲載して配布をやめた
- ⑥全日本小中学生大会終了後役員選手全員で会場のゴミ拾いをし、全員でバナーを表示して集合撮影を行った

4. 全体的な成果と今後の課題

昨年度は環境についての啓発活動を実施したことで意識づけはできたが、今後は加盟団体においても全員参加型の環境への取り組みができるように啓発から実践できる体制にしていきたい。

(公財) 全日本空手道連盟

1. 実施概要

昨年度に引き続き、日本空手道会館内の節電や、その他会館内外で環境保全に関する取り組みを行った。

2. 平成 28 年度事業活動

- 徹底した節電
- 大会や講習会等におけるゴミ分別収集徹底の呼びかけ
- ナショナルチームによる早朝ゴミ拾い活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①日中は廊下の電灯を一部消した。また、エレベーター、エアコンのスイッチの近くに掲示物を貼り、日本空手道会館を利用するすべての方に節電への意識付けを行った。また、職員は日常の業務においても、夏は窓を開け放ちエアコンの使用を控え、冬は暖房の温度を控えめに設定し、上着を着たりひざかけを使用するなど、節電に努めた。
- ②大会会場や日本空手道会館を利用するすべての団体に対し、ゴミの分別を呼び掛けた。
- ③ナショナルチーム合宿において、宿舍まわりの早朝ゴミ拾い活動を行った。

4. 全体的な成果と今後の課題

当連盟では継続して徹底した節電を行っている。本館を使用する団体の中には、エレベーターの使用を抑えることはもちろん、真夏にもかかわらず冷房を使用せず窓の換気のみで対応するという、協力的な団体も見られた。今後も節電に対する取り組みを継続していく。

また、掲示物を利用した呼び掛けは効果があり、講習会参加者は自発的にゴミの分別を行う姿が見られるようになった。

ナショナルチームは強化合宿において、選手が宿舎周辺のゴミ拾い活動を行った。ナショナルチームへの意識づけは効果があり、昨年オーストリアで開催された世界大会終了後に、練習会場のゴミ拾いを行う日本チームの様子が個人のフェイスブックで紹介され、賞賛を受けた。

(公社) 全日本銃剣道連盟

1. 実施概要

環境保全活動の重要性を認識し、当連盟主催の各種大会・講習会において、参加者に対し積極的な啓発活動を行った。

2. 平成 28 年度事業活動

- 大会会場に環境啓発ポスターを掲示
- 大会プログラムに環境啓発ポスターを掲載
- 照明、空調等の調整による節電

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①大会会場に環境啓発ポスターを掲示し、選手や関係者に対し啓発活動を行った。
- ②事務室や道場の電気、空調をこまめに管理し、使用していない電化製品のプラグは抜く等、節電に努めた。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境保全の重要性を幅広く PR することができ、選手や関係者の意識も向上してきている。今後もこの活動を継続して行い、環境保全に貢献できるよう努めていきたい。

(公財) 全日本ボウリング協会

1. 実施概要

スポーツと環境保全への啓発活動は「普及・広報部会」が担当した。「施設を大事にすることが、自分の最高のプレーを引き出す」というテーマを継続し、具体策としての大会における活動は「競技委員会」の協力のもと実施した。

2. 平成 28 年度事業活動

- 各種イベントにおける環境啓発ポスター掲示
- 環境保全のためのルール、マナー等周知徹底と指導

- 大会成績のデータ活用による効率化と印刷コスト・資源使用の抑制

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①協会の大会、行事における環境啓発ポスター掲示

平成28年度の協会主催大会、理事会、審判員資格認定会等において、環境啓発ポスターを掲示した。また協会事務局内にも同ポスターを掲示し、注意喚起と資源の無駄づかい抑制に努めながら業務を遂行した。

②環境保全のためのルール、マナー等周知徹底と指導

協会主催の一部の大会ではプログラム冊子に環境啓発の広告を掲載した。またすべての協会主催大会の「監督会議」や「選手ミーティング」において、競技環境保護とルール、マナーの遵守について注意喚起を行い、大会中は場内アナウンス等により、選手、役員、観客など、大会にかかわるすべての人がマナーを意識し守るよう導くことを目標とし実施した。

③大会成績のデータ活用による効率化と印刷コスト・資源使用の抑制

選手・観客向けの成績公開方法としてSNSを活用し、従来より詳細な成績データをより早く公開することが可能となった。競技においてはスコアシート不使用を前年度に続いて推進。大会の最終成績一覧表もデータでの提供が定着し、印刷コストおよびコピー用紙使用の抑制は無理なく継続できている。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境保全のためのルール・マナーについては、競技に不慣れなジュニア選手や、指導者・審判員養成の場面で指導に力を入れることが先々の徹底につながると考えている。今後は審判員資格の認定会、ジュニアコーチ研修会といった事業の中で、より積極的に意識づけを行っていけるよう、各事業の担当部会に働きかけていきたい。

協会主催大会を主管する都道府県連盟では、連盟が主体的に「後片付け推進タイム」を設け、選手による場内のゴミ集め・忘れ物確認・競技エリアの現状復帰を指導するなどの活動を実施しており、今年度はより多くの大会で同様の対応が見られた。各ブロック、各県レベルの大会でも同様の動きが出ることを期待し、推奨していきたいと考えている。

(一財) 全日本野球協会

1. 実施概要

スポーツ団体として環境活動の重要性を認識し、総務委員会環境部会から各加盟団体に情報発信し、野球界全体における啓発活動に取り組んでいる。

特に野球で使用する木製バットは自然の恵みであり、自然環境の保全は野球界のメインテーマとなっている。平成28年度は「～愛する自然と野球のため～アオダモ植樹キャンペーン2016」をスローガンに北海道において植栽環境保全に貢献しながら、バット材として世界一と言われているアオダモの“バットの森”を育てる取組みを展開した。

2. 平成28年度事業活動

- 各加盟団体主催行事における環境ポスターの掲示

●バット材（アオダモ）の植樹活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①主催行事における環境ポスターの掲示

- ・ 7月ー第87回都市対抗野球大会 東京ドーム
第3回WBSC U-15ワールドカップ いわきグリーンスタジアム
- ・ 8月ー第98回全国高等学校野球選手権大会 阪神甲子園球場
- ・ 10月ー第42回社会人野球日本選手権 京セラドーム大阪
- ・ 1月ー第22回野球指導者講習会 オリンピック記念青少年総合センター
- ・ 通年 社会人野球並びに学生野球の各地方大会 各地主要球場

②バット材（アオダモ）の植樹活動（4回）

- ・ 日 程：平成28年7月16日（土）10:00～11:30
場 所：苫小牧国有林 1283林班は小班
植樹数：200本（鹿対策との同時並行作業）
参加者：福田将儀（東北楽天ゴールデンイーグルス）、北海道室蘭栄高校野球部員、北海道室蘭工業高校野球部員、北海道室蘭東翔高校野球部員、苫小牧スポーツ少年団野球部・新生台イーグルス野球少年団、地元ボランティア、林野庁北海道森林管理局、北海道庁及びアオダモ資源育成の会関係者 以上 140名
- ・ 日 程：平成28年8月1日（月）10:00～11:30
場 所：栗山町 栗の木ファーム
植樹数：100本
参加者：栗山英樹（北海道日本ハムファイターズ）、地元ボランティア、栗山ロッキーズ、継立ロビズ及びアオダモ資源育成の会関係者 以上 130名
- ・ 日 程：平成28年9月24日（土）10:00～11:30
場 所：由仁町道有林 119林班2小班
植樹数：300本
参加者：北海道教育大学岩見沢校野球部員、北海道札幌琴似工業高校野球部員、地元ボランティア、林野庁北海道森林管理局、北海道庁及びアオダモ資源育成の会関係者 以上 120名
- ・ 日 程：平成28年10月1日（土）10:00～11:30
場 所：新冠国有林 2101林班る小班
植樹数：200本
参加者：北海道浦河高校野球部員、地元ボランティア、林野庁北海道森林管理局及びアオダモ資源育成の会関係者 以上 100名

4. 全体的な成果と今後の課題

野球界はスポーツと環境が大きなかかわりを持つことを以前から考え、啓発し、実践してきた。植樹活動を推進している「NPO 法人アオダモ育成の会」も設立から10年以上経過している。今後も変わることなく環境保全に努めていきたい。

(公社) 日本カーリング協会

1. 実施概要

全国のカーリング専用ホールへポスターの展示を行うとともに、主要大会では環境特別委員会のメンバーが中心となり、選手・運営スタッフ共同で環境保全活動に対する意識の向上を積極的に図ることを目指し活動した。

2. 平成 28 年度事業活動

- カーリング施設への環境啓発ポスター掲示
- 主要大会でのスタッフ・選手による環境保全活動の実施
- 環境委員会により今後の活動方針の検討

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①札幌で行われた冬季アジア大会や日本カーリング協会主催の主要大会においてポスターの掲示

- ・ とうぎんカーリングスタジアム（北海道）
- ・ 軽井沢アイスパーク（長野県）
- ・ カーリングホール御代田（長野県）
- ・ みちぎんどリームスタジアム（青森県）
- ・ アドヴィックス常呂カーリングホール（北海道）
- ・ 妹背牛町カーリングホール（北海道）
- ・ 北海道立サンピラーパークカーリング場（北海道）等

②主要大会における大会参加者・スタッフによる環境活動

下記大会において大会参加者、スタッフを含めゴミの分別回収を徹底し、環境への意識の向上を図った。

《実施主要大会》

- ・ 2017 冬季アジア札幌大会
2017年2月18日（土）～26日（日） とうぎんカーリングスタジアム
- ・ 第25回ジュニアオリンピックカップ 日本ジュニアカーリング選手権大会
2016年11月22日（火）～27日（日） みちぎんどリームスタジアム
- ・ 第34回全農日本カーリング選手権大会（男女）
2017年1月30日（火）～2月5日（日） 軽井沢アイスパーク
- ・ 第10回全農日本ミックスダブルスカーリング選手権大会
2017年3月1日（水）～5日（日） アドヴィックス常呂カーリングホール

4. 全体的な成果と今後の課題

選手の環境保全に関する意識の向上は年々確実に見られてきているが、協会としてさらなる環境保全への取り組みにはまだ課題も多く、今後環境特別委員会を中心に検討が必要。

来年度は具体的な取り組みを増やし成果を上げたい。

(公社) 日本トライアスロン連合

1. 実施概要

- ①「グリーントライアスロン」※をスローガンとする環境保全活動の継続実施
- ②東京ベイクリーンアップ大作戦／野尻湖クリーン作戦
- ③カーボンオフセットの取組の拡大（横浜シーサイド大会から世界シリーズ横浜大会へ）



※「グリーントライアスロン」とは、国際トライアスロン連合（ITU）と日本トライアスロン連合（JTU）が共同で取り組む、「トライアスロン」を通じて行う環境活動。主にスタッフ・選手・スポンサー・来場者を対象とし、①リデュース（減らす）、②リユース（再利用）、③リサイクル（再資源化）の3つをテーマとして環境保全活動を大会主催者と連携して実施。

2. 平成 28 年度事業活動

- グリーントライアスロン in 横浜〔2016年4月16日（土）山下公園〕
- 東京ベイクリーンアップ大作戦〔2016年6月・9月・11月計3回 お台場海浜公園〕
- 野尻湖クリーン作戦〔2016年7月3日（土）長野県・野尻湖畔〕
- カーボンオフセットの取組〔2016年5月14日（土）・15日（日）山下公園特設トライアスロン会場／2016年9月25日（日）横浜・八景島シーパラダイス〕
- JTU 主要大会で参加選手に Green Triathlon バッグを配布（計1万部）
- Green Triathlon コーシオンテープを作成し JTU 主要大会で掲出（廿日市、横浜、蒲郡、大阪、野尻湖、長良川、昭和記念公園、村上、台場、宮崎他10会場以上で掲出）

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①グリーントライアスロン in 横浜

大会開催1カ月前（大会開催：5月15日・16日）大会会場となる山下公園にて、スタッフ、協賛社、一般来場者の協力のもと環境保全活動を実施。主な活動内容は、スイムコースの山下公園前面海域の海底清掃や会場内清掃、海中実況中継、スイムコース試泳など。

②東京ベイクリーンアップ大作戦

「東京港を泳げる海に！」をスローガンに年3回（毎年6月・9月・11月予定）、地球環境の保全と泳げる海をめざして、お台場海浜公園でクリーンアップキャンペーンを実施。2013年（平成25年）からの継続事業で、4度目の開催となる。

③野尻湖クリーン作戦

野尻湖トライアスロン大会（7月17日）の開催前々週に野尻湖畔（周辺）の清掃イベントを開催。

④カーボンオフセットの取組

世界トライアスロンシリーズ横浜大会および横浜シーサイドトライアスロン大会にて、横浜市との協働による地球温暖化対策「横浜ブルーカーボン事業」を実施。大会参加選手からの環境協力金を活用し、横浜市漁業協同組合のご協力のもと、参加者のレースの完走を願って「完走（乾燥）わかめ」を配布し、0.4t-CO₂分削減。本事業による寄附金は、CO₂削減を目的にわかめの地産地消費や水質浄化、海の環境改善支援等に充当される。

- ⑤2016年 JTU 主要大会 参加選手に Green Triathlon バッグ配布 / 会場掲出物（コーシオンテープ）
JTU 主要の14大会で Green Triathlon バッグを参加全選手に配布。コーシオンテープもグリーントライアスロンオリジナル版を作成し、各大会に掲出し啓発を実施。

4. 全体的な成果と今後の課題

横浜大会を中心とした「グリーントライアスロン」をスローガンとした環境保全活動がスタッフおよび参加者へ確実に浸透した。今年度からは全国の各大会にもバッグやコーションテープなど露出拡大を図った。平成29年度も全国への浸透を図るための活動を検討していく。

5. JOCスポーツ環境専門部会員 山崎 秀樹

トライアスロン競技は自然界を競技会場とし、スイム会場・トランジションエリア、観戦スタンド、フィニッシュガントレーなどビーチ、公園等に競技会場が設営される。JOC環境のスローガン「来たときよりキレイに」にもあるように、自然を会場として利用する競技としての意識を各大会に強く周知させることが必要となる。今後は今年度実施した海底清掃や周辺の清掃活動を全国すべての大会会場で実施できるよう働きかけていきたいと願っている。

(公財) 日本ゴルフ協会

1. 実施概要

ゴルフ場に対して農薬の使用など法令に基づくコース管理や環境に配慮したコース管理の徹底をお願いするほか、競技会場において環境に配慮した活動を行った。

2. 平成28年度事業活動

- 持続可能なコース管理に関するセミナーの開催
- 大会会場における環境活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- 事務所内に環境啓発ポスターの掲示
- The R&A とともに、ゴルフ倶楽部経営者や支配人、コース管理者を対象としたセミナーの開催
- トーナメント会場において、環境配慮を目的に、日本オープン、日本女子オープン、日本シニアオープン会場のギャラリー飲食場所を中心に、分別用ゴミ箱を設置

4. 全体的な成果と今後の課題

- R&A サステナビリティセミナーでは、全国から250名が出席し、持続可能なゴルフコースの管理について専門家の知識と経験が共有でき、それぞれのコースで実践する機会を提供でき成功であった（詳細は右図参照）。
- 事務所内におけるペーパーレス化の意識づけはできるものの、委員会等での資料のペーパーレス化が課題。
- トーナメント会場では今後、環境に配慮した食器（リサイクル食器等）の使用や食材の地産地消に取り組みたい。

R&A サステナビリティ・セミナー 報告	
主催	The R&A / 公益財団法人日本ゴルフ協会
後援	スポーツ庁、環境省、NPO 法人日本芝草研究開発機構、公益社団法人ゴルフ緑化促進会、一般社団法人日本ゴルフ場経営者協会、公益社団法人日本パブリックゴルフ協会、日本ゴルフ場設計者協会
期日	2017年3月13日(月)
場所	横浜カントリークラブ
参加者	約250名 ゴルフ場経営者、支配人、コース管理者、ゴルフコース設計家、日本ゴルフ協会及びゴルフ関連団体役員 他
講師	ドミニク・ウォール (R&A アジア太平洋ディレクター) ステイブ・アイザック (R&A サステナビリティ担当ディレクター) 田中丈夫 (東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 大会準備運営局 持続可能性部長) マイカ・ウッズ (アジア&クレンショーゴルフデザイン センター 主任研究員) ビル・クワア (クワア&クレンショーゴルフデザイン パートナー) ポール・ジャンセン (ジャンセンゴルフコース設計と建設 オーナー) ジョナサン・スミス (ゴルフ環境団体 最高経営責任者)
概要	このセミナーでは、ゴルフ倶楽部が日々の業務の中で、測定可能な形で効率性と持続性を実現できるようにすることを目的に、持続可能な解決策が紹介された。幅広い考察の中で主にフォーカスされた分野は、ゴルフコースと倶楽部のマネージメント、ゴルフコースの改修と造成、トーナメントの舞台づくりであった。 The R&A は、世界中のNFとともに、環境と地域に対するゴルフの責任について認識を高める活動を行っており、今回のセミナーでは、専門家による知識と経験を共有することができ、どのように日本に適用できるかの示唆が含まれていた。 世界で2番目のゴルフ大国である日本として、持続可能な管理を実践することは、ゴルフが環境に対してポジティブな貢献をアピールできる絶好の機会ともいえるとの講師の発言があった。
講義	セッション1 サステナビリティ：その意味と意義 — 田中丈夫氏 セッション2 ゴルフコースの改修 — ポール・ジャンセン氏、マイカ・ウッズ氏、ビル・クワア氏 セッション3 ゴルフコースのメンテナンス — マイカ・ウッズ氏、ステイブ・アイザック氏 セッション4 ゴルフ業界の解決策とサポートプログラム — ジョナサン・スミス氏、ポール・ジャンセン氏、マイカ・ウッズ氏、ステイブ・アイザック氏 セッション5 セミナーのまとめと質疑応答 パネリスト：ジョナサン・スミス氏、ポール・ジャンセン氏、マイカ・ウッズ氏
	以上

(公社) 日本スカッシュ協会

1. 実施概要

今年度も昨年のキャンペーンを継続して実施した。コートを保有するクラブ利用時の心構え「来たときよりもキレイに！」実践など、全てのライフスタイルに環境意識を取り込むように促し、生活の基本となるよう取り組んだ。

また、全国の地区支部への浸透を深めるために会議等でも説明を行った。

2. 平成 28 年度事業活動

- 大会開催時に会場に応じたエコキャンペーンの実施（マイカップ・靴袋リユース）
- 大会会場に JOC 制作の環境啓発ポスターを掲示
- 大会表彰式において環境啓発のスピーチを入れる
- 協会公式サイトで啓発
- 平成 29 年度に向け、さらに地球温暖化防止とスポーツの取り組みとして、大会プログラムへ環境ポスターを掲示する予定で準備中

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①大会開催時の実施状況

当協会主催のすべての大会で JOC 啓発ポスターを掲示。全日本ジュニアスカッシュ選手権大会のパンフレットにも掲載した。協会及び支部大会をはじめ草大会にいたるまでゴミの分別を実施している。

4. 全体的な成果と今後の課題

引き続き JOC の啓発ポスターで環境に配慮した活動をアピールする。

また、改めてスポーツ団体として環境問題に取り組む必要性を全体会議で啓発し、実践していく。

(公社) 日本ボディビル・フィットネス連盟

1. 実施概要

全国の公認加盟クラブ、選手、大会観客、関係者等の方々に対して、主に役員が中心となり、環境問題の啓発活動を進め、環境保全意識の高揚と浸透を図っている。

2. 平成 28 年度事業活動

- 事業局での書類を削減
- 競技会等における環境美化活動
- 大会プログラムへの啓発資料の掲載
- 大会会場での広報活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①事業局での書類を削減
選手、審査員、指導員登録の Web 化等により書類を削減
- ②競技会等における環境美化活動
ボディビル全日本選手権大会をはじめ各ブロック大会、地方大会等年間約 50 回開催される大会会場でゴミの分別化、持ち帰り
- ③大会プログラムへ啓発資料の掲載
大会プログラムに環境ポスターを掲載
- ④大会会場での環境啓発活動
環境標語横断幕（バナー）、ポスター掲示等による環境啓発活動

4. 全体的な成果と今後の課題

- ・ポスター、バナーの掲示、プログラムへの掲載など啓発活動を行った結果、選手、観客等に徐々に環境問題意識が高まってきた。
- ・「来たときよりもキレイに」をスローガンに役員一丸となり、環境問題に積極的に取り組む。

(一社) 全日本テコンドー協会

1. 実施概要

全日本テコンドー協会において総務委員会の業務に環境委員会が統合された。

昨年 5 月からの約 1 年の活動の中で、スポーツ団体の環境に対する意識づけと取り組める活動の実践を都道府県団体ならびに会員に啓発を図るため、全国規模の競技大会にて行った。

平成 29 年度は環境委員の増員と全国の地方大会での活動に枠を拡げ活動したい。

2. 平成 28 年度事業活動

- 競技大会時のポスター、パンフ掲示
- 競技大会時の環境への取組みの呼びかけ

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①競技大会時のポスター、パンフ掲示
全国規模の大会時に「来たときよりもキレイに！」のポスターを掲示。パンフレットの表 4 にも表示し、啓発活動を行った。
- ②競技大会時の環境への取組みの呼びかけ
競技大会の開会式のなかで「環境委員会より注意」の時間を設け、スポーツ団体として可能な環境対応の一步である、会場のゴミの分別や持ち帰りや会場周辺の美化とマナーを呼びかけた。

4. 全体的な成果と今後の課題

ポスター掲示やパンフへの環境啓発ポスターのプリントを行い、大会時の開会式での環境活動の呼びかけを行い啓発活動を行ってきた。特に開会式の中に環境啓発の時間を設けることは、回数を重ねるごとに開会式の恒例のプログラムとして認識されている。

実際の会場で撤収時のゴミの量も着実に減少しており、啓発活動の成果が出ていると判断できる。今後はこれを継続するとともに、広報とも連携を図り、大会情報の速報を HP 掲載するなど、ペーパーレス化に努めていく。

(公社) 日本ダンススポーツ連盟

1. 実施概要

2016年1月から12月までに当連盟（JDSF）が公認して開催されたダンススポーツ競技会は305回で、これらの大会ではゴミの分別・持ち帰りを啓発するとともに、実践を促した。また、主な主催競技会で環境横断幕（バナー）やポスターを掲示したほか、指導員研修会において、スポーツと環境活動の関連および重要性について訴えた。

2. 平成28年度事業活動

- JDSF 及び加盟団体主催の競技会での環境横断幕の掲出
- JDSF 事務所会議室への環境啓発ポスター掲示
- 競技会等における環境活動
- 事務所における環境活動
- 指導員研修会における環境活動の啓発

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①大会時環境啓発横断幕等の掲示

JDSF 主催の競技会においては、従来の三笠宮杯及び東京オープン競技会に加え、北海道、仙台、静岡、大阪で開催されたダンススポーツグランプリ及び岩手で開催された全国都道府県対抗ダンススポーツ大会のほか、加盟団体主催の競技会において、JDSF ロゴマークをも配した JOC 環境横断幕を掲出し、環境保全の必要性和運動の意義について訴えた。

②事務所会議室への環境啓発ポスターの掲示

来客があった場合等に JOC の環境保全活動について説明し、理解を求めた。

③業務執行理事会議案書のペーパーレス化

約20名が出席する業務執行理事会を毎月1回開催しているが、2016年11月の業務執行理事会より議案書のペーパーレス化を行った。これにより、年間1万枚以上の紙が節約されることが期待される。

4. 全体的な成果と今後の課題

大会時のゴミ分別は、引き続き多くの会場で実践しており、主催者及び会員の環境保全に対する意識向上はかなり定着してきた。引き続き、JDSF 及び加盟団体の各イベントにおいて、JOC ポスターの張り出しや環境横断幕の掲示などを行い、環境保全の重要性を訴えていきたい。特に今後は、全国各地で開催する指導員研修会においても啓発していきたい。

また、業務執行理事会議案書のペーパーレス化を参考にしながら、事務所や大会開催時での紙使用及びコピー数の削減の必要性をこれまで以上に訴えていきたい。

(一社) 日本バイアスロン連盟

1. 実施概要

日本バイアスロン連盟は環境活動の重要性を認識し、継続的活動を積極的に展開した。

2. 平成28年度事業活動

- 大会時環境啓発ポスター、バナーの掲示
- 競技会等における環境活動と清掃活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①大会時環境啓発ポスター、バナーの掲示

本連盟主催大会にて環境啓発ポスター、バナー掲示、環境パンフレットの配布を行い、啓発活動を行った。

②競技会等における環境活動と清掃活動

東日本選手権大会・日本選手権大会・西日本選手権大会・宮様スキー国際競技大会バイアスロン競技等の競技会においては、前後に参加者と一緒になって会場周辺地域の清掃活動を行った。さらに、札幌市等の自治体の行ったイベントを通じて、前後に参加者と一緒になって会場周辺地域の清掃活動を行った。

また、北海道上川郡東川町、札幌市、虻田郡倶知安町、富山県南砺市で開催したミニバイアスロン競技大会及び小・中学生を対象としたバイアスロン体験講習会を実施し、その中で、参加者に環境とスポーツのかかわりや、環境保全・啓発活動の重要性を訴えとともに周辺地域の清掃活動を行った。

4. 全体的な成果と今後の課題

競技会場内へのポスター、バナーの掲示など啓発活動を行ってきた成果が徐々に実り、選手をはじめ多くの関係者に環境啓発の知識や、理解を得ることができた。

今後も、競技者、啓発活動から実践活動へ意識を変え、より具体的な活動を行っていく。スポーツと環境が大きなかかわりを持つことを一人でも多くの方に理解してもらえよう、これからも積極的に環境保全に努めていきたい。

(一社) 日本サーフィン連盟

1. 実施概要

各支部が中心となり「NSA SURFERS BEACH CLEAN ACT」を開催しゴミのないビーチ、ゴミを捨てないビーチの実現を働きかけ、全国一斉ビーチクリーンを開催している。

次の時代を担う、これから生まれてくる子どもたちにも思いっきりサーフィンを楽しんでもらうために『サーファーはこの海を守る！キレイな海は私たちが守る！』そうした気持ちを込めて活動している。

2. 平成 28 年度事業活動

●ビーチクリーン

平成 28 年 9 月 11 日（日）、18 日（日）に全国一斉ビーチクリーンを実施

●広報活動

- ・日本サーフィン連盟オフィシャル HP に活動実績報告掲載
- ・全国のサーフショップへフライヤー、ポスター配布

3. 具体的な活動実施内容とその成果

主 催：一般社団法人日本サーフィン連盟

協 力：日本サーフィン連盟 70 支部

実施日：平成28年9月11日（日）、18日（日）

実施場所：全国サーフポイント 120カ所

参加人数：約8,140名

平成28年、10回目（10年連続）を行い、サーファーだけではなく、地域の方々にも賛同・参加いただき、環境保全の大切さを呼びかけ、清掃活動を行った。

4. 全体的な成果と今後の課題

全国一斉ビーチクリーンは平成 28 年で 10 回目を迎え、協力してくれる方も増えてきた。

現在 8,000 名のビーチクリーン参加者を増やし、多くの方々、企業、行政と手を組み、10,000 名の参加者を目指し、サーファーだけでなくすべての人に海の清掃を日ごろから心がけてもらえるように努めていきたい。

（一社）日本カバディ協会

1. 実施概要

日本カバディ協会では、平成 19 年 4 月に環境委員会を設置以来、スポーツ団体が取り組める環境活動の重要性を認識し、継続的活動を積極的に行ってきた。これからは、団体だけの活動に止まらず、より積極的な活動を全国に展開できるよう、地方支部を含め組織を強化していく。

2. 平成 28 年度事業活動

- 国内大会（全日本選手権大会、東日本大会、西日本大会、他）での環境啓発ポスター、バナー掲示、パンフレットの配布
- 競技会等における環境活動
- 事務所における環境活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①大会での環境啓発ポスター、バナーの掲示、パンフレットの配布

当協会が主催した大会（全日本選手権大会、東日本大会、チャレンジカップ、他）、後援した大会（西日本大会、学生大会）にて環境啓発ポスター、バナー掲示、パンフレットの配布を行った。

②競技会等における環境活動

ゴミの分別、持ち帰りの徹底、冷暖房の電源には触れない等の環境保護の呼びかけを行い、大会プログラムに注意事項を記載した。また、式典でのアナウンスも併せて行い、環境保全・啓発活動の重要性を訴えた。

③事務所における環境活動

ペーパーレス化推進の為、文書データは郵送やFAXによる送受信を避け、Eメールによる連絡事項のやり取りを極力行った。コピー、FAX用紙の両面使用を徹底し、ゴミの削減、資源節約に努めた。また、事務所を出るときは電源を抜くなどのエネルギー、コスト削減も心がけている。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境啓発ポスター、バナー掲示、パンフレットの配布など長い間続けてきた啓発活動により、選手や関係者に環境啓発への理解を得ることができた。また、大会の会場では、自主的にゴミの分別を行う選手が多く見られた。

カバディは、ほとんど道具を必要としないエコなスポーツといえる。そのようなスポーツだからこそ、今後環境問題への意識づけをより一層行い、積極的に環境保全に貢献していきたい。また、地方支部に呼びかけ、全国規模で展開していけるよう、より一層の環境保全に努めていきたい。

(一社) 日本セパタクロー協会

1. 実施概要

日本代表選手やチームを通じて、環境保全のメッセージを伝えたり、競技会場にスポーツと環境に関するポスターを掲示するなど環境啓発活動を推進する。また地球温暖化防止キャンペーン「COOL CHOICE」に賛同して、協会一丸となって活動していく。

2. 平成28年度事業活動

- 大会時環境啓発ポスター掲示
- 競技会等における環境活動
- 事務所における環境保全

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①大会時環境啓発ポスター掲示

本会主催大会および各地方大会において環境啓発ポスター、バナー掲示、環境パンフレット配布を行い、啓発活動を行った。

②競技会等における環境活動

選手及び来場者へのゴミの削減、分別、持ち帰り等の環境保護の呼びかけを開会式や館内放送等で行った。

③事務所における環境保全

ペーパーレス化の推進で、紙の無駄遣い等をなくしてゴミの削減、クールビズ等で冷暖房などのエネルギー(電気等)節約など環境保全に努めた。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境ポスター等の啓発活動により、選手や関係者に理解を得ることができた。また、大会会場ではゴミの持ち帰りや分別が図られるようになってきた。今後は地方大会での啓発活動を含め全国規模で、より一層の環境啓発および環境保全に努めていきたい。

(特非) 日本クリケット協会

1. 実施概要

日本クリケット協会ではスタッフをはじめ選手・ボランティアが環境保全活動の重要性を認識し、スポーツ団体としてできることを考え取り組みを図った。

2. 平成 28 年度事業活動

- 大会やイベント時環境啓発ポスターを掲示
- ゴミの分別・削減・清掃活動・見回り

3. 具体的な活動実施内容とその成果

クリケットの各種大会・イベントの期間中に環境啓発ポスターの掲示し啓発活動を行った。

- ①可燃ごみとリサイクルゴミ等に分別した。
- ②会場（グラウンド）に落ちているゴミがないか見回り、クリーン活動に専念した。
- ③設置されている仮設トイレの清掃、ゴミ箱周りの清掃等も同時に行った。

4. 全体的な成果と今後の課題

啓発活動の成果として、選手・関係者の意識向上が見られ、ゴミの分別等がきっちり行われた。今後も活動を継続しスポーツを通じた環境保全に努めていきたい。

(公社) 日本アメリカンフットボール協会

1. 実施概要

当協会は選手自らがスタジアムの所在する地域環境活動に貢献することで、スポーツ団体、大学スポーツとの、より親密なコミュニケーションを図ることを目的とした。

『街をキレイに!』をスローガンに地域美化推進活動を実施した。

2. 平成 28 年度事業活動

- 「全日本大学選手権 三菱電機杯 第 71 回 甲子園ボウル」当日に周辺駅の清掃活動を実施した。

3. 活動実施内容

- (1) 活動名称 『三菱電機杯 第 71 回毎日甲子園ボウル』
「地域美化推進活動“Clean Up Action”」
- (2) 実施日時 平成 28 年 12 月 18 日（日）

- 午前 8:00 ~ 午前 11:30
- (3) 実施場所 選手権会場「阪神甲子園球場」周辺 8 駅
(阪急西宮駅北口、阪神西宮駅甲子園口、JR 西宮駅甲子園口 等)
- (4) 参加者 関西学生アメリカンフットボール連盟所属
加盟 51 大学全ての学生 約 2,000 名
- (5) 活動主管 関西学生アメリカンフットボール連盟
- (6) 企画運営協力 特定非営利活動法人 コミュニティー事業支援ネット
- (7) 活動内容 駅周辺道路のゴミ拾いを含めた、清掃活動

(公社) 日本チアリーディング協会

1. 実施概要

(公社) 日本チアリーディング協会は、地球環境問題の重要性を認識し、スポーツ活動における環境保全に関する啓発と実践活動を推進している。

2. 平成 28 年度事業活動

- 大会時環境啓発ポスター、バナーの掲示
- 大会プログラムにポスターを印刷・配布
- 大会会場における分別回収の実施とゴミ持ち帰り運動の促進
- 省エネ・省資源活動の実施

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①大会時環境啓発ポスター、バナーの掲示
 - ・本協会主催大会において環境啓発ポスター及びバナーを掲示した。
- ②大会プログラムにポスターを印刷・配布
 - ・本協会主催大会プログラムにポスターを印刷・配布し、啓発活動を行った。
- ③大会会場における分別回収の実施とゴミ持ち帰り運動の促進
 - ・本協会主催の大会において会場内のダストボックスの分別を徹底し、ビニール袋使用による回収を実施した。
 - ・大会のアナウンスにおいて、「来たときよりもキレイに！」を呼びかけた。
- ④省エネ・省資源活動の実施
 - ・大会会場や控室の照明、空調温度を調整し省エネを実施した。
 - ・大会会場の整理・清掃を行い、競技環境の整備を促進した。
 - ・加盟団体等との各種事務手続きを電子化し、ペーパーレス、省資源を実施した。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境啓発ポスターを大会プログラムに印刷・配布するとともに大会会場内に数多く掲示し、啓発活動を行ったことにより、選手をはじめ大会関係者、入場者に環境啓発の理解を得ることができ、スポーツと環境問題に対する認識の向上につながった。

また、協会事務所内に環境啓発ポスターを掲示したことにより、職員及び来訪者に対し、環境問題

への取り組みの重要性の認識を深めることができた。

今後も、競技者を初め関係者・関係団体への啓発活動を推進するとともに、計画的な活動を実践し積極的に環境保全に努める。

(公社) 日本パワーリフティング協会

1. 実施概要

世界的にも希な長寿国の本邦において、選手寿命が14歳から90歳に及ぼうとするパワーリフティングをさらに普及させるため一般社会に紹介する場を積極的に持ち、数あるスポーツの中でも幅広い年齢層が活躍し、生涯楽しめるスポーツである旨をアピールする。

日本パラパワーリフティング連盟との連携を強化し、健常者・障がい者との交流を図り、パラリンピック出場資格獲得者の増加を目指す。

大会会場として、公共体育館・公会堂等をお借りする機会が多々あるが、競技中及び終了後の会場・施設の原状回復及び清掃・ゴミの持ち帰り等を徹底する。

2. 平成28年度事業活動

- 全日本・ジャパクラシック・ブロック・都道府県及び支部大会において環境啓発ポスターを掲示した。
- 当該大会において出場者のゴミ持ち帰りを開催要項に記載し、上記大会会場で、大会事務局から大会使用器具撤収時に会場復元を呼びかけ、大会関係者（開催者・出場者）全員参加協力して原状を回復した。

3. 具体的な活動実施内容とその成果

国体公開競技への昇格に伴い、岩手県平泉町で9月10、11日に第71回希望郷いわて国体パワーリフティング大会を開催し、大盛況であった。

- ①全日本パワーリフティング選手権大会及びその他大会でのゴミの分別収集を徹底。
- ②健常者・障がい者の交流大会を日本各地で数回実施し、お互いの相互理解を深めた。
- ③東京都小金井市の小金井公園にて、東京都協会主催の「スポーツ博覧会」を開催し、100人を超える人々にパワーリフティングの魅力を知っていただけた。

4. 全体的な成果と今後の課題

- ・ポスターの掲示や清掃活動が多くの大会関係者に周知され、主催者側からポスターを要望していただけになったことは大きな成果である。
- ・2019年度世界ベンチプレス選手権大会実施のための準備作業の本格化
- ・各都道府県大会の拡充
- ・全日本規模の大会出場者のさらなる増加及びレベルアップ
- ・施設提供者との良好な関係維持
- ・日本パラパワーリフティング連盟と連携し、障がい者がスポーツにいそしめる環境を構築していく。

(一社) 日本フライングディスク協会

1. 実施概要

日本フライングディスク協会は、砂浜を使用して競技する『ビーチアルティメット』中心に環境活動に取り組み、競技者、関係者に対し環境保全意識の啓発活動を実施してきた。平成27年度からは、協会内に環境委員会を設置し環境活動に取り組み中。

2. 平成28年度事業活動

- 大会会場でのエコフラッグの掲示
- ゴミの分別廃棄の徹底、及びゴミ持ち帰り推奨
- 大会会場での環境ポスターの掲示、大会パンフレットへの環境ポスター掲載
- 協会事務局のペーパーレス化推進

3. 具体的な活動実施内容とその成果

◆ 2016 蒲郡ビーチアルティメット & ディスクフェスティバル IN LAGUNA

2016年10月22日～23日

主催：愛知県フライングディスク協会

主管：蒲郡ビーチディスクフェスティバル実行委員会

場所：愛知県蒲郡市ラグーナビーチ（大塚海浜緑地・芝生広場）

◆ 2016 熱海ビーチアルティメット大会

2016年10月1日～2日

主催：静岡県フライングディスク協会

主管：熱海ビーチアルティメット実行委員会

場所：静岡県熱海市熱海サンビーチ

◆ ビーチアルティメットフレンドシップ湘南2015 第16回 EBASHI - CUP

2016年5月14日～15日

主催：かながわビーチディスクフェスティバル実行委員会

主管：神奈川県フライングディスク協会

場所：神奈川県藤沢市 湘南・鵠沼海岸

他で、競技開始前に砂浜を清掃する活動（ビーチクリーン）を実施した。

4. 全体的な成果と今後の課題

砂浜を使用して競技を行う、ビーチアルティメット競技の大会は、全国に普及しつつある。その際、ビーチクリーンを実施し競技エリア及びその周辺の美化を実施。環境保全への意識の醸成につながった。これにより競技者の安全も確保できた。また、主催大会の大会パンフレットに環境ポスターを掲載することで、多くの競技者に周知することができた。

今後は大会会場での活動だけでなく、日常生活の行動に良い影響が与えられる様、工夫して活動を推進していきたい。

(2) スポーツ環境専門部会の活動

Activities of the member of JOC Sport and Environment Commission

松岡 修造 部会員

日本テニス協会及び JOC オリンピック教室における啓発活動

●修造チャレンジトップジュニアキャンプ

「修造チャレンジトップジュニアキャンプ」開催時に、会場内におけるポスターの掲示や横断幕の提示、ゴミの分別など啓発活動を積極的に行った。

日程	対象	会場
2016年6月7日(火) ～10日(金)	松岡修造とJTAナショナルチームに選抜された12歳以下の男子ジュニア選手18名	クラブヴェルデ
2016年9月26日(月) ～10月1日(土)	松岡修造とJTAナショナルチームに選抜された17歳以下の男子ジュニア選手28名	荏原湘南スポーツセンター
2017年3月7日(火) ～10日(金)	松岡修造とJTAナショナルチームに選抜された14歳以下の男子ジュニア選手16名	味の素ナショナルトレーニングセンター



●「JOC オリンピック教室」

「JOC オリンピック教室」では、オリンピックについて、またオリンピックを通して考えたことや感じたことを生徒たちに伝える中で、環境の大切さについても触れた。

日程	対象	会場
2017年1月20日(金)	北区立稲付中学校2年1組(37名)、 2組(37名)、3組(38名)	北区立稲付中学校



宮下純一 部会員

1. 実施概要

本年も JOC スポーツ環境専門部会員、そして同環境アンバサダーとして「第 12 回 JOC スポーツと環境・地域セミナー」において、コーディネーターをさせていただいた。

スポーツと環境の関わりをテーマとして、3名のオリンピックパネラーに加え、気象キャスターの藤森さんを加えたディスカッションを通し、スポーツ界における地球環境保全の必要性を改めて感じていただけた。

2. 平成 27 年度の活動

「第 12 回 JOC スポーツと環境・地域セミナー」平成 28 年 11 月 18 日

場所：東京都庁 都民ホール

3. 具体的な活動内容と成果

昨年と同じくトライアスロンの上田 藍さんに加え、今回はセーリングの富澤 慎さん、スキーの皆川 賢太郎さん、そして気象キャスターネットワーク代表の藤森 涼子さんというメンバーで対談・ディスカッションを行い、3名の競技者目線での環境とのエピソードに加え、藤森さんの「地球温暖化」をテーマにしたプレゼン、さらには「2020 年に向けて、私たちは何が出来るのか？」ということで話し合いを行った。

各オリンピック達の、自らの体験を通しての環境との関わり合いのエピソードは、毎回のことながら現場に即した熱のあるものとして色々な施策を学ぶことができた。そして今回、地球温暖化という、新たな切り口での藤森さんのプレゼンでは、多くのアスリートにとっての環境ということが、深く意味のあるものとして感じられた。

また JOC の方々にも、今回ご尽力いただいたおかげで、2020 年にオリンピックを迎える東京でのセミナーとして、しっかりとしたメッセージを参加者に伝えられる機会となった事と思う。

4. これからの課題

昨年よりも多くの方々に会場にお越しいただけたのありがたいと感じたが、まだまだ広報活動の必要性は感じているので、引き続き尽力していきたいと思う。自分自身も自らの講演会などでも「環境」の重要性を話させていただく機会もあるので、しっかりと責務を果たしていきたいと考えている。

また昨年もあげたのだが、現役選手のパネラー参加ということも、選手自身の自然環境への思いにもつながっていくことと思う。

2020 年東京で迎えるオリンピックも後 3 年となった。リオデジャネイロのメダリストに加え、これからオリンピックを目指していくアスリート達とも、しっかりと「自然環境」への思いを共有していきたいと思う。

(3) スポーツと環境に関するアンケート集計結果について

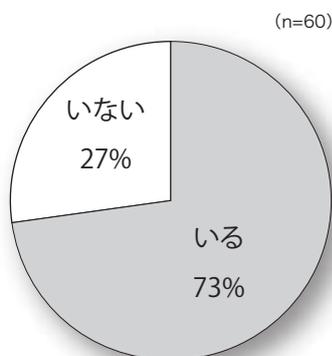
Results of the questionnaire regarding environmental activities of NFs

平成28年度JOC加盟団体63団体(準加盟団体、承認団体を含む)を対象に、「スポーツと環境」に関するアンケートを実施。本アンケートは、環境活動の現状や浸透状況を把握しつつ、今後の指針づくりにも役立っている。

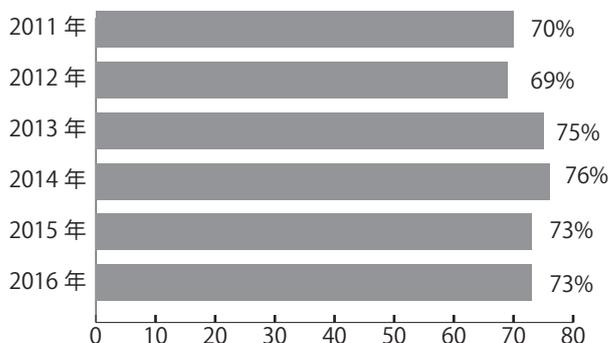
その約7割以上の団体で「スポーツ環境委員会」あるいは「環境保全プロジェクト」が設けられていると回答を得た。

●環境委員・環境保全プロジェクトについて

スポーツ環境委員会あるいは環境保全プロジェクトを設置していますか

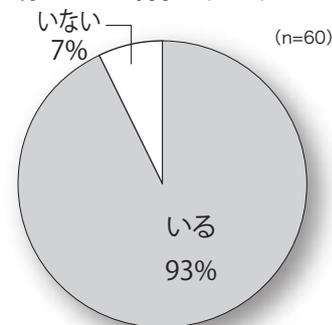


スポーツ環境委員会あるいは環境保全プロジェクトを設置していますか

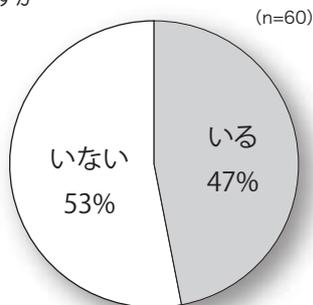


●日常活動の取組みについて

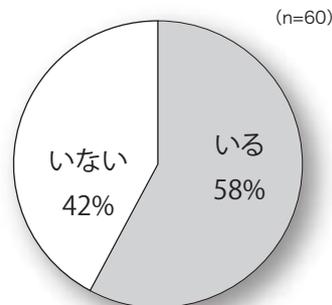
①啓発活動の一環として事務局に環境ポスターを掲示していますか



②機関誌等に環境保全に関する内容(環境ポスター等)を掲載していますか

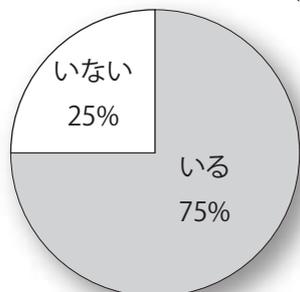


③影響力のあるトップ選手等に環境保全への啓発を依頼していますか



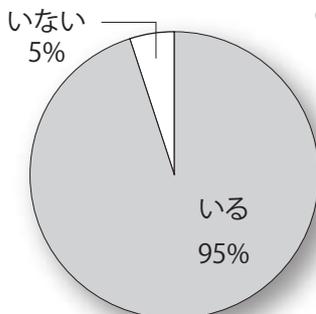
④都道府県協会や加盟団体と連携して環境保全の啓発活動をしていますか

(n=60)



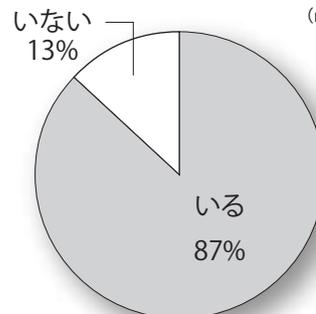
⑤事務局においてコピー用紙使用の削減の取組みをしていますか

(n=60)



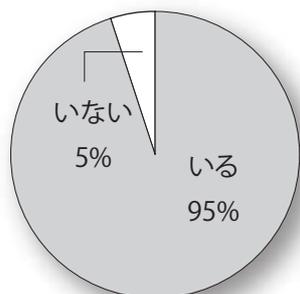
⑥事務局において環境に配慮した印刷の取組みをしていますか

(n=60)



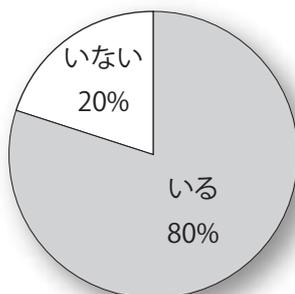
⑦事務局において電気使用量の削減の取組みをしていますか

(n=60)



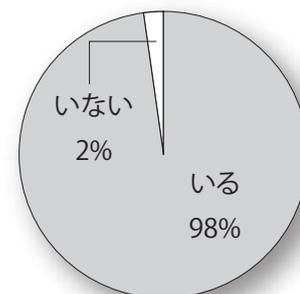
⑧事務局において環境に配慮した用品・用具の使用をしていますか

(n=60)



⑨事務局においてゴミの分別を実施していますか

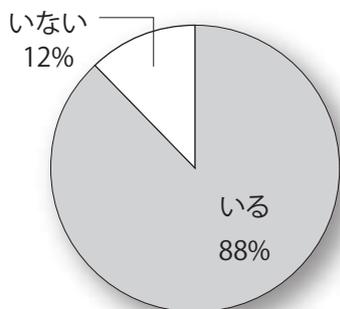
(n=60)



●主催イベント(大会等)の取組みについて

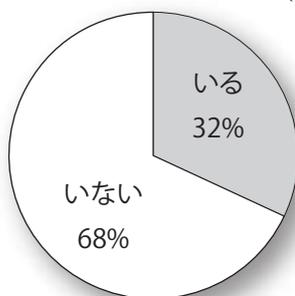
①イベント会場に環境ポスター・環境の横断幕を掲示していますか

(n=60)



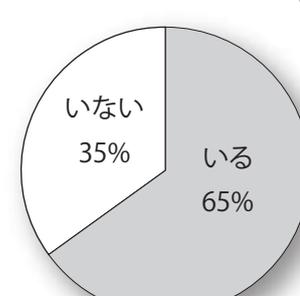
②イベント会場で環境保全に関する展示等をしていますか

(n=60)

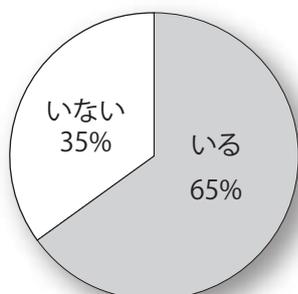


③参加者へのアナウンスの中で環境保全への協力を呼びかけていますか

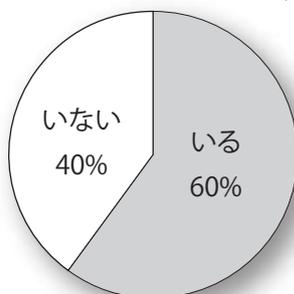
(n=60)



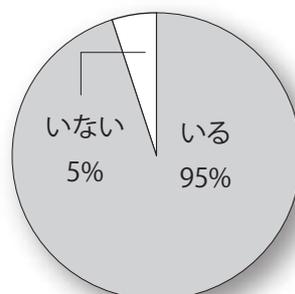
④競技・運営役員等に対し環境保全の重要性を認識してもらう取り組みを行っていますか (n=60)



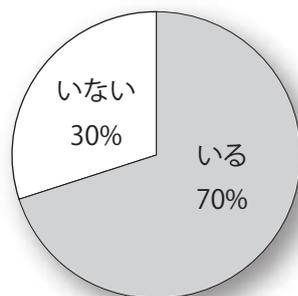
⑤主催大会のパンフレットに「環境ポスター」を掲載していますか (n=60)



⑥イベント会場において、ゴミの分別を行っていますか (n=60)

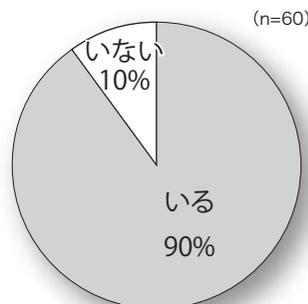


⑦競技者にできるだけ良い環境で競技をさせるよう配慮を何かしていますか (n=60)

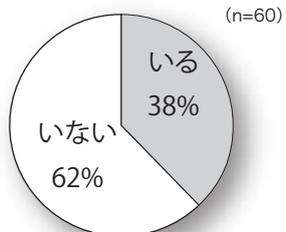


● JOCスポーツ環境専門部会活動報告書の活用について

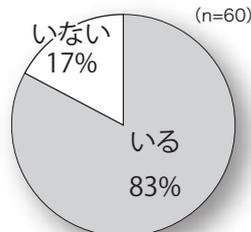
JOCスポーツ環境専門部会「活動報告書」を活用していますか



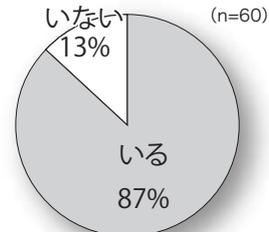
(ア) 報告書の一部をコピーして関係者に配布している (n=60)



(イ) 活動の参考として参照している (n=60)



(ウ) いつでも閲覧できるように設置している (n=60)



(4) スポーツと環境についてのレクチャー原稿

Lecture draft on Sport and Environment

【スポーツと環境について 競技会挨拶原稿（1 分間）】

ご挨拶の中に1分間をプラスして、下記の『環境保全ポスター』の紹介と協力依頼をお願いします。

さて、最後に皆様はこのポスターをご存知でしょうか？

我々●●協会は、公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）と連携して、異常気象や自然災害の原因となっている地球温暖化に危機感をもち、スポーツが楽しめる環境を、50年後、100年後の子供たちに残すために、環境保全の啓発活動に取り組んでいます。

「来たときよりもキレイに！」というこのポスターのフレーズには、単純に「キレイにしましょう！」ということではなく、『スポーツの未来を考え、いまの環境を大切にしていこう！』という、スポーツを通じた持続可能な社会づくりへの大きなメッセージがこめられています。

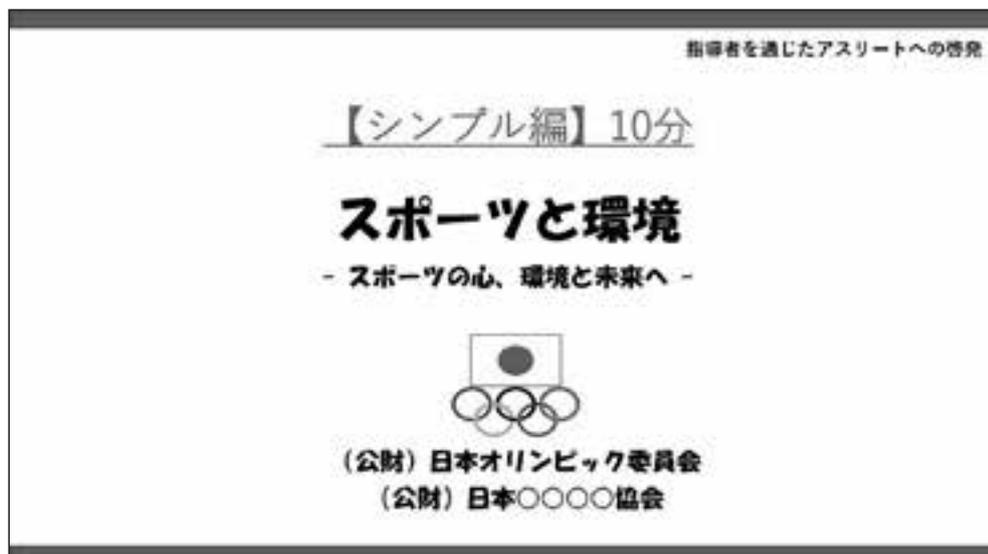
東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会まであと●年、東京2020大会は、スポーツを通じて地球環境・地域環境の大切さを発信する大会でもあります。

皆様には、まずは環境に対して興味を持ち、エネルギー・資源の節減やゴミの分別など、できることから実行していただきたいと思います。そして、我々スポーツ（または競技名）を愛するものが、模範的活動を推進し、社会の中で環境保全のリーダーとなることを願っています。



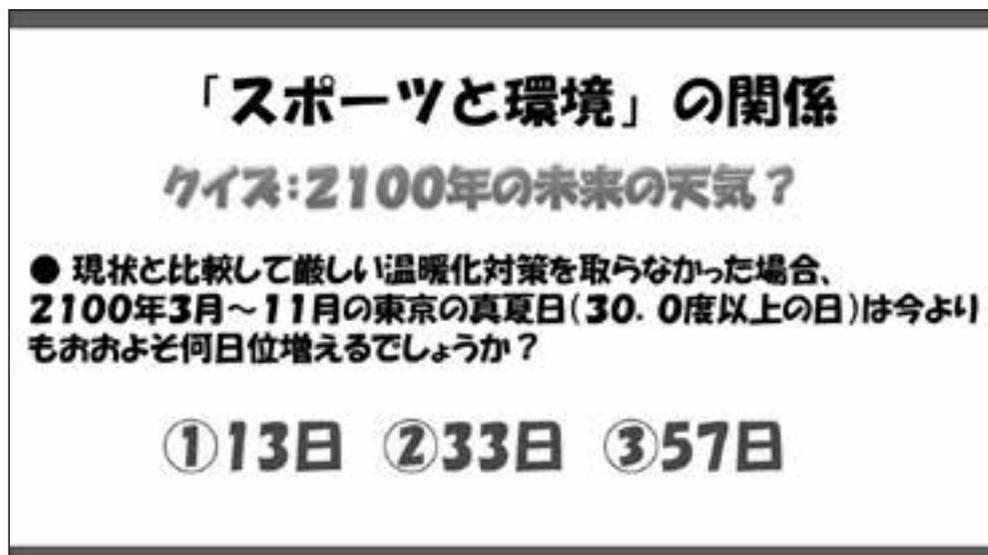
スポーツと環境について レクチャー原稿（10 分間）

各NFの環境担当者がNF所属の指導者・アスリート向けに行うことを想定して開発したレクチャー原稿です。監督会議・アスリート向けの講習会等の場面で活用をお願いいたします。なお、下記のパワーポイントのデータは、JOCオリンピック・ムーブメント推進部より提供いたします。



私たち〇〇協会は、スポーツが楽しめる環境を、50年後、100年後の子供たちに残すために、スポーツを通じた環境活動に取り組んでいます。

これから行うレクチャーでは、スポーツ界における環境啓発活動の「基礎知識」として、①スポーツと環境の関係、②スポーツを通じた環境問題の取組み、③スポーツ関係者の役割、の3つのテーマについてお話しします。



まずはじめのテーマは、「スポーツと環境の関係」です。皆さんもご存知のとおり、地球温暖化がこのまま進むと、スポーツにも大きな影響がでるといわれています。さて、ここで2100年の未来の天気について考えてみましょう。

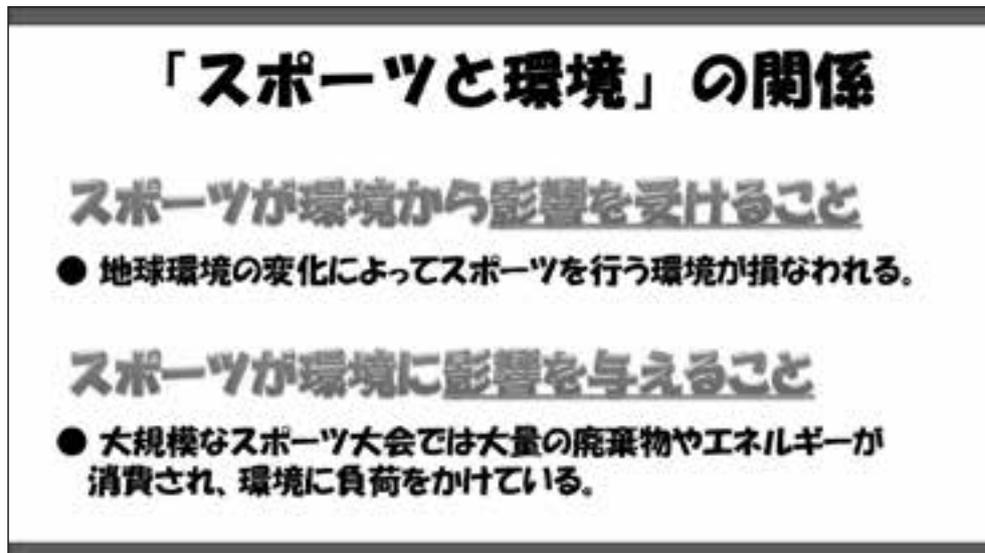
現状と比較して厳しい温暖化対策を取らなかった場合、2100年3-5月(春)・6-8月(夏)・9-11月(秋)の期間、東京の真夏日、気温が30.0度以上の日は、今よりも何日位増えるでしょうか？次の3つの中から、正解だと思うものに手を上げて下さい。おおよそ①13日増えると思う人、②33日増えると思う人、③57日増えると思う人。

正解は、57日(正確には56.8日)です。このクイズは、環境省・気象庁から発表された「21世紀末における日本の気候」という資料からの出題ですが、2100年というと遠い未来のことのようにですが、考えてみると私たちのひ孫たちが大人になる時代。真夏日が今より約2カ月も増える未来、ひ孫たちがスポーツをする環境を想像してみてください。

【参考】21世紀末における日本の気象予測結果 P9 真夏日日数の季節別変化

http://www.env.go.jp/earth/ondanka/pamph_tekiou/2015/

政策的な温室効果ガスの緩和削減を前提として予測されたシナリオ。厳しい温暖化対策を取らなかった場合2.6～4.8℃(平均3.7℃)で③の56.8日。一方、厳しい対策を取った場合、0.3～1.7℃(平均1.0℃)で①の13.1日。



「スポーツと環境」の関係を考える際には、相対する2つの側面を考える事が重要です。

まず1つは、いまのクイズに出題したように「スポーツが環境から影響を受けること」、例えると被害者側のようなことです。

環境問題の影響でスポーツの環境が整わなくなり、スポーツを楽しむための要素が縮小されてしまうという点です。代表的なものとしては、雪の減少による冬のスポーツへの影響が挙げられます。また、冬のスポーツや屋外スポーツへの影響ばかりが目されますが、地球温暖化による気候変動の影響で台風の増加、ゲリラ豪雨などが多発するとスポーツどころではなくなってしまいます。さらに、熱中症や水不足の問題など、どれをとってもスポーツ活動に大きな影響を及ぼす問題です。

そしてもう1つは「スポーツが環境に影響を与えること」、例えると加害者側のようなことです。

過去において、スポーツ施設を建設するため、山を切り開き、海を埋め立てるなどの自然破壊をして

きた、また、現在では、大規模なスポーツ大会において、大量のエネルギーや廃棄物を生み出し環境に大きな負荷をかけているという点です。

このように、スポーツと環境の関係を考える際には、「スポーツが環境から影響を受けている」側面だけでなく、「スポーツが環境に影響を与えている」という事実を認識することが重要になります。

次のテーマは、「スポーツを通じた環境問題の取組み」です。



スポーツを通じた環境問題の取組みには、大きく分けて「①スポーツの会場における環境活動」と「②スポーツを通じた環境啓発活動」の2つの取組みがあります。

まずひとつめの取組みは、「スポーツの会場における環境活動」です。

オリンピック競技大会に象徴されるように、スポーツイベントの巨大化に伴い、イベント自体が及ぼす自然環境への影響は無視できなくなってきました。そのため、自然保護や環境保全に向けた取り組み

はもはやスポーツ界も例外ではなく、イベントを主催する競技団体として、環境問題に対して最大限の取組みが求められるようになりました。

具体的な「スポーツの会場における環境活動」の事例としては、スポーツ施設の照明や冷暖房の調整による節電、ゴミの分別などがあります。また、環境貢献活動として、日本テニス協会が行っている中古ボールやラケット等のリユース活動、全日本野球協会が行っている植樹活動、また、日本トリアスロン連合が行っている競技場周辺の清掃活動などがあります。

そして、もうひとつの取組みは、「スポーツを通じた環境啓発活動」です。

スポーツ関係者の役割	
①スポーツ団体（組織）としての役割	競技やスポーツイベントにおける環境負荷を低減させる。
②スポーツ指導者・アスリートとしての役割	社会的影響力を使って、環境の大切さを伝える。

スポーツ愛好家と呼ばれる人々は世界中に数十億人とおり、社会的影響力を持っています。スポーツ愛好者が周囲の人たちに環境保全の必要性を伝えて行くことは大きな効果を生むことであり、それがスポーツの力で環境保全を推進することになるのです。

具体的な「スポーツを通じた環境問題の啓発」の事例としては、指導者講習会等での「環境とスポーツ」についてのレクチャーがあります。

また、競技大会のパンフレットへの環境ポスターデザインの掲載、競技会場での横断幕の掲示、日本セーリング連盟が行っている不用になったヨットのセールを利用したワークショップを通じた啓発活動などもあります。

スポーツを通じた環境問題の取組みには、この他にも、各 NF で色々な活動が工夫されて行われています。毎年発行される JOC スポーツ環境専門部会活動報告書には、各 NF の活動が詳しく報告されていますので、ぜひ参考にしてください。

さて、最後のテーマは、「スポーツ関係者の役割」です。

スポーツ関係者の役割のひとつは、「スポーツ団体としての役割」つまり、組織レベルの役割です。

具体的な役割は、日常の協会運営（会議事にタブレットを使用してペーパーレス化やオフィスの省エネなど）や主催する競技大会、スポーツイベントにおいて環境負荷を低減させることです。競技会場ではゴミの分別や自宅から競技会場までの移動に公共交通機関を使うように促すなど、観客に協力してもらう活動も必要でしょう。

また、指導者研修会や競技会の監督会議の機会に、関係者に対して「スポーツと環境」の意識啓発を

行ったり、指導現場での啓発活動への協力依頼を実施することは、スポーツ団体（組織）のとても重要な役割のひとつになります。

そして、もうひとつの役割は、「スポーツ指導者・選手としての役割」つまり個人レベルの役割です。

特に社会的影響力がある指導者、アスリートは自らが手本となり周囲の人たちに環境メッセージを発信し、環境の大切さを伝えることが重要です。具体的な実践活動としては、省エネ・低炭素型の製品・サービス・行動など、身近な生活のなかで、未来のために、今選択できるアクションを選ぶこと、「賢い選択」が大切です。環境省が推進する COOL CHOICE のサイトも参考になります。

スポーツの心、環境と未来へ。

**スポーツが楽しめる環境を、50年後、
100年後の子供たちに残すために、
まずは環境に対して興味を持つこと、
そして自分のできる事から行動すること**

以上、①スポーツと環境の関係、②スポーツを通じた環境問題の取組み、③スポーツ関係者の役割、この3つのテーマについて話してきましたが、スポーツが楽しめる環境を、50年後、100年後の子供たちに残すために、今、私たちに問われているのは、スポーツの“持続可能性”の問題。なかでも、環境との関わり方の問題です。

スポーツと環境の関係を考える際に、「スポーツが環境から影響を受ける」こと、そして、「スポーツが環境に影響を与えること」、このふたつの側面を理解することが大切です。環境問題はグローバルですが、その解決の糸口はローカルです。未然に防げる行動を取ることが重要です。

「まずは環境に対して興味を持つこと、そして自分のできる事から行動すること」、この考え方を、指導者がアスリートに伝えること。そしてアスリートが家族や周囲の人に広めていく事が、スポーツが楽しめる環境を、50年後、100年後の子供たちに残すことにつながるのだと思います。「スポーツの心、環境と未来へ。」これが未来に向けての我々のメッセージです。

(参考)「スポーツと環境」指導者研修会用原稿事例 (90 分間)

指導者研修会としてレクチャーを実施をする場合の原稿の事例です。「スポーツと環境」についての研修を計画する場合は、JOC スポーツ環境専門部会にご相談下さい。

日本でも盛じたアスリートへの啓発

【発展編】

「スポーツと環境」

～ スポーツの心、環境と未来へ～



(公開) 日本オリンピック委員会
(公開) 日本○○○○協会

「スポーツと環境」の関係

ケース:2100年の未来の天気?

● 現状と比較して厳しい温暖化対策を取らなかった場合、2100年3月～11月の東京の真夏日(30.0度以上の日)は今よりもおよそ何日位増えるでしょうか?

①13日 ②33日 ③57日

1. 題材の目標

現代社会では、スポーツは環境にさまざまな形で大きな影響を与えている。例えば、巨大になったオリンピックや国際的なスポーツ大会では、環境に大きな負荷を与える。また、スポーツ参加者の増大は、環境破壊や自然破壊を招いたりするようになった。ここでは、個人への環境への配慮とともに、持続可能な開発や環境保護の観点から十分に検討、配慮されることが求められていることを理解できるようにすることを目標として、次の内容を取り扱う。

2. ねらい

- スポーツが環境に与える影響を理解する
- スポーツが環境破壊による影響を受けることを理解する
- 環境に配慮した行動に求められることを理解し、行動ができる

3. お楽しみ

指導者アスリートへ伝えましょう、さらにマナーアップの一環として子供達にも伝えましょう。そして自身がロールモデルの役割として、関係者への環境アクションを促しましょう。

なぜ地球環境問題は解決しない?

各地で異常気象などが起こり、環境問題が深刻化していることは知っているが...

- ① 未来のことなので切迫感がなく...
- ② 省エネ・リサイクルが大切なのは知っているが...
- ③ 自転車の排気ガスが有害なのは分かるが...

環境問題は、一公青や健康の問題と違って自分の事として捉え難い!

Q. 環境問題を列記してみよう

- * 地球温暖化
- * 大気汚染
- * 海洋汚染
- * オゾン層の破壊
- * 酸性雨
- * 野生生物種の減少
- * 森林の減少
- * 地球規模の砂漠化...

地球環境問題に敏感なグループは?

スポーツ愛好家やアスリート

本来、アスリートやスポーツ愛好家こそ地球環境問題には敏感であるはず。なぜならば、プレイする環境としてきれいな空気や水を求めるから、すなわち地球環境の大切さを知っている!!

地球環境の危機

1. 自然破壊：森林伐採、砂漠化 など
2. 環境汚染：大気、土壌、海洋汚染 など
3. 資源枯渇：水、食糧、エネルギー源 など

原因は、急激な人口増加とモノとエネルギーを大量に消費する現代文明が地球の自然環境を乱したことに

空気がきれいだとスポーツが楽しい!

豊かな自然環境はスポーツにとって不可欠

↓

アスリートやスポーツ愛好家は、自然環境をより自分の問題として捉えることができる

↓

スポーツを通じて、持続可能な社会づくりが可能

スポーツと環境「2つの側面」

- 地球環境の悪化によってスポーツを行う環境が壊れてしまう？
- スポーツは「健康」にとってよいもの“だった”・・・
しかし、悪化した環境はスポーツ参加者の健康を害してしまう。

スポーツが環境から影響を受けること

- スポーツ施設等の開発に伴う自然破壊
- 大規模なスポーツ大会では大量の廃棄物やエネルギーが消費され、環境に負荷をかけているという点。

スポーツが環境に影響を与えること

JOC スポーツ環境専門部会の活動



1. 「スポーツと環境」ポスターの作成
2. JOCスポーツと環境・地域セミナーの開催
3. スポーツと環境部長会議の実施
4. スポーツ環境専門部会活動報告書の出版

スポーツを通じて環境問題の取り組み

スポーツなどの人間活動は、基本的に自然破壊や環境汚染をともなう、だから・・・

1 スポーツの各現場における環境保全

① スポーツ場として ② スポーツ施設に付随して ③ スポーツ団体の施設として
スポーツライフイベントの場 競技、商品センター

スポーツ愛好家は、「スポーツマンシップ」という倫理観を持ち、社会的影響力を持っている、だから・・・

2 スポーツを通じた環境問題の啓発

各競技団体の実践例は「JOCスポーツ環境専門部会活動報告書」を参照してください。



スポーツ関係者の役割

健康な環境はスポーツにとって不可欠。また、スポーツは地球環境を改善する際に重要な役割を果たすことができる。持続可能な社会づくりに向けてスポーツ関係者が果たす役割は・・・

① スポーツ選手として・・・
技術的、商業的成功がもたらす社会的影響力を使って、ファンの人たちに環境の大切さを伝える。

来たときよりもキレイに！

ディスカッションタイム

Q. 先ほどの映像の中のことが現実となったら、スポーツ（あなたの競技種目）にどのような影響がでると思いますか？

Q. あなたのスポーツでの環境活動は？

スポーツ関係者の役割

② スポーツ団体のCSRとして・・・
商業的成功だけでなく、スポーツの社会的価値を高めるためにも、競技やスポーツイベントにおける環境負荷を低減させる。

③ スポーツ業界のCSRとして・・・
スポーツ施設の建設と運営、スポーツ用品の製造と販売における環境の保全・改善を推進する。

スポーツと環境の新たな関係

持続可能性 (Sustainability)

スポーツ場面のフェアプレー 日常の場面でもフェアプレー
オリンピックバリュー (Excellence, Inspiration, Respect) これまで人と人との関係、しかし今更なる人との共生との関係！

他人だけでなく、地球に対しても責任ある社会人として行動しよう！

事例：国際オリンピック委員会の活動

自然の保全、環境保全の責務がある。それはスポーツ界も例外ではない。



「2020年10月版、IOCチャーター委員会が「オリンピックとスポーツから生じる環境問題」をテーマに環境の保全をすすめる。」と発表

— IOCの使命と役割 —
環境問題に関心をもち、啓発・実践を通してその責任を果たすとともに、スポーツ界において、特にオリンピック競技大会開催について持続可能な環境を推進すること。 (4.1.2と4.2.2参照)

スポーツの心、環境と未来へ。

スポーツが楽しめる環境を、50年後、100年後の子供たちに残すために、まずは環境に対して興味を持つこと、そして自分のできる事から行動すること

5 IOC持続可能性とレガシー委員会について

IOC Sustainability and Legacy Commission

IOCの戦略的ロードマップである「オリンピック・アジェンダ2020」(2014年12月に採択)において、持続可能性は、信頼性および若者とあわせ3本柱のひとつとなっています。持続可能性への配慮は全体を通して示されていますが、特に持続可能性を明示した提言は次の2つになります。

提言4：オリンピック競技大会のすべての側面に持続可能性を導入する

提言5：オリンピック・ムーブメントの日常業務に持続可能性を導入する



2016年11月に開催された「IOC持続可能性とレガシー委員会」では、昨年に引き続き、オリンピック・アジェンダ2020の実現に向けた戦略策定の議論が行われました。その後、「IOC持続可能性戦略」が2016年12月にIOC理事会で採択され、以下の通り概要が公表されました。

< IOC 持続可能性戦略の概要 >

IOC持続可能性戦略は、国連持続可能な開発目標(SDGs)への寄与を実際にサポートするもので、17の目標の全てを対象にしている。なかでも特に、健康及び福祉(SDGs3)、質の高い教育(SDGs4)、ジェンダーの平等(SDGs5)、平和、公正、健全な制度(SDGs16)、持続可能なパートナーシップ(SDGs17)の分野と親和性が高い。

IOC持続可能性戦略は、3つの責任階層と、5つの重要分野で構成されている。3つの責任階層とは、「持続可能性のロールモデルとなる組織としてのIOC」「オリンピック競技大会のオーナーとしてのIOC」「オリンピック・ムーブメントの牽引者としてのIOC」である。また、5つの重要分野とは、「インフラと自然環境」「調達と資源管理」「モビリティ」「ワークフォース」「気候」である。

3つの責任階層のそれぞれに目標を設定し、まずは第一歩として2020年に向けて18の目標を設定した。例えば、以下の目標がある。

目標8：GHGの直接的または間接的排出を削減したり、排出量の相殺でカーボンニュートラルを達成する。

目標10：招致フェーズから立候補の全てのプロセスを通じ、都市とともに持続可能性を確実に対応する。

目標16：オリンピック・ソリダリティを活用し、NOCが持続可能性の取組を実施する際に支援する。

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会では、持続可能な大会の実現に向けて、引き続きデリバリーパートナー等と連携し、「持続可能性に配慮した運営計画」等の策定を進めていきます。

IOC 持続可能性とレガシー委員会 委員
JOC スポーツ環境専門部会 部会員
(公財) 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
大会準備運営第一局 持続可能性部長
田中 丈夫



東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた取り組み

Activity for Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games

第12回スポーツと環境担当者会議資料より抜粋

公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
大会準備運営第一局 持続可能性部長

田中 丈夫

■「持続可能性」とは何か

■「持続可能性」とは何か

【言葉の定義】

- 1987年に「国連環境と開発に関する委員会（通称：ブルントラント委員会）」が報告書『Our Common Future（我々共通の未来）』を発表
- その中で「Sustainable Development（持続可能な発展）」とは、「将来世代のニーズを損なうことなく 現在の世代のニーズを満たす発展」と定義

要するに、「将来世代のことを考えて、「環境」や「社会」、「経済」のバランスを考慮した行動を選択しましょう」ということ

【IOCの動向】

- 1994年、IOCは、パリで開催されたオリンピック100周年会議において、「スポーツ」「文化」に加え、「環境」をオリンピック・ムーブメントの第三の柱とすることを宣言
- 2007年、IOCは、「IOCスポーツと環境・競技別ガイドブック」を作成。その中で、「環境」と「持続可能な開発」の両方への配慮が必要と明記
- 2014年12月、IOCは「環境」を含む大きな概念として「持続可能性」をとらえ、「Agenda2020」の中で、持続可能性に関するIOCの取組を明記し、オリンピックにおける持続可能性の重視をより明確化
- 2015年9月、国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」において、スポーツがこの目標達成の重要なツールであることが明記されたことを受け、バッハ会長自ら国連にてスピーチ

【過去大会の状況】

- 2012年に開催されたロンドン大会は、「One Planet Living（地球1個分の暮らし）」をテーマに掲げ、「環境」以外の分野も含めた「持続可能性の確保」に最初に取り組んだ夏季オリンピックと称されている。

【大会における「持続可能性」の重要性】

- 今日の「持続可能性」の概念は、環境負荷の最小化や自然との共生、環境意識の啓発等、環境の側面だけでなく、人権や労働環境への配慮、サプライチェーンの管理等まで意義が拡大 ⇒ オリンピック・パラリンピック大会も例外ではない
- オリンピック・パラリンピックは世界中の注目を集めるイベントであり、NGOやNPOを含め多くの人々が強い関心を持つ。持続可能性に配慮した取組は、東京大会の準備・運営だけでなく、その後の評価に直結
 - 持続可能性に配慮しない行為があれば、東京大会の評価に大きな影響があるだけでなく、オリンピック・パラリンピックの価値をも棄損する可能性あり(=レピュテーション・リスク)

■東京2020大会における持続可能性

・東京や日本の独自性のアピール(世界への発信)

持続可能性部門における主なタスク

- ・東京2020大会を持続可能なものにするための「計画」の策定
 - ・東京2020大会において調達する物品サービスに関する「基準」の策定
 - ・持続可能なイベントマネジメントに関する国際規格(ISO20121)の導入
- 現在、IOCの指示により、OGI調査を中止し、新レガシーフレームワークに移行しているところです

◆「持続可能性に配慮した運営計画 フレームワーク」の概要

- 「持続可能性に配慮した運営計画」の策定にあたり、具体的な内容を検討していくための道筋や論点を示したもの
- ＜東京2020大会が目指すべき持続可能性の方向＞
 - 環境だけでなく、社会、経済の側面を含む
 - 東京の特徴を活かす
(充実した都市基盤・安全性、おもてなし・もったいないといった日本的価値感、最先端テクノロジーの活用など)
- ＜想定される計画の論点＞
 - 「持続可能な開発目標(SDGs: Sustainable Development Goals)」を含む世界的な議論の潮流やOGでの議論を踏まえ、以下の5項目を主要なテーマとして想定
 - ・ 気候変動(ローカーボンマネジメント)
 - ・ 資源管理
 - ・ 水・緑・生物多様性
 - ・ 人権・労働・公正な事業慣行等への配慮
 - ・ 参加・協働、情報発信(エンゲージメント)

➤ 最後に

- 東京2020大会を持続可能性に最大限配慮した大会にするためには、関係者や選手の方々、各NFのご支援・ご協力が不可欠です。
- 持続可能性に配慮したアクションの中でも重要なものが、「環境に対する意識の向上や具体的な取り組み」です。
- 東京2020大会に向け、各NFの関係者と連携し・協働し、更なる「環境に対する意識の向上」を目指して、啓発活動に取り組んでまいります。

東京 2020 大会開催基本計画（2015 年 2 月）より抜粋

第4章 大会を支える機能（ファンクショナルエリア）

持続可能性（SUS）

1. ミッション (Mission)

持続可能なオリンピック・パラリンピック競技大会を計画、運営できるよう東京 2020 組織委員会の活動をサポートし、東京都や他の主要な関係機関との連携の下、東京 2020 持続可能性計画を推進する。さらには国内外の将来にプラスの効果をもたらすレガシーの目標達成を促進させるために東京 2020 組織委員会各部門の取組をサポートする。

2. 主要目標 (Key Objectives)

- 1 多様で広範囲に渡る東京 2020 持続可能性計画について、早期から各 FA 及び外部のステークホルダー・パートナーに共有し、大会運営や組織運営全体に盛り込むこと。
- 1 持続可能な大会を実施し、大会後に残された持続可能な実践と運用の仕組等を未来へと伝えることにより、オリンピック・パラリンピックの価値を強化すること。
- 1 東京 2020 持続可能性計画を通して、レガシーを生み出すベストな環境を構築すること。
- 1 グリーンな大会の実施と環境にやさしい会場を確保することによって、持続可能な社会の重要性を日本に浸透させること。
- 1 ISO20121 の枠組を導入し、東京 2020 組織委員会内のイベントマネジメントシステムを構築すること。
- 1 持続可能な生き方、働き方、楽しみ方について意識を高め、社会的な啓発を行うため東京 2020 大会の計画や開催を活用すること。

3. 主要業務・役割 (Key Tasks)

業務・役割	大会前	大会中	大会後	パラリンピックにおける相違点
主要なステークホルダーと協力しながら、東京 2020 持続可能性計画を含む持続可能性に関する計画について戦略的な策定を主導する。	✓			
オリンピック大会影響調査（パラリンピック関連項目を含む）を実施する。	✓	✓		
ISO20121 の認証を含め、持続可能性マネジメントシステムを調整し、構築する。	✓	✓		
東京 2020 組織委員会スタッフ及びボランティアを対象とした持続可能性に関する研修プログラムを策定・提供し、組織内部の情報源として各 FA をサポートする。	✓			
関係 FA と連携し、持続可能性の取組や日本の伝統・文化・最先端テクノロジーなどの活用を通じて、先進都市の発展に貢献する。	✓	✓		
東京 2020 組織委員会全体の持続可能性の取組に関する進捗を確認するために、モニタリング及び状況報告の仕組みを構築する。	✓			
持続可能性に係るコミュニケーションやエンゲージメント活動の一環として、持続可能性教育と持続可能性に対する意識啓発プログラムを策定する。	✓	✓		

第6章 アクション&レガシー

6.1 アクション&レガシープラン

東京 2020 大会は、単に 2020 年に東京で行われるスポーツの大会としてだけでなく、2020 年以降も含め、日本や世界全体に対し、スポーツ以外も含めた様々な分野でポジティブなレガシーを残す大会として成功させなければならない。そのためには、東京 2020 組織委員会のみならず、政府や東京都を含む地方公共団体、JOC・JPC 等のスポーツ団体、経済団体等のステークホルダーが、東京 2020 大会の成功に向けて「オールジャパン」体制で様々なアクションに取り組んでいかなければならない。

東京 2020 組織委員会は、多様なステークホルダーが連携して、レガシーを残すためのアクションを推進していくために、「スポーツ・健康」「街づくり・持続可能性」「文化・教育」「経済・テクノロジー」「復興・オールジャパン・世界への発信」の 5 本の柱ごとに、各ステークホルダーが一丸となって、計画当初の段階から包括的にアクションを進めていくこととした。

具体的には、これらの 5 本の柱ごとに「実務検討会議 (Working Team)」と「専門委員会 (Commission)」の 2 段階の会議を置く。

前者は、各ステークホルダーの実務担当者によって構成される会議であり、それぞれが具体的なアクションを提案する。後者は、主に専門家や有識者を中心として構成される会議で、ステークホルダーも参加し、実務検討会議で提案されたアクションに対して助言を加え、最終的には、2016 年から 2020 年までの具体的なアクションと 2020 年以降のレガシーを「アクション&レガシープラン」として 2016 年中期にとりまとめる。

各ステークホルダーは、2016 年のリオ・デ・ジャネイロ大会以降、それぞれプランに基づきアクションを本格化する。東京 2020 組織委員会は、以後、毎年 3 月に翌年度のアクションを中心にプランを更新し、アクションの成果や影響についても掲載していく。

アクションの成果であるレガシーについては、大会後のフォロー体制も含め、後に「レガシーレポート」としてとりまとめられる。

各ステークホルダーがレガシー&アクションプランに基づき、それぞれのアクションを推進し、大

会運営を成功させた暁には、東京大会のレガシーが様々な分野で継承されることになる。

16.2 プランに盛り込まれるレガシーとアクション

本項では、大会を成功させるためのアクションを、それを通じて実現、継承されるレガシーの方向性ごとに分類して例示した。

いずれもビジョン構築の過程で提案された東京大会によってつかみたい「Tomorrow」をベースとした現時点での例示であり、具体的な内容やどのステークホルダーが責任を持って実施していくのかについては、前項で述べた実務検討会議と専門委員会において、政府、東京都、JOC、JPC、経済団体等を交えて十分に論議し、アクション&レガシープランにおいて明確化していく。

6.2.2 街づくり・持続可能性

(1) 大会関連施設の有効活用

(アクションの例)

- ① 周辺地域の街づくりとの連携や大会後の有効活用を想定した大会関連施設の整備
- ② 仮設施設に用いられた資材、設備等の後利用の積極的な検討

(2) 誰もが安全で快適に生活できる街づくりの推進

(アクションの例)

- ① アクセシビリティを重視した競技施設や選手村の整備
- ② 交通機関や公共施設等のバリアフリー化の推進
- ③ 多言語対応の推進による外国人旅行者の言葉の壁の解消
- ④ 会場周辺等の道路、鉄道等の交通インフラや空港・港湾等の整備・充実
- ⑤ 会場周辺等における良好な景観、魅力ある公園、緑地や水辺等の保全・創出
- ⑥ 大会期間中の災害やテロ、サイバー攻撃等を想定した、官民一体となったセキュリティ体制の構築と治安基盤の強化
- ⑦ センター・コア・エリア内、競技会場周辺、主要駅周辺の道路、緊急輸送道路等の無電柱化の推進

(3) 大会を契機とした取組を通じた持続可能性の重要性の発信

(アクションの例)

- ① 3R (Reduce, Reuse, Recycle) の徹底や、燃料電池車、再生可能エネルギーといった環境技術の活用など大会の準備や運営への持続可能性の反映
- ② 大会での取組をモデルとした更なる省エネルギー化の推進
- ③ 路面温度の上昇を抑制する機能をもつ舗装の整備など、選手や観客への暑さ対策の推進
- ④ 水素などスマートエネルギーの導入に係る取組の推進

7 関連資料

References

(1) JOCスポーツ環境活動者一覧

JOC Activities Person of Sport and Environment

JOCスポーツ環境専門部会
<i>JOC Sport and Environment Commission</i>

平成 29 年 3 月現在

役職名	氏 名	所属
部会長 Chairman	野端 啓夫 Hiroo NOBATA	一般財団法人 全日本野球協会 Baseball Federation of Japan
副部会長 Vice_Chairman	山口 香 Kaori YAMAGUCHI	筑波大学 University of Tsukuba
部会員 Member	大津 克哉 Katsuya OTSU	公益財団法人 日本テニス協会 Japan Tennis Association
〃	風間 明 Akira KAZAMA	公益財団法人 日本陸上競技連盟 Japan Association of Athletics Federations
〃	鎌賀 秀夫 Hideo KAMAGA	公益財団法人 日本レスリング協会 Japan Wrestling Federation
〃	齋藤 由紀 Yuki SAITO	公益財団法人 日本水泳連盟 Japan Swimming Federation
〃	迫田 義人 Yoshito SAKOTA	公益財団法人 東京都バレーボール協会 Tokyo Volleyball Association
〃	田中 丈夫 Takeo TANAKA	公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 The Tokyo Organising Committee of the Olympic and Paralympic Games
〃	玉利 聡一 Toshikazu TAMARI	公益財団法人 日本サッカー協会 Japan Football Association
〃	永井 真美 Mami NAGAI	公益財団法人 日本セーリング連盟 Japan Sailing Federation
〃	西山 雄二 Yuji NISHIYAMA	横浜市市民局 Yokohama Civic Affairs Bureau
〃	松岡 修造 Shuzo MATSUOKA	IMG International Management Group LLC,
〃	宮下 純一 Junichi MIYASHITA	株式会社 ホリプロ Horipro Inc.
〃	宮沢 賢一 Kenichi MIYAZAWA	公益財団法人 全日本スキー連盟 Ski Association of Japan
〃	山崎 秀樹 Hideki YAMAZAKI	公益社団法人 日本トライアスロン連合 Japan Triathlon Union

本会加盟団体(スポーツ環境担当者)

National Federation

平成 29 年 3 月現在

競技団体	委員会名/役職/氏名	副委員長・委員会ほか	事務局
(公財) 日本陸上競技連盟	—	—	風間明 中村仁
(公財) 日本水泳連盟	スポーツ環境委員会 委員長/齋藤由紀	副委員長/— 委員/佐野和夫、泉正文、坂本要、鷺見全弘、 岩崎恭子、伊藤正明、山口善久、守谷雅之、江口和美、 原田由梨、草分容子、長谷川雪恵、有久暢、野原亨、 丸笹一郎、林正洋	小川知伸
(公財) 日本サッカー協会	社会貢献委員会 委員長/日比野克彦	副委員長/— 委員/村松邦子、高橋陽子、黒田かをり、赤羽真紀子	松田薫二 玉利聡一 川瀬みどり 福田哲郎 青地俊彦 吉久直子 早藤正規
(公財) 全日本スキー連盟	スポーツ環境委員会 委員長/宮沢賢一	副委員長/— 委員/—	宮沢賢一
(公財) 日本テニス協会	総務委員会 スポーツ環境担当 委員長/高橋甫	副委員長/浅井良樹 委員/大津克哉、千葉輝夫	大石英代
(公社) 日本ボート協会	安全・環境委員会 委員長/竹内浩	副委員長/— 委員/小澤哲史(アドバイザー)、 赤津杏奈(スタッフ)、興梠裕一(スタッフ)、尾崎英夫 (スタッフ)、栗林健太郎(スタッフ)	荻谷裕子
(公社) 日本ホッケー協会	総務委員会 環境部 委員長/瀧上正志	副委員長/馬場治男、宮田知 委員/野崎博典、一谷徹、濱田清二、渡邊俊介、 織井隆司	織井隆司
(一社) 日本ボクシング連盟	環境委員会 委員長/山根明	副委員長/吉森照夫 委員/山本浩二、内海祥子	内海祥子
(公財) 日本バレーボール協会	環境委員会 委員長/迫田義人	主事/吉江友秋 委員/大久保裕二、徳武聡、森田利雄	鍛冶良則
(公財) 日本体操協会	総務委員会 委員長/遠藤幸一	—	八木沢則子
(公財) 日本バスケットボール協会	—	—	向山悟
(公財) 日本スケート連盟	スポーツ環境委員会 委員長/鈴木民生	副委員長/浜野勉 委員/榊稔、畑則好、新田俊彦、本間康彦、富樫惣一、 山崎弘雄、久野千嘉子、加藤真弓、吉川敏彦	森村直樹
(公財) 日本アイスホッケー連盟	環境委員会 委員長/中村慎	副委員長/村上一元 委員/高橋昇士、木野内毅、小松正樹、佐々木史郎、 芳野俊、新屋清喜	建部彰弘
(公財) 日本レスリング協会	スポーツ環境委員会 委員長/鎌賀秀夫	副委員長/桑田信明 委員/真田栄作、本田原明、丹下一、森山加世子、 吉澤昌	鎌賀秀夫
(公財) 日本セーリング連盟	環境委員会 委員長/芝田崇行	副委員長/長嶋匡之 委員/青山篤(アドバイザー)、菊地透、三浦多満枝、 永井真美	大村雅一
(公社) 日本ウエイトリフティング協会	スポーツ環境委員会 委員長/守昌宏	副委員長/加納修 委員/後藤節哉、篠弘明、多小田一紀、小田敏郎	守昌宏
(公財) 日本ハンドボール協会	環境委員会 委員長/大橋則一	副委員長/兼子真 委員/家永昌樹、羽田裕一、村上隆	兼子真

競技団体	委員会名/役職/氏名	副委員長・委員会ほか	事務局
(公財) 日本自転車競技連盟	競技運営委員会 委員長/松倉 信裕	副委員長/飯田 太文 委 員/奥田 悦司、中村 雅章、早坂 和弘	白崎 孝紀
(公財) 日本ソフトテニス連盟	環境・教育プロジェクト 委員長/川島 登	副委員長/井上 光子 委 員/安藤 正美、木原 晴彦、林 昭文、林田 正信、 柳下 秋久、八木橋 勉、岡村 勝幸、金岡 昭房、林 研一	荒木 朋子
(公財) 日本卓球協会	環境委員会 委員長/鈴木 一雄	副委員長/宮本 勝典 委 員/小畑 幸生、五十嵐 久美子、藤崎 武司	登内 正吾
(公財) 全日本軟式野球連盟	環境担当委員会 委員長/中村 敏治	副委員長/西澤 茂芳、後藤 成弥、宗像 豊巳 委 員/-	吉岡 大輔
(公財) 日本相撲連盟	総務委員会 委員長/竹内 晋岸	副委員長/櫛原 利明 委 員/-	吉村 登
(公社) 日本馬術連盟	JOC スポーツ環境委員会 委員長/-	副委員長/- 委 員/長友 満則	手島 剛治
(公社) 日本フェンシング協会	環境委員会 委員長/中田 玲子	副委員長/河原塚 淳 委 員/加藤 晴英	中田 玲子
(公財) 全日本柔道連盟	-	-	-
(公財) 日本ソフトボール協会	スポーツ環境委員会 委員長/竹島 正隆	副委員長/- 委 員/-	久下 知宏
(公財) 日本バドミントン協会	総務本部 環境委員会 委員長/丹藤 勇一	副委員長/本多 修治 委 員/近岡 哲	本多 修治
(公財) 全日本弓道連盟	-	-	清水 政範
(公社) 日本ライフル射撃協会	総務委員会 委員長/松丸 喜一郎	副委員長/大野 明敏、田村 恒彦 委 員/-	佐藤 遙
(一財) 全日本剣道連盟	医・科学委員会 委員長/宮坂 信之	副委員長/- 委 員/秋山 知子、朝日 茂樹、越智 小枝、佐々木 健、 野見山 延、武藤 健一郎、森 伸雄	岩坂 守
(公社) 日本近代五種協会	環境委員会 委員長/長江 洋一	副委員長/野上等 委 員/-	長江 洋一
(公財) 日本ラグビーフットボール協会	総務委員会環境部門 委員長/高野 敬一郎	副委員長/- 委 員/児玉 隆一郎、岩上 教行、中嶋 一義、大山 高行、 小宮山 弘	橋 登紀子
(公社) 日本山岳・ スポーツクライミング協会	自然保護委員会 委員長/松隈 豊	副委員長/西山 常芳、堀江 伸子 委 員/田上 正敏、手塚 福寿、岩崎 繁夫、増田 修、 濱田 伸、小高 令子、廣田 博、小島 和徳、猪狩 ノブ、 紅葉 淳一、湯浅 達男、小林 貞幸、岡田 博之	松隈 豊
(公社) 日本カヌー連盟	環境対策委員会 委員長/原 悦代	副委員長/北川 浩正 委 員/-	岩上 禎宏 柳澤 恵子
(公社) 全日本アーチェリー連盟	スポーツ環境プロジェクト 委員長/溝井 利和	副委員長/- 委 員/宮崎 利帳、秦 浩太郎、新海 輝夫、工藤 潤一、 津田 正弘	溝井 利和
(公財) 全日本空手道連盟	環境委員会 委員長/有竹 隆佐	副委員長/日下 修次 委 員/三村 由紀、石田 航	石田 航
(公社) 全日本銃剣道連盟	環境委員会 委員長/鈴木 健	副委員長/片山 幸太郎 委 員/番匠 幸一郎、市野 保己、中村 真彦、佐藤 亨、 村井 敏夫、井島 大、矢野 満、津田 昌泰、井澤 継男、 竹下 利一、上村 正、松本 栄一郎	平本 梯子
(一社) 日本クレイ射撃協会	環境問題対策協議会 座長/高橋 義博	副委員長/- 委 員/上村 耕司、野口 省吾、見上 攻	大江 直之
(公財) 全日本なぎなた連盟	環境委員会 委員長/泉水 孝子	副委員長/千葉 眞弓 委 員/菅野 佳子、松井 亮子	田室 美知子

競技団体	委員会名/役職/氏名	副委員長・委員会ほか	事務局
(公財) 全日本ボウリング協会	総務委員会 普及・広報部会 部会長/松下 秀雄	副委員長/— 委 員/富山 幸美	宮内 久美子
(公社) 日本ボブスレー・ リュージュ・スケルトン連盟	—	—	—
(一財) 全日本野球協会	総務委員会 スポーツ環境部会 部会長/本郷 茂	—	柴田 穰
(特非) 日本スポーツ芸術協会	—	—	相原 茂明
(公社) 日本武術太極拳連盟	—	—	—
(公社) 日本カーリング協会	環境特別委員会 委員長/北田 一浩	副委員長/— 委 員/小川 豊和、宮越 武志、平間 初恵、 ジョンストン・テリー、楠井 悠平	楠井 悠平
(公社) 日本トライアスロン連合	事業企画委員会 (環境部会) リーダー/水畑 宏之	副委員長/山本 光宏、西沢 潤、関根 明子 委 員/篠田 雅司、朝岡 大輔、新井 康史、徳樹 孝志、 宮本 宏志、清本 直、横山 美紀子、滝川 満弘、沼田 英之、 中西 真知子、徳留 功一、星野 喜宣、楠 里紗、原田 佐希 アドバイザー/木下 貴之、松山 文人、関口 秀之	児玉 健太
(公財) 日本ゴルフ協会	—	—	—
(公社) 日本スカッシュ協会	環境委員会 委員長/宮城島 真知子	副委員長/神谷 典子 委 員/日向 孝知、潮木 仁、大根田 芳浩、小幡 博	神谷 典子
(公社) 日本ビリヤード協会	—	—	東仙 明彦
(公社) 日本ボディビル・ フィットネス連盟	環境委員会 委員長/岩崎 靖	副委員長/— 委 員/元木 俊博	岩崎 靖
(一社) 全日本テコンドー協会	総務委員会 委員長/牧野 文彦	副委員長/— 委 員/石井 嘉英、今枝 尚道	山下 諒
(公社) 日本ダンススポーツ連盟	環境委員会 委員長/岸尾 政弘	副委員長/— 委 員/鴻巣 久枝	—
(一社) 日本バイアスロン連盟	競技運営・環境委員会 委員長/二峰 良四男	副委員長/木村 豊悟、工藤 十九、山瀬 功 委 員/関 敏博、関 貴之、滝澤 健、小野 健治、井口 長治、 宮崎 秀樹、柴田 主税	山村 明
(一社) 日本サーフィン連盟	事業委員会 委員長/関口 嘉雄	—	清水 雅裕
(一社) 日本カバディ協会	環境委員会 委員長/河合 陽児	副委員長/林 佳子 委 員/高野 一裕、新田 晃千、高岡 真由子、金子 裕美	河合 陽児
(一社) 日本セパタクロー協会	環境委員会 委員長/菅野 瑞穂	副委員長/寺本 進 委 員/赤石 量也、中塚 智之	菅野 瑞穂
(特非) 日本クリケット協会	環境委員会 委員長/宮地 直樹	副委員長/本島 由起子 委 員/大鳥居 悠貴、宮地 直実	本島 由起子
(公社) 日本アメリカンフットボール 協会	—	—	—
(公社) 日本チアリーディング協会	環境委員会 委員長/久保田 友代	—	下地 隆
(公社) 日本オリエンテーリング協会	—	—	—
(公社) 日本パワーリフティング協会	—	—	澤 千代美
(公社) 日本ベタンク・プール連盟	—	—	—
(一社) 日本フライングディスク協会	環境委員会 委員長/角田 信彦	副委員長/— 委 員/松本 明恵	梅原 貴正

(2) IOC持続可能性とレガシー委員会

IOC Sustainability and Legacy Commission

Chair

Le Prince Souverain ALBERT II

Members

Beatrice ALLEN

Saria ESSAYAH

Tony ESTANGUET

Ivo FERRIANI

The Crown Prince FREDERIK OF DENMARK

Auvita RAPILLA

Sarah WALKER

Camilo AMADO

Inger ANDERSEN

Michel BARNIER

Christina FIGUERES

Stéphane GARELLI

Neil HAWKINS

Johnson JASSON

Kihong KIM

Matlohang MOILOA-RAMOQOPO

Miriam C. MOYO

Oshani PERERA

Holger PREUSS

Jean-Christophe ROLLAND

Sunil SABHARWAL

Gideon SAM

Erik SOLHEIM

Luzeng SONG

Sarah SPRINGMAN

Takeo TANAKA

Ana Paula TAVARES

Michael VESPER

Director in charge

Director of Corporate Development, Brand and Sustainability

2017年5月31日現在

(3) OCAスポーツと環境委員会

OCA Sports and Environment Committee

Chairman

Mr Kyung-Sun YU

Korea

Members

Mr Muhamadsho Abdulloev

Tajikistan

Mr Yasuhiro Nakamori

Japan

Mr Hussain RASHEED

Maldives

Mr Jeevan Ram SHRESTHA

Nepal

Mr Raja Wasim Ahmed

Pakistan

Mr R A K Jeewantha

Sri Lanka

Mr Khin Maung LWIN

Myanmar

Mr Mahmoud Mashhoun

I.R.Iran

Dr Tiras Odisho Anwaya BINNO

Iraq

Mr Baker Al Abadi

Jordan

2017年5月31日現在

(4) IOCスポーツと環境委員会小史

Brief History of IOC Sport and Environment Commission

1972年	札幌オリンピック冬季大会、恵庭ダウンヒルコース、競技終了後植林
1976年	デンバーオリンピック冬季大会開催返上(経済・環境問題) 1990年までIOCは環境保全団体からの抵抗運動を受けていた 1990年代当初、オリンピック・ムーブメントに環境保全を加えた(スポーツ・文化・環境)
1992年	バルセロナオリンピック大会時に「地球への誓い」全参加NOC署名
1994年	第12回オリンピック・コンGRESS(IOC創立100周年)でスポーツと環境分科会開催・パリ
1995年	IOCにスポーツと環境委員会設置 委員長 パル・シュミット 第1回IOCスポーツと環境世界会議開催・ローザンヌ
1996年	委員に就任 岡野俊一郎(1996-2001)、水野正人(1996-現在)
1997年	第2回IOCスポーツと環境世界会議開催・クウェート
1999年	第3回IOCスポーツと環境世界会議開催・リオデジャネイロ オリンピックムーブメントアジェンダ21採択
2001年	第4回IOCスポーツと環境世界会議開催・長野市 "GIVE THE PLANET A SPORTING CHANCE"
2002年	極東及び東アジア、第1回IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・北京
2003年	第5回IOCスポーツと環境世界会議開催・トリノ "PARTNERSHIPS FOR SUSTAINABLE DEVELOPMENT"
2004年	IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・ハバナ
2005年	極東及び東アジア、第2回IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・ドバイ 第6回IOCスポーツと環境世界会議開催・ナイロビ "SPORT, PEACE AND ENVIRONMENT"
2006年	IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・クアラルンプール IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・キングストン
2007年	第7回IOCスポーツと環境世界会議開催・北京 "FROM PLAN TO ACTION"
2008年	IOCスポーツと環境・アジア地域セミナー開催・インチョン IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・コロンビア
2009年	第8回IOCスポーツと環境世界会議開催・バンクーバー "INNOVATION AND INSPIRATION: HARNESSING THE POWER OF SPORT FOR CHANGE" IOCスポーツと環境賞制定 IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・サモア
2010年	IOCスポーツと環境委員会開催
2011年	第9回IOCスポーツと環境世界会議開催・ドーハ "PLAYING FOR A GREENER FUTURE" 第2回IOCスポーツと環境賞授賞式 (公財)日本水泳連盟「IOCスポーツと環境賞」を受賞
2012年	IOCスポーツと環境委員会開催
2013年	第10回IOCスポーツと環境世界会議開催・ソチ 第3回IOCスポーツと環境賞授賞式
2014年	「オリンピック・アジェンダ2020」第127次IOC総会で採択・モナコ
2015年	「IOCスポーツと環境委員会」を「IOC持続可能性とレガシー委員会」に名称変更 IOC持続可能性とレガシー委員会(Sustainability and Legacy Commission)開催・ローザンヌ
2016年	第2回IOC持続可能性とレガシー委員会

(5) JOCスポーツ環境専門部会小史

Brief history of the JOC sport and Environment Commission

平成13年度 (2001年)	JOCスポーツ環境委員会設置 委員長 水野正人、委員 石川徹男、櫻井孝次、 佐野和夫、瀬尾洋、早田卓次、平松純子、松岡 修造、森健兒 第4回IOCスポーツと環境世界会議主催・長野市 “GIVE THE PLANET A SPORTING CHANCE”	平成20年度 (2008年)	第5回スポーツと環境担当者会議・ナショナル トレーニングセンター 第1回OCAコンGRESS・クウェート 板橋一太スポーツ環境専門委員長からJOCの 活動を報告 第8回IOCスポーツと環境世界会議・バンクー バー 板橋一太スポーツ環境専門委員長出席
平成14年度 (2002年)	ファーストポスター、パンフレット作成 極東及び東アジア、第1回IOCスポーツと環境・ 地域セミナー・北京 参加	平成21年度 (2009年)	ポスター(8th)作成 平成20年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 第5回JOCスポーツと環境・地域セミナー・福 岡市 第6回スポーツと環境担当者会議・味の素ナシ ョナルトレーニングセンター
平成15年度 (2003年)	セカンドポスター作成 平成14年度スポーツ環境委員会調査研究報告書 作成 7月にISO14001認証登録、IOC加盟202NOCの中 で初めて 第5回IOCスポーツと環境世界会議開催・トリノ 佐野和夫スポーツ環境委員からJOCの活動を 報告 “PARTNERSHIPS FOR SUSTAINABLE DEVELOPMENT”	平成22年度 (2010年)	ポスター(9th)作成 平成21年度スポーツ環境専門委員会活動報告書 作成 第6回JOCスポーツと環境・地域セミナー・横 浜市 第7回スポーツと環境担当者会議・味の素ナシ ョナルトレーニングセンター
平成16年度 (2004年)	サードポスター作成 平成15年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 第1回スポーツと環境担当者会議開催・国立ス ポーツ科学センター (本会関係者、加盟団体、パートナー)	平成23年度 (2011年)	ポスター(10th)作成 平成22年度スポーツ環境専門委員会活動報告書 作成 第7回JOCスポーツと環境・地域セミナー・神 戸市 第8回スポーツと環境担当者会議・味の素ナシ ョナルトレーニングセンター (公財)日本水泳連盟が「IOCスポーツと環境賞」 を受賞
平成17年度 (2005年)	ジョイントポスター・パンフレット(第2版)作成 平成16年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 環境省の「チーム・マイナス6%」のメンバーと なる 第1回JOCスポーツと環境・地域セミナー開催・ 大阪市 第2回スポーツと環境担当者会議開催・国立ス ポーツ科学センター 第6回IOCスポーツと環境世界会議・ナイロビ 佐野スポーツ環境専門委員会副委員長から JOCの活動を報告	平成24年度 (2012年)	ポスター(11th)作成 平成23年度スポーツ環境専門部会報告書作成 第8回JOCスポーツと環境・地球セミナー・札幌 市 第9回スポーツと環境担当者会議・味の素ナシ ョナルトレーニングセンター
平成18年度 (2006年)	イラストポスター・横(5th)作成 平成17年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 ISO14001認証を更新登録 IOCスポーツと環境・アジア地域セミナー・ク アラ Lumpur 遠藤スポーツ環境専門委員からJOCの活動を 報告 第2回JOCスポーツと環境・地域セミナー開催・ 長野市 第3回スポーツと環境担当者会議開催・国立オ リンピック記念青少年総合センター	平成25年度 (2013年)	ポスター(12th)作成 平成24年度スポーツ環境専門部会報告書作成 第9回JOCスポーツと環境・地域セミナー・熊本 市 第10回スポーツと環境担当者会議・味の素ナシ ョナルトレーニングセンター
平成19年度 (2007年)	イラストポスター・縦(6th)作成 平成18年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 第3回JOCスポーツと環境・地域セミナー開催・ 東京都 第4回スポーツと環境担当者会議開催・国立ス ポーツ科学センター 第7回IOCスポーツと環境世界会議・北京 佐野スポーツ環境専門委員会副委員長から JOCの活動を報告 IOCスポーツと環境・アジア地域セミナー・イ ンチョン 鎌賀スポーツ環境専門委員・JOC及びNFの活 動を報告	平成26年度 (2014年)	平成25年度スポーツ環境専門部会報告書作成 第10回JOCスポーツと環境・地域セミナー・秋 田市 第11回スポーツと環境担当者会議・味の素ナシ ョナルトレーニングセンター
平成20年度 (2008年)	ポスター(7th)作成 平成19年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 IOCスポーツと環境競技別ガイドブック翻訳本 作成・同マニュアル・CD-ROM 第4回JOCスポーツと環境・地域セミナー・広 島市	平成27年度 (2015年)	ポスター(13th)作成 平成26年度スポーツ環境専門部会報告書作成 第11回JOCスポーツと環境・地球セミナー・帯 広市 第12回スポーツと環境担当者会議(総務委員会 フォーラム)・味の素ナショナルトレーニング センター
		平成28年度 (2016年)	平成27年度スポーツ環境専門部会報告書作成 第12回JOCスポーツと環境・地域セミナー・東 京都 第13回スポーツと環境担当者会議・味の素ナシ ョナルトレーニングセンター
		平成29年度 (2017年)	ポスター(14th)作成 平成28年度スポーツ環境専門部会報告書作成 第13回JOCスポーツと環境・地域セミナー・川 崎市(予定) 第14回スポーツと環境担当者会議・味の素ナシ ョナルトレーニングセンター(予定)

(6) オリンピック・アジェンダ2020 20+20の提言(抜粋)

OLYMPIC AGENDA 2020

提言 4：オリンピック競技大会のすべての側面に持続可能性を導入する

IOC は持続可能性に関して、より一層積極的な姿勢を取り、指導的な役割を担う。また、持続可能性がオリンピック競技大会の開催計画の策定と、開催運営のすべての側面に取り入れられることを保証する。

1. 持続可能性に関する戦略を前進させ、オリンピック競技大会の潜在的な開催都市と実際の大会開催都市を統合する。さらに、各都市のプロジェクトのあらゆる段階で、経済、社会、環境の各領域を包含する持続可能性の施策を設ける。
2. 組織運営全体で統合的な持続可能性の統治を最善なものとするため、新たに選定した大会組織委員会を支援する。
3. IOC は NOC と UMVO (World Union of Olympic City = オリンピック開催都市連合) などの外部の組織の支援を受け、オリンピック競技大会の遺産を確実に監視する。

提言 5 オリンピック・ムーブメントの日常業務に持続可能性を導入する

IOC は持続可能性の原則を導入する。

1. IOC は IOC の日々の業務活動に持続可能性を取り入れる。
 - ・ IOC は物品やサービスの調達、およびイベントの組織運営(大小の会議など)で持続可能性を取り入れる。
 - ・ IOC は移動による二酸化炭素排出量への影響を減少させる。
 - ・ IOC はローザンヌの本部統合に際し、可能な限り最善の持続可能性の基準を適用する。
2. IOC は以下の方法により、オリンピック・ムーブメントの関係者に対して各自の組織内に、またその業務活動に持続可能性を導入させ、その援助を行う。
 - ・ 勧告を推し進める。
 - ・ 成功事例やスコアカードなどのツールを提供する。
 - ・ オリンピック関係者間で情報交換するための仕組みを確実に提供する。
 - ・ 取り組みの実施を支援するため、オリンピック・ソリダリティーなど既存の手段を活用する。
3. 上記を実現するため、IOC は UNEP などの関連する専門組織と協力する。

平成28年度 JOC スポーツ環境専門部会 活動報告書

発行日：平成29年6月22日

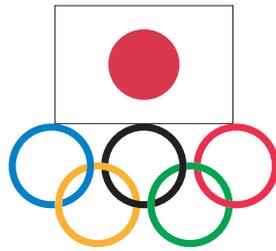
編集・発行：公益財団法人日本オリンピック委員会 スポーツ環境専門部会
〒150-8050 渋谷区神南1-1-1 岸記念体育会館内

URL：<http://www.joc.or.jp/eco/>

印刷：広研印刷株式会社

問い合わせ：公益財団法人日本オリンピック委員会 オリンピック・ムーブメント推進部

TEL：03-3481-2238 FAX：03-3481-2292



公益財団法人 日本オリンピック委員会